

SharpShooter Reports

ユーザーガイド

Last modified on: November 14, 2012

※本ドキュメント内のスクリーンショットは英語表記ですが SharpShooter Reports JP(日本語版)では日本語で表示されます。



目次

はじめに.....	4
テンプレートのオブジェクト.....	5
分類.....	5
バンド.....	5
ビジュアル オブジェクト.....	7
ユーザーガイド.....	9
テンプレート.....	9
ページ.....	12
オブジェクトの操作.....	17
オブジェクトのプロパティ.....	17
テキスト出力.....	39
リスト.....	45
グループ化.....	55
水平方向のリストと表.....	59
SideBySide バンド.....	61
ピボットテーブル.....	62
イメージ.....	69
シェープの使用.....	73
バーコード.....	76
Parameters	78
ハイパーリンクとレポートのナビゲーション.....	79
サブレポートの使用.....	83
Zip コード.....	89
マスターレポート.....	90
ウィザードを使ったレポートの作成.....	91
インターフェイス.....	105
タブ.....	105



コンテキスト タブ.....	113
アプリケーション メニュー	124
バインド バー	125
クイック アクセス ツールバー.....	126
コンテキスト メニュー.....	128
ドッキング.....	134
エディタ.....	137
ウィザード.....	152
ステータス バー	159
ホットキー.....	160



はじめに

このユーザーガイドでは、**SharpShooter Reports** を使用したさまざまなレポートテンプレートの作成/デザイン方法について詳しく説明しています。また、レポートのオブジェクトやそのプロパティ、使用方法に関する情報だけでなく、レポートデザイナー インターフェイスについての説明もごさいます。



テンプレートのオブジェクト

分類

レポート要素はすべて 2 つに分類できます。

バンド : DataBand、PageHeader、PageFooter、Header、Footer、GroupBand、PageOverlay、CrossBand、BandContainer、SideBySide、SubReport、Content、PivotTable

ビジュアルオブジェクト : TextBox、AdvancedText、Picture、Shape、ZipCode、BarCode、RichText、WinFormsControl

バンド

バンドは、他のオブジェクトのコンテナです。レポートには表示されず、バンドに格納されたオブジェクトの出力方法を定義します。バンドは他のバンドのコンテナとしても使われます。この場合、格納されたオブジェクトの出力方法はそのオブジェクトのコンテナバンドにすべて依存します。バンドの幅は変わらず、常にページ幅と同じになります。ページ上のオブジェクトの位置は、レポート生成時に定義され、レポートのバンド順、バンドの内容、Render グループのプロパティに依存します。

(参照 : [オブジェクトのプロパティ](#))

DataBand

格納されたオブジェクトを複数出力します。行はそれぞれデータソースの 1 レコードと一致します。データバンドのデータソースは DataSource プロパティで指定します。データソースが指定されていない場合は、InstanceCount プロパティに出力回数を設定します。

DataBand のコンテナとして使用可能なバンド : Page、DataBand、BandContainer、GroupBand、SideBySide

(DataBand を使ったリストの作成方法 : [データソースのリスト](#)を参照)

Detail

コンテナバンドのデータソースのデータにアクセスしたり、様々なバンドでビジュアル オブジェクトを出力したりするために使用します。Detail バンドの高さは、格納されたオブジェクトが表示されるように設定します。

Detail のコンテナとして使用可能なバンド : Page、DataBand、BandContainer、GroupBand、SideBySide

(Detail を使ったリストの作成方法 : [シンプルリスト](#)を参照)

PageHeader と PageFooter

ページの上部と下部に見出しを付けます。PageHeader/PageFooter はコンテナであり、最終レポートに組み込まれたオブジェクトの前後の間隔は、PageHeader/PageFooter からテンプレート内のバンドの上枠/下枠までの間隔で指定されます。PageHeader/PageFooter の位置は、最終レポートのオブジェクトの位置には影響を及ぼしません。

PageHeader と PageFooter のコンテナとして使えるのは Page だけです。

(見出しを使ったページのデザイン方法 : [ページの見出し](#)を参照)

Header と Footer

DataBand や GroupBand によって出力されるリストのページにヘッダーとフッターを作成します。Header の内容は、GroupBand によって出力されるリストの先頭または各グループの見出しに表示されます。Footer の内容は、リストまたはグループの末尾に表示されます。



Header と Footers のコンテナとして DataBand と GroupBand を使用できます。

(リストにヘッダーやフッターを表示する方法：[リストのヘッダー](#)と[グループヘッダー](#)を参照)

GroupBand

レポート生成時に計算される式に応じて、データをグループ化します。

DataBand や GroupBand は、GroupBand のコンテナとして使用できます。

(参照：[グループ化](#))

PageOverlay

ページの下層レイヤーを作成します。最終ドキュメントのページの先頭から格納されたオブジェクトまでの距離は、テンプレートの PageOverlay の上枠からのインデントにより設定されます。PageOverlay は、互いに重なり合うことが可能な他のオブジェクトの位置付けには何の影響も及ぼしません。

PageOverlay のコンテナとして使用できるのは Page だけです。

(PageOverlay を使ったページのデザイン方法：[ページの重ね合わせ](#)を参照)

CrossBand

格納されたオブジェクトを左から右方向の行として出力します。反復回数は InstanceCount プロパティか、データソースのレコード数で指定します。クロスバンドは表の作成に使用できます。

CrossBand のコンテナとして使用可能なバンド：Header、Footer、Detail

(参照：[水平方向のリストと表](#))

BandContainer

コンテンツを一度に出力します。様々な可変バンドを結合するために、複数のバンドを 1 つの結合された SideBySide にまとめるために使用します。

BandContainer のコンテナとして使用可能なバンド：Page、DataBand、BandContainer、GroupBand、SideBySide

SideBySide

さまざまなバンドのオブジェクトを並列出力にするために使用します。

SideBySide のコンテナとして使用可能なバンド：Page、DataBand、BandContainer、GroupBand、SideBySide

(参照：[SideBySide バンド](#))

SubReport

一緒に生成する、埋め込まれたレポートを追加できます。サブレポートとして使用するテンプレートから、バンド（例：DataBand、Detail など）だけが追加されます。

SubReport のコンテナとして使用可能なバンド：Page、DataBand、BandContainer、GroupBand、SideBySide

(参照：[サブレポートの使用](#))

Content

親レポートで使用します。このバンドは最終レポートのコンテンツを置く位置を指定します。

Content のコンテナとして使用可能なバンド：Page、DataBand、BandContainer、GroupBand、SideBySide

(参照：[マスターレポート](#))



PivotTable

静的なデータを基にしたクロスレポートや集計表の作成にも使用されます。**PivotTable** の使用結果は、上述の **CrossBand** のビジュアル表現を含んでいるレポート部分です。

クロス集計の特別なエディタを使用して、計算に使用するデータを指定できます。スクリプトを使用して、計算命令を作成できます。これは、データソースから複数のフィールドを合計することから、必要とするレポートにさまざまなグループ化を行うことまで、表の設定機能を提供します。

PivotTable のコンテナとして使用可能なバンド : **Page**、**DataBand**、**BandContainer**、**GroupBand**、**SideBySide**

(参照 : [ピボットテーブル](#))

ビジュアルオブジェクト

レポートでビジュアル表現を持ったオブジェクト。バンドに格納することにより位置を指定します。ビジュアルオブジェクトのサイズや表示/非表示はプロパティで指定します。

(参照 : [オブジェクトのプロパティ](#))

TextBox

テキスト情報を出力します。テキスト情報は、静的またはレポートの生成時に作成されます。

(参照 : [テキスト出力](#))

AdvancedText

データを書式付きのテキストとして出力します。段落やテキストスタイルを設定したり、記述したテキストに直接式を使用するオプションがあります。書式付きのテキストは、**HTML** のようなマークアップ言語や **RTF** 形式のサブセットを使用して設定できます。そのために書式付きテキストエディタを使用します。静的な **RTF** テキストを読み込みます。**AdvancedText** は、一部の **RTF** のサブセットのみサポートします。

(参照 : [書式付きテキスト](#))

Picture

イメージを出力します。ハードドライブまたはデータソースからイメージを読み込むことができます。

(参照 : [イメージ](#))

Shape

様々な幾何学的図形を出力します。

(参照 : [シェープの使用](#))

ZipCode

郵便番号を出力します。

(参照 : [Zip コード](#))

BarCode

様々なバーコード型を出力します。使用するバーコード型に応じて、設定がいくつかあります。

(参照 : [バーコード](#))

RichText

テキストを **RTF** 形式で出力します。エディタで **RTF** ファイルを選択できます。

(参照 : [RTF 形式のテキスト](#))



WinFormsControl

レポートに **WinFormsControl** コンポーネントを格納します。コントロールのイメージだけがレポートに格納されます（この機能は使用できません）。

ユーザーガイド

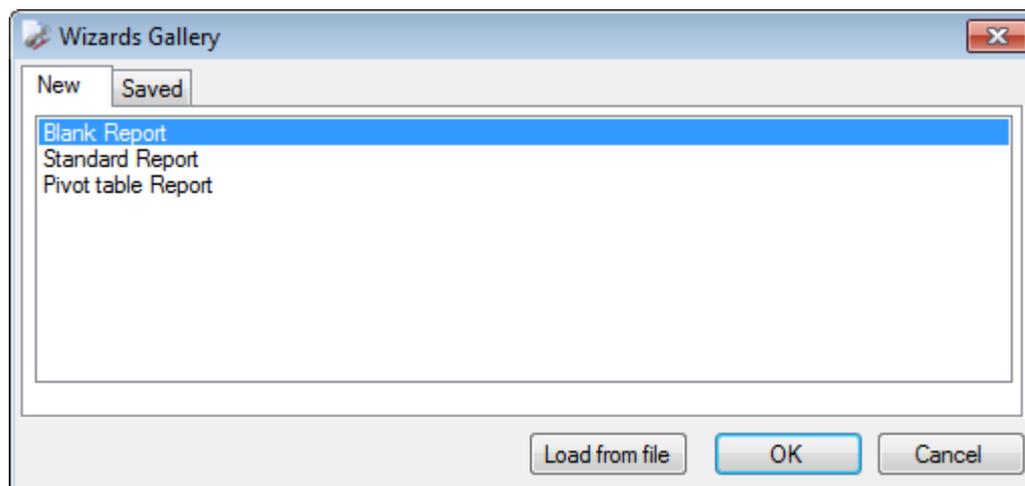
テンプレート

レポートテンプレートは、バンドやオブジェクトを含んでいる複数のページです。

テンプレートの制御

テンプレートの作成

メインメニューの [ファイル] -> [新規] を選択するか、ツールバーの「新規ドキュメント」ボタンを押すと、新しいテンプレートを作成するための [ウィザードギャラリー](#) が表示され、そこでテンプレートの作成方法を選択できます。



レポート	説明
白紙のレポート	白紙のテンプレートを作成します
標準のレポート	標準のテンプレート（リストまたはデータカード）を作成 するために スタンダードウィザード を開きます
ピボットテーブルレポート	ピボットテーブルレポートを作成 するために ピボットテーブルウィザード を開きます

テンプレートを開く

ダイアログ ウィンドウを開くには、メインメニューの [ファイル] -> [開く] を選択するか、ツールバーの「テンプレートを開く」ボタンを押してください。このウィンドウで、開きたいレポートを選択できます。また、Report Design アプリケーションに関連付けられている .rst テンプレートファイルをダブルクリックすることもできます。

テンプレートの保存

テンプレートを保存するには、メインメニューの [ファイル] -> [保存] を選択するか、ツールバーの「テンプレートの保存」ボタンを押してください。既にドキュメントが保存されている場合は同じファイルが変更されます。新しいテンプレートを編集する場合、テンプレートのフォルダとファイル名を選択する「テンプレートの保存」ダイアログウィンドウが表示されます。[ファイル] -> [名前を付けて保存] は常に「テンプレートの保存」ダイアログを開きます。

テンプレートの生成

テンプレートを生成するには、メインメニューの [レポート] -> [プレビュー] を選択するか、ツールバーの「プレビュー」ボタンを押してください。

テンプレートのプロパティ

プロパティグリッドでテンプレートのプロパティを設定できます。プロパティグリッドにテンプレートのプロパティを表示するには、オブジェクト一覧から **Document** を選択するか、クイックアクセスツールバーの「ドキュメントのプロパティ」を押してください。

イメージ設定

GraphicsSettings のグループには次のプロパティがあります。

プロパティ	説明
CompositingQuality	合成処理で使用する品質レベルを設定します
InterpolationMode	補間モードを設定します
SmoothingMode	スムージングモードを設定します
TextRenderingHint	テキストの表示モードを設定します

オブジェクトの表示とグリッド

ShowObjectBounds プロパティは、テンプレートにオブジェクトの境界を表示するかを設定できます。

プロパティ	レポートテンプレート
<input type="checkbox"/> Appearance <input checked="" type="checkbox"/> GraphicsSettings PerpetuumSoft.Reporting.DOM.G MasterReport ShowObjectBounds True	
<input type="checkbox"/> Appearance <input checked="" type="checkbox"/> GraphicsSettings PerpetuumSoft.Reporting.DOM.G MasterReport ShowObjectBounds False	

ShowGrid プロパティは、グリッドを表示するかを定義し、GridStep プロパティはグリッド間隔を設定します。

プロパティ	レポートテンプレート
<input type="checkbox"/> Grid Settings GridStep 0,25 cm ShowGrid False SnapToGrid True	
<input type="checkbox"/> Grid Settings GridStep 0,25 cm ShowGrid True SnapToGrid True	
<input type="checkbox"/> Grid Settings GridStep 0,5 cm ShowGrid True SnapToGrid True	

SnapToGrid プロパティは、オブジェクトの作成時やオブジェクトのサイズ/位置変更時にオブジェクトをグリッドに合わせるために使用します。

[ツールバー](#)のボタンを使用して、これらのプロパティを編集できます。

計測単位

MetricUnit プロパティは、テンプレート全体の計測単位の設定に使用します。



☐ Misc	
DataSources	(Collection)
Description	
MetricUnit	Centimeter <input type="button" value="v"/>
Parameters	Inch
Title	Millimeter
☐ Render	
StyleSheet	Pixel
☐ Script	
CommonScript	Point
CompilerVersion	Twip

テンプレートのデータソース

アプリケーションはデータソースになり得ますが、レポートデザイナーの **Document.DataSources** プロパティ（内蔵されたデータソースのコレクション）を使用して、現在のテンプレートのデータソースを設定できます。このプロパティを設定するには、[ドキュメントのデータソース](#) エディタを使用します。

テンプレートのパラメータ

Parameters コレクションを使用して、レポート パラメータを設定できます。

ページ

レポートテンプレートはページのセットです。各ページには、データを表示するオブジェクトが含まれています。規定の何も入っていないレポートにはページが 1 ページ含まれています。

ページのプロパティ

プロパティグリッドでページのプロパティを設定できます。プロパティグリッドにページのプロパティを表示するには、オブジェクト一覧で **Page** を選択してください。

ページサイズ

ページサイズを設定するには、**PaperKind** プロパティを使用します。このプロパティを使用して一般的な用紙サイズ（例：A4（デフォルト）、B5、レターなど）を選択できます。ページの向きを縦または横に設定できます。この場合、**Size** や **TemplateSize** プロパティは選択した用紙のサイズ設定を取得できます。尚、変更することはできません。

[-] Page Settings	
[-] CustomSize	0; 0 cm
[-] Margins	1; 1.2; 1.5; 1 cm
Orientation	Portrait
PaperKind	B4
[-] TemplateSize	25; 35,3 cm

ユーザー定義の用紙サイズを作成したい場合は、**PaperKind** プロパティの値を「Custom」にし、**CustomSize** プロパティの用紙サイズのパラメータを設定してください。

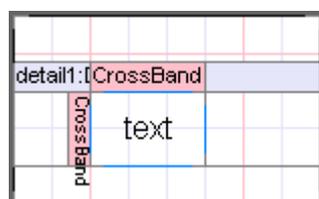
[-] Page Settings	
[-] CustomSize	5; 5 cm
X	5 cm
Y	5 cm
[-] Margins	1; 1.2; 1.5; 1 cm
Orientation	Portrait
PaperKind	Custom
[-] TemplateSize	5; 5 cm

ページの余白

ページの **Margins** プロパティは、ページの境界からバンド（コンテナ）に貼り付けたオブジェクトまでのインデントを設定します。**Margins** プロパティはページの余白を設定します。テンプレートでは、余白は赤線が表示されます。

ページの **Margins** プロパティの使用例：

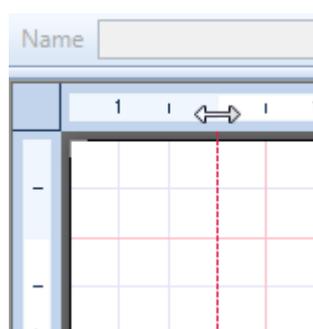
レポートテンプレート：



crossBand1.InstanceCount = 2

プロパティ	レポート																
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Page Settings</td></tr> <tr><td>CustomSize</td><td>0; 0 cm</td></tr> <tr><td>Margins</td><td>0.5; 0.5; 1; 1 cm</td></tr> <tr><td>Bottom</td><td>0.5 cm</td></tr> <tr><td>Left</td><td>1 cm</td></tr> <tr><td>Right</td><td>1 cm</td></tr> <tr><td>Top</td><td>0.5 cm</td></tr> <tr><td>Orientation</td><td>Portrait</td></tr> </table>	Page Settings		CustomSize	0; 0 cm	Margins	0.5; 0.5; 1; 1 cm	Bottom	0.5 cm	Left	1 cm	Right	1 cm	Top	0.5 cm	Orientation	Portrait	
Page Settings																	
CustomSize	0; 0 cm																
Margins	0.5; 0.5; 1; 1 cm																
Bottom	0.5 cm																
Left	1 cm																
Right	1 cm																
Top	0.5 cm																
Orientation	Portrait																
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Page Settings</td></tr> <tr><td>CustomSize</td><td>0; 0 cm</td></tr> <tr><td>Margins</td><td>0; 0; 1; 1 cm</td></tr> <tr><td>Bottom</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>Left</td><td>1 cm</td></tr> <tr><td>Right</td><td>1 cm</td></tr> <tr><td>Top</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>Orientation</td><td>Portrait</td></tr> </table>	Page Settings		CustomSize	0; 0 cm	Margins	0; 0; 1; 1 cm	Bottom	0 cm	Left	1 cm	Right	1 cm	Top	0 cm	Orientation	Portrait	
Page Settings																	
CustomSize	0; 0 cm																
Margins	0; 0; 1; 1 cm																
Bottom	0 cm																
Left	1 cm																
Right	1 cm																
Top	0 cm																
Orientation	Portrait																
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Page Settings</td></tr> <tr><td>CustomSize</td><td>0; 0 cm</td></tr> <tr><td>Margins</td><td>0; 0; 0; 0 cm</td></tr> <tr><td>Bottom</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>Left</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>Right</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>Top</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>Orientation</td><td>Portrait</td></tr> </table>	Page Settings		CustomSize	0; 0 cm	Margins	0; 0; 0; 0 cm	Bottom	0 cm	Left	0 cm	Right	0 cm	Top	0 cm	Orientation	Portrait	
Page Settings																	
CustomSize	0; 0 cm																
Margins	0; 0; 0; 0 cm																
Bottom	0 cm																
Left	0 cm																
Right	0 cm																
Top	0 cm																
Orientation	Portrait																

ルーラーを使用してページの Margins を変更できます。



ページスタイル

StyleName プロパティは、ページの全オブジェクトに統一したスタイルを設定できます。[スタイルシートエディタ](#)でスタイルを作成し、そのスタイルを **StyleName** プロパティにパラメータとして選択すると、ページに追加されたすべてのオブジェクトやバンドに規定値としてそのスタイルが設定されます。編集する時に個別にスタイルを変えなければ、ページの全オブジェクトにそのスタイルが適用されます。

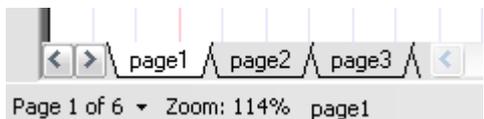
(参照 : [StyleName \(表示\)](#))



マルチページレポート

レポートに必要な分のページを追加できます（例：表紙付きのレポート）。用意されたレポートは、ページのテンプレートに従って作成されたレポートの組み合わせです。レポート部分はテンプレートのページ順に表示されます。

レポートにページを追加するには、[挿入] タブの「新規ページ」ボタンをクリックしてください。ページを削除すると、そのページに含まれているオブジェクトもすべて削除されます。レポートデザイナーの左下端のタブでページ間を移動できます。

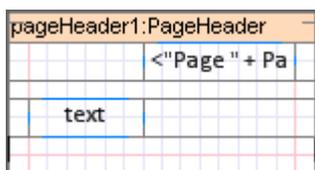


ページの見出し

PageHeader と PageFooter は、それぞれヘッダー/フッターを設定するために使用します。バンド内容は、ページのバンドの位置に関係なくページの上部/下部に表示されます。Mode プロパティは見出しの生成モード（全ページ、偶数/奇数ページ）を設定します。

ページの見出しの使用例：

レポートテンプレート：



textBoxPageHeader.Value = "Page " + PageNumber

Mode プロパティ	レポート										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>Mode</td><td>AllPages</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	Mode	AllPages	Visible	True	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
Mode	AllPages										
Visible	True										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>Mode</td><td>OddPages</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	Mode	OddPages	Visible	True	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
Mode	OddPages										
Visible	True										



Render	
CanGrow	False
CanShrink	False
Mode	EvenPages ▼
Visible	True

text

Page 2

text

ページ番号

PageNumber プロパティは、ページ番号を取得するために使用します。PageCount プロパティはレポートのページ総数を格納します。最初のパス時はページ総数はわからないので、PageCount プロパティは PageNumber プロパティと同じになります。PageCount プロパティがページ総数を取得するには、Document オブジェクトの DoublePass プロパティを "True" に設定してください。

ヘッダーにページ番号を表示する例：

```
dataBand1.InstanceCount = 3;
```

```
textBoxHeader.Value = "Page " + PageNumber.ToString() + " of " + PageCount.ToString();
```

```
textBoxDetail.Value = "Line Number " + dataBand1.LineNumber().ToString();
```

レポートテンプレート	レポート
pageHeader1:PageHeader <"Page " + PageNumber.ToString() + " of " + PageCount.ToString();	Page 1 of 2
dataBand1:DataBand detail1:Detail <"Line Number "	Line Number 1 Line Number 2
end of dataBand1	Page 2 of 2 Line Number 3

ページの重ね合わせ

PageOverlay は、背景にデータを表示しなければならない場合に使用します。オブジェクトの位置は、ページの PageOverlay の位置に関係なく、バンドの位置に従って計算されます。このバンドは他のバンドの位置には影響を及ぼしません。PageOverlay オブジェクトの上に他のバンドの内容が表示されます。

レポートテンプレート	レポート
pageOverlay1:PageOverlay text	text
pageOverlay1:PageOverlay text	text
pageOverlay1:PageOverlay text	text

Mode プロパティは、重ね合わせモード（全ページ、奇数/偶数ページ）を設定します。

オブジェクトの操作

オブジェクトの追加

オブジェクトを追加するには「挿入」タブを使用します。次に、マウスポインタをページに移動させ左クリックしてオブジェクトを追加します。あるバンドをクリックすると、プログラムはそのバンドにオブジェクトを挿入できるか確認します（詳細は利用可能なバンドコンテナを参照してください）。バンドにオブジェクトを挿入できる場合はテンプレートのバンドに追加されます。そうでなければエラーメッセージが表示されます。

出力したい項目をツールウィンドウのデータソース タブのデータツリーからテンプレートにドラッグアンドドロップすることにより、**TextBox** オブジェクトにデータソースのデータを出力できます。その場合、**TextBox.Value** プロパティは自動的に設定されます。

オブジェクトの削除

オブジェクトを削除する方法はいくつかあります。オブジェクトを左クリック（またはオブジェクト一覧またはツールウィンドウのドキュメントツリーからオブジェクトを選択）してキーボードの「Delete」ボタンを押します。バンドを削除すると、その中に格納されているオブジェクトもすべて削除されます。

オブジェクトのプロパティ

オブジェクトのプロパティは、[プロパティグリッド](#)を使用して設定できます。プロパティグリッドにプロパティを表示するには、テンプレートのオブジェクトを選択します。複数のオブジェクトを選択すると、プロパティグリッドに共通のプロパティが表示されます。

（参照：[オブジェクトのプロパティ](#)）

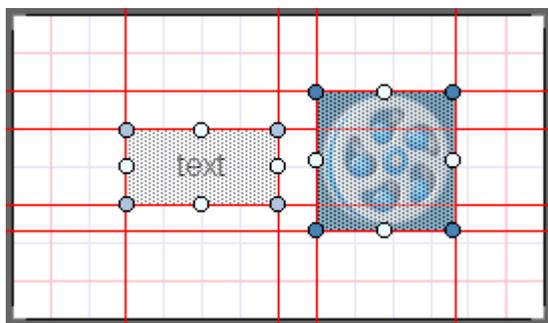
ドキュメントツリー

ドキュメントツリーには、ドキュメントの全オブジェクト一覧が含まれており、その構造を表します。[ドキュメントツリー](#)を使用して、オブジェクトを選択/削除したり、（オブジェクトを別のバンドにドラッグして）階層を変更したり、オブジェクトの順番を変更することができます。

オブジェクトの位置

テンプレートのオブジェクトの位置は **Size** プロパティで設定されます。2 つのオブジェクトが重なっている場合は前面のオブジェクトが表示されます。[編集/配列] メニューをクリックするか、ツールバーのボタンを使用してオブジェクトの順番を変更します。複数のオブジェクトをまとめて揃えるには、[整列エディタ](#)を使用します。

同じコンテナに含まれている複数のオブジェクトを **Shift** キーを押しながらマウスポインタで選択することにより一斉に位置を変更することができます。



キーボードのナビゲーションボタン（↑←↓→）を使って、オブジェクトの位置を変更できます。Ctrl キーを押したままナビゲーションボタンを使用すると、グリッドから外れた位置にオブジェクトを移動できます。

オブジェクトのプロパティ

オブジェクトのプロパティは、レポート生成時のオブジェクトの見た目や動作を定義します。オブジェクトのプロパティは[プロパティグリッド](#)で設定できます。プロパティグリッドにオブジェクトのプロパティを表示するには、テンプレート内のオブジェクトを左マウスボタンで選択するか、オブジェクト一覧から選択する必要

があります。プロパティの規定値は普通のフォントで表示され、編集したプロパティ値は太字で表示されます。複数のオブジェクトを選択するには **Shift** ボタンを押しながら選択します。その場合、プロパティグリッドには選択したオブジェクトの共通のプロパティが表示されます。オブジェクトのプロパティはすべて次のようなグループに分けられます。

グループ	説明
表示	オブジェクトの表示や見た目を定義するプロパティ
データ	データ処理を定義するプロパティ
デザイン	レポートデザイナーでテンプレートを編集する時に、オブジェクトの表示を定義するプロパティ
レイアウト	オブジェクトの位置やサイズを定義するプロパティ
その他	レポートで作成されたオブジェクトのプロパティ
Navigation (ナビゲーション)	レポートの ナビゲーションを作成する プロパティ
PageSetting (ページ設定)	ページのプロパティ
Render (生成)	レポート生成時のオブジェクトの動作命令を定義するプロパティ
Script (スクリプト)	スクリプト - オブジェクトの処理

Angle プロパティ (表示)

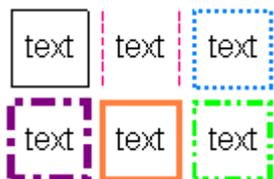
その領域に格納されているオブジェクトの回転角度を設定するために使用します。設定可能な値は 0、90、180、270 度です。Picture と TextBox オブジェクトに回転角度を設定した例：

プロパティ	レポート														
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">Appearance</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Angle</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Border</td> <td>Border</td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>[None]</td> </tr> <tr> <td>⊕ Margins</td> <td>0; 0; 0; 0 cm</td> </tr> <tr> <td>StyleName</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ToolTip</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Appearance		Angle	0	Border	Border	Fill	[None]	⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm	StyleName		ToolTip		 
Appearance															
Angle	0														
Border	Border														
Fill	[None]														
⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm														
StyleName															
ToolTip															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">Appearance</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Angle</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>Border</td> <td>Border</td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>[None]</td> </tr> <tr> <td>⊕ Margins</td> <td>0; 0; 0; 0 cm</td> </tr> <tr> <td>StyleName</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ToolTip</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Appearance		Angle	90	Border	Border	Fill	[None]	⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm	StyleName		ToolTip		 
Appearance															
Angle	90														
Border	Border														
Fill	[None]														
⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm														
StyleName															
ToolTip															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">Appearance</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Angle</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>Border</td> <td>Border</td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>[None]</td> </tr> <tr> <td>⊕ Margins</td> <td>0; 0; 0; 0 cm</td> </tr> <tr> <td>StyleName</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ToolTip</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Appearance		Angle	180	Border	Border	Fill	[None]	⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm	StyleName		ToolTip		 
Appearance															
Angle	180														
Border	Border														
Fill	[None]														
⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm														
StyleName															
ToolTip															

Border プロパティ (表示)

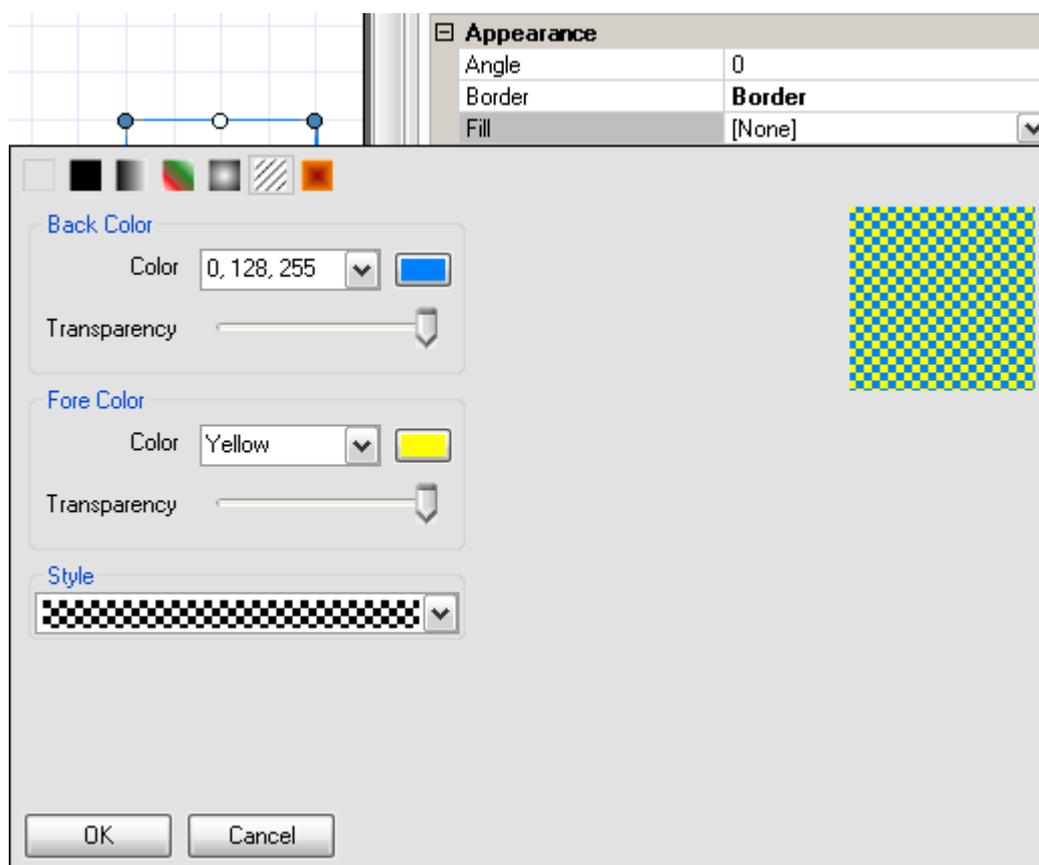
オブジェクトの枠の表示と線の描画スタイル ([枠エディタ](#)) - 線種、幅、色を設定します。

TextBox オブジェクトの枠の例 :

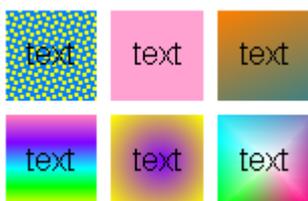


Fill プロパティ (表示)

オブジェクトの領域を塗りつぶす色やスタイルを設定します。このプロパティを変更するには、塗りつぶしエディタを使用して塗りつぶし型、色、透明度やその他のパラメータを設定できます。



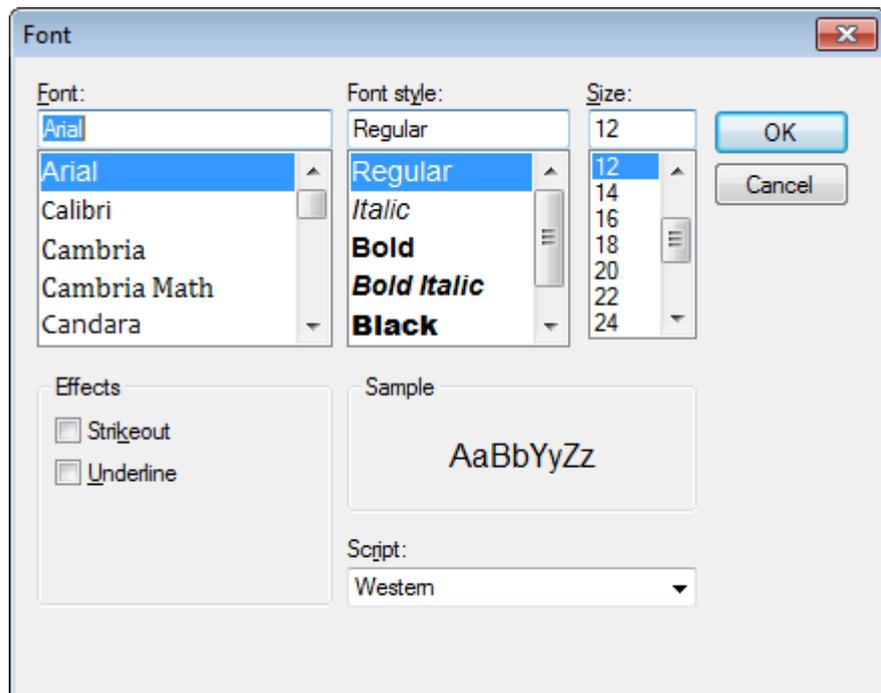
TextBox オブジェクトの塗りつぶしの使用例 :



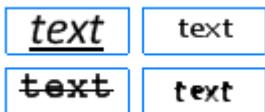


Font プロパティ (表示)

オブジェクトのフォント型を設定できます。プロパティを変更するためのフォントエディタがあります。それを使用して、フォント、フォントスタイル、サイズを設定できます。



TextBox オブジェクトのフォントの使用例 :



注意 : テキストを **AdvancedText** で出力し、フォントを書式付きテキストエディタで設定した場合、Font プロパティは無視されます。



Margins プロパティ (表示)

オブジェクトの余白を設定します。

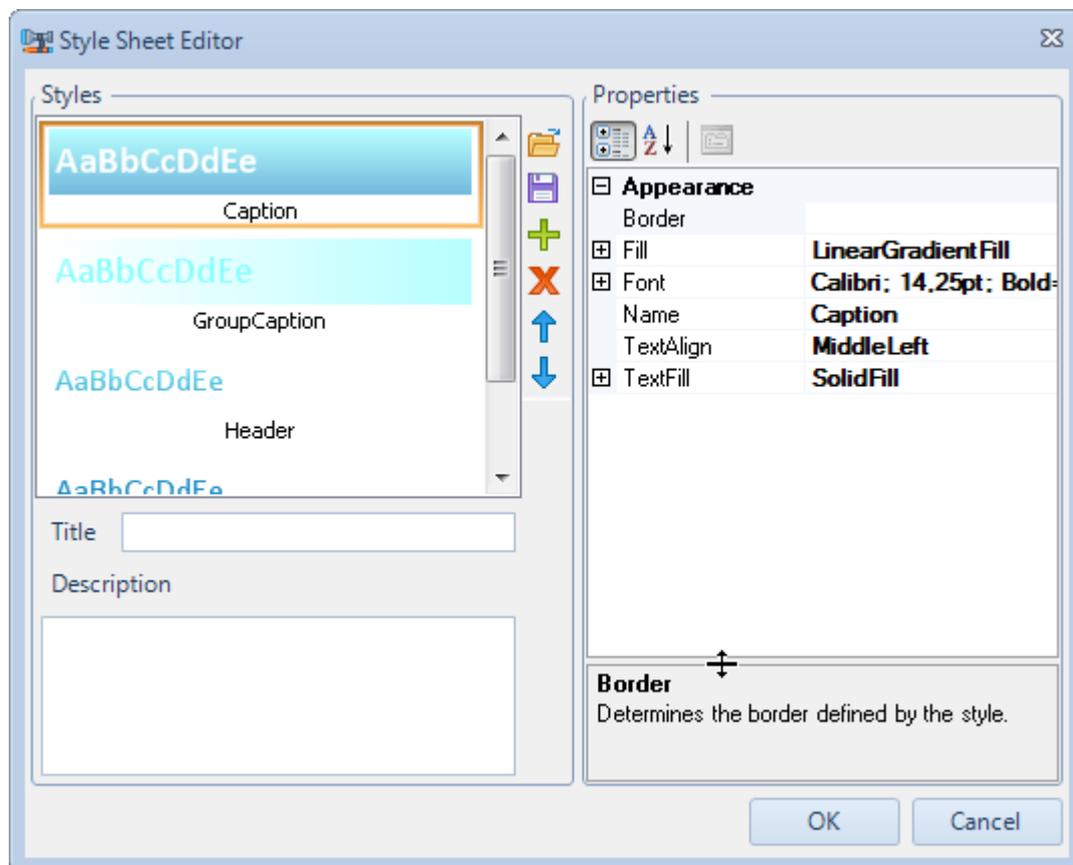
Picture オブジェクトの余白の変更例 :

プロパティ	レポート																						
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">Appearance</td> </tr> <tr> <td>Angle</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Border</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>[None]</td> </tr> <tr> <td>Image</td> <td> System.Drawing.Bitmap</td> </tr> <tr> <td>ImageAlign</td> <td>TopLeft</td> </tr> <tr> <td>Margins</td> <td>0; 0; 0; 0 cm</td> </tr> <tr> <td>Bottom</td> <td>0 cm</td> </tr> <tr> <td>Left</td> <td>0 cm</td> </tr> <tr> <td>Right</td> <td>0 cm</td> </tr> <tr> <td>Top</td> <td>0 cm</td> </tr> </table>	Appearance		Angle	0	Border		Fill	[None]	Image	 System.Drawing.Bitmap	ImageAlign	TopLeft	Margins	0; 0; 0; 0 cm	Bottom	0 cm	Left	0 cm	Right	0 cm	Top	0 cm	
Appearance																							
Angle	0																						
Border																							
Fill	[None]																						
Image	 System.Drawing.Bitmap																						
ImageAlign	TopLeft																						
Margins	0; 0; 0; 0 cm																						
Bottom	0 cm																						
Left	0 cm																						
Right	0 cm																						
Top	0 cm																						
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">Appearance</td> </tr> <tr> <td>Angle</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Border</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>[None]</td> </tr> <tr> <td>Image</td> <td> System.Drawing.Bitmap</td> </tr> <tr> <td>ImageAlign</td> <td>TopLeft</td> </tr> <tr> <td>Margins</td> <td>0,2; 0,2; 0,2; 0,2 cm</td> </tr> <tr> <td>Bottom</td> <td>0,2 cm</td> </tr> <tr> <td>Left</td> <td>0,2 cm</td> </tr> <tr> <td>Right</td> <td>0,2 cm</td> </tr> <tr> <td>Top</td> <td>0,2 cm</td> </tr> </table>	Appearance		Angle	0	Border		Fill	[None]	Image	 System.Drawing.Bitmap	ImageAlign	TopLeft	Margins	0,2; 0,2; 0,2; 0,2 cm	Bottom	0,2 cm	Left	0,2 cm	Right	0,2 cm	Top	0,2 cm	
Appearance																							
Angle	0																						
Border																							
Fill	[None]																						
Image	 System.Drawing.Bitmap																						
ImageAlign	TopLeft																						
Margins	0,2; 0,2; 0,2; 0,2 cm																						
Bottom	0,2 cm																						
Left	0,2 cm																						
Right	0,2 cm																						
Top	0,2 cm																						

StyleName プロパティ (表示)

1 つまたは複数のオブジェクトに既存のスタイルを適用して、オブジェクトのスタイルをすばやく編集します。

「ホーム」タブの「スタイルの編集」ボタンで[スタイルシートエディタ](#)を開きます。



スタイルを開いたり保存するには、「開く」や「保存」ボタンを使用します。ファイルは XML 形式で、ファイル名の拡張子は .rss になります。「スタイルの追加」や「スタイルの削除」ボタンは、スタイルを追加したり削除します。

スタイルの次のプロパティを使用できます。

プロパティ	説明
Border	オブジェクトの枠
Font	オブジェクトのテキストスタイル
Name	スタイル名
TextAlign	オブジェクトのテキストの位置合わせ
TextFill	オブジェクトのテキストの塗りつぶし

オブジェクトにこのスタイルを適用するには、必要とするスタイル名を **StyleName** プロパティのパラメータとして設定してください。

TextBox や Shape オブジェクトの StyleName プロパティの使用例 :

レポートテンプレート	作成したスタイル														
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">[-] Appearance</td> </tr> <tr> <td>Border</td> <td>Border</td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>LinearGradientFill</td> </tr> <tr> <td>Font</td> <td>Calibri; 20,25pt; Bold</td> </tr> <tr> <td>Name</td> <td>New Style</td> </tr> <tr> <td>TextAlign</td> <td>MiddleCenter</td> </tr> <tr> <td>TextFill</td> <td>LinearGradientFill</td> </tr> </table>	[-] Appearance		Border	Border	Fill	LinearGradientFill	Font	Calibri; 20,25pt; Bold	Name	New Style	TextAlign	MiddleCenter	TextFill	LinearGradientFill
[-] Appearance															
Border	Border														
Fill	LinearGradientFill														
Font	Calibri; 20,25pt; Bold														
Name	New Style														
TextAlign	MiddleCenter														
TextFill	LinearGradientFill														
プロパティ															
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">[-] Appearance</td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>[None]</td> </tr> <tr> <td>StyleName</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ToolTip</td> <td></td> </tr> </table>	[-] Appearance		Fill	[None]	StyleName		ToolTip								
[-] Appearance															
Fill	[None]														
StyleName															
ToolTip															
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">[-] Appearance</td> </tr> <tr> <td>Fill</td> <td>LinearGradientFill</td> </tr> <tr> <td>StyleName</td> <td>New Style</td> </tr> <tr> <td>ToolTip</td> <td></td> </tr> </table>	[-] Appearance		Fill	LinearGradientFill	StyleName	New Style	ToolTip								
[-] Appearance															
Fill	LinearGradientFill														
StyleName	New Style														
ToolTip															

注意 1 : スタイルをコンテナに適用すると、含まれているオブジェクトすべてに適用されます。オブジェクトのプロパティ値が規定値（つまり、手動で変更していない場合）の場合のみ、そのスタイルが持っているのと同じ値を取得します。規定値ではない値は太字で表示されます。

注意 2 : AdvancedText で出力されるテキストとフォントが書式付きテキストエディタで設定された場合、Font プロパティは無効となります。

TextAlign プロパティ (表示)

オブジェクトの領域に応じてテキストを配置します。

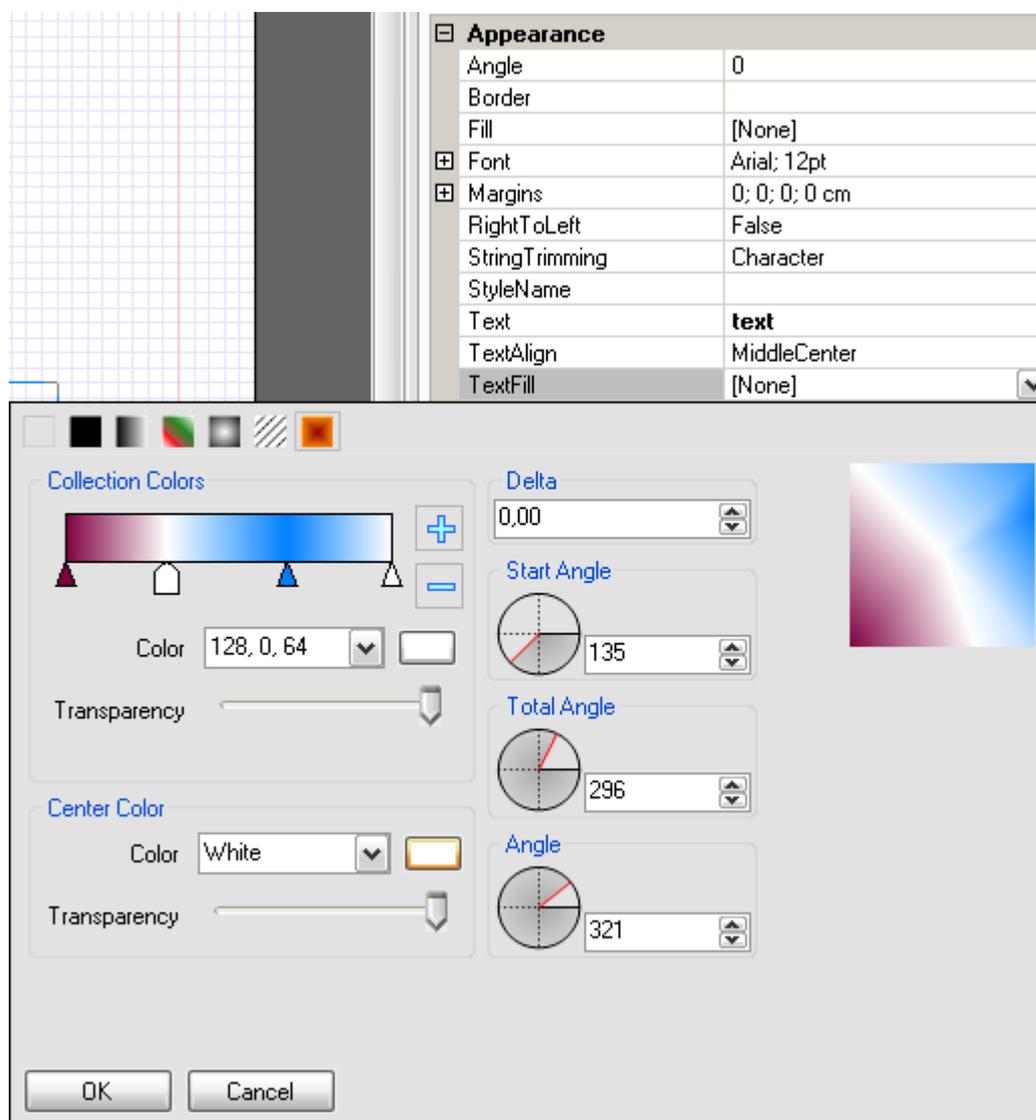
TextBox オブジェクトの配置例 :

プロパティ	レポート												
<table border="1"> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>Text</td><td>text</td></tr> <tr><td>TextAlign</td><td>TopLeft</td></tr> <tr><td>TextFill</td><td>[None]</td></tr> <tr><td>TextFormat</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td></td></tr> </table>	StyleName		Text	text	TextAlign	TopLeft	TextFill	[None]	TextFormat		ToolTip		
StyleName													
Text	text												
TextAlign	TopLeft												
TextFill	[None]												
TextFormat													
ToolTip													
<table border="1"> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>Text</td><td>text</td></tr> <tr><td>TextAlign</td><td>MiddleCenter</td></tr> <tr><td>TextFill</td><td>[None]</td></tr> <tr><td>TextFormat</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td></td></tr> </table>	StyleName		Text	text	TextAlign	MiddleCenter	TextFill	[None]	TextFormat		ToolTip		
StyleName													
Text	text												
TextAlign	MiddleCenter												
TextFill	[None]												
TextFormat													
ToolTip													
<table border="1"> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>Text</td><td>text</td></tr> <tr><td>TextAlign</td><td>BottomRight</td></tr> <tr><td>TextFill</td><td>[None]</td></tr> <tr><td>TextFormat</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td></td></tr> </table>	StyleName		Text	text	TextAlign	BottomRight	TextFill	[None]	TextFormat		ToolTip		
StyleName													
Text	text												
TextAlign	BottomRight												
TextFill	[None]												
TextFormat													
ToolTip													

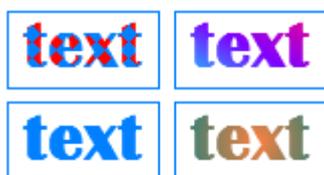
TextFill プロパティ (表示)

テキストの塗りつぶしを設定します。

塗りつぶしエディタで塗りつぶしのプロパティを設定します。塗りつぶし型、色、透明度、その他のパラメータを取得できます。



TextBox オブジェクトのテキストの塗りつぶし例 :



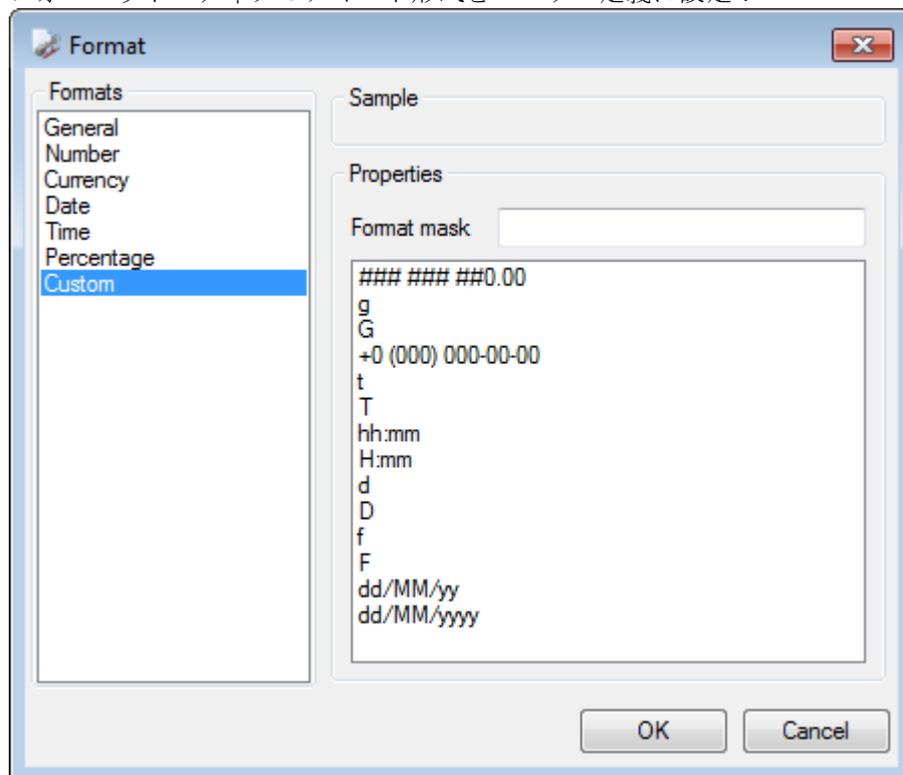
注意 : AdvancedText に出力するテキストやフォントが書式付きテキストエディタで設定された場合、Font プロパティは無視されます。



TextFormat プロパティ (表示)

テキストを設定した形式 (数値、通貨、日付、時刻、パーセント) に変更します。ユーザー定義の形式も作成できます。

フォーマットエディタのテキスト形式をユーザー定義に設定 :



Textbox オブジェクトに使用したテキスト形式の例 :

プロパティ		レポート
StyleName		
Text	34.5	£34.50
TextAlign	MiddleCenter	
TextFill	[None]	
TextFormat	Currency	
ToolTip		
StyleName		
Text	02.17.2010	17 February 2010
TextAlign	MiddleCenter	
TextFill	[None]	
TextFormat	Date	
ToolTip		
StyleName		
Text	123456	123,456.00
TextAlign	MiddleCenter	
TextFill	[None]	
TextFormat	Number	
ToolTip		

ToolTip プロパティ (表示)

オブジェクトにマウスポインタを置いた時に表示されるヒントを作成します。

Shape オブジェクトでのツールチップの使用例 :

プロパティ	レポート														
<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Appearance</td></tr> <tr><td>Fill</td><td>ConicalFill</td></tr> <tr><td>Line</td><td>0 Solid Black</td></tr> <tr><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>ShapeStyle</td><td>StarShape</td></tr> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td>StarShape</td></tr> </table>	[-] Appearance		Fill	ConicalFill	Line	0 Solid Black	Shadow	Shadow	ShapeStyle	StarShape	StyleName		ToolTip	StarShape	
[-] Appearance															
Fill	ConicalFill														
Line	0 Solid Black														
Shadow	Shadow														
ShapeStyle	StarShape														
StyleName															
ToolTip	StarShape														

Tag プロパティ (データ)

ユーザーが作成したオブジェクトに追加情報を持たせることができます。

タグの使用例 :

[-] Data	
Tag	additional information

Name プロパティ (デザイン)

オブジェクトの名前を設定します。すべてのオブジェクト名は一意でなければなりません。

BandContainer に名前を設定 :

Properties	
newName BandContainer	
[-] Appearance	
StyleName	Normal
ToolTip	
[-] Data	
Tag	
[-] Design	
Name	newName
ShowCaption	True

ShowBottom プロパティ (デザイン)

デザイナーでバンド下部の境界線を表示/非表示に設定できます。

DataBand の ShowBottom プロパティの使用例 :

プロパティ	レポート								
<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Design</td></tr> <tr><td>Name</td><td>dataBand2</td></tr> <tr><td>ShowBottom</td><td>True</td></tr> <tr><td>ShowCaption</td><td>True</td></tr> </table>	[-] Design		Name	dataBand2	ShowBottom	True	ShowCaption	True	
[-] Design									
Name	dataBand2								
ShowBottom	True								
ShowCaption	True								
<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Design</td></tr> <tr><td>Name</td><td>dataBand2</td></tr> <tr><td>ShowBottom</td><td>False</td></tr> <tr><td>ShowCaption</td><td>True</td></tr> </table>	[-] Design		Name	dataBand2	ShowBottom	False	ShowCaption	True	
[-] Design									
Name	dataBand2								
ShowBottom	False								
ShowCaption	True								

ShowCaption プロパティ (デザイン)

デザイナーモードでのバンドのヘッダー部分の表示/非表示を設定します。

DataBand の ShowCaption プロパティの使用例：

プロパティ	レポート								
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Design</td></tr> <tr><td>Name</td><td>dataBand2</td></tr> <tr><td>ShowBottom</td><td>True</td></tr> <tr><td>ShowCaption</td><td>True</td></tr> </table>	Design		Name	dataBand2	ShowBottom	True	ShowCaption	True	
Design									
Name	dataBand2								
ShowBottom	True								
ShowCaption	True								
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Design</td></tr> <tr><td>Name</td><td>dataBand2</td></tr> <tr><td>ShowBottom</td><td>False</td></tr> <tr><td>ShowCaption</td><td>True</td></tr> </table>	Design		Name	dataBand2	ShowBottom	False	ShowCaption	True	
Design									
Name	dataBand2								
ShowBottom	False								
ShowCaption	True								

Location プロパティ (レイアウト)

コンテナに対するオブジェクトの左上端の位置を設定します。

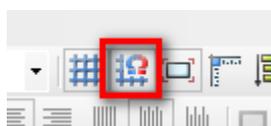
オブジェクトの位置は、マウスポインタまたはプロパティグリッドで変更できます。

Shape オブジェクトの位置変更例：

プロパティ	レポート												
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Layout</td></tr> <tr><td colspan="2">Location</td></tr> <tr><td>X</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>Y</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td colspan="2">Size</td></tr> <tr><td></td><td>2; 2 cm</td></tr> </table>	Layout		Location		X	0 cm	Y	0 cm	Size			2; 2 cm	
Layout													
Location													
X	0 cm												
Y	0 cm												
Size													
	2; 2 cm												
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Layout</td></tr> <tr><td colspan="2">Location</td></tr> <tr><td>X</td><td>1 cm</td></tr> <tr><td>Y</td><td>1 cm</td></tr> <tr><td colspan="2">Size</td></tr> <tr><td></td><td>2; 2 cm</td></tr> </table>	Layout		Location		X	1 cm	Y	1 cm	Size			2; 2 cm	
Layout													
Location													
X	1 cm												
Y	1 cm												
Size													
	2; 2 cm												

注意 1：X 座標は 0 と等しいので変更できません。

注意 2：「グリッドに合わせる」オプションは、マウスポインタで位置を変更する時にオブジェクトをグリッドに合わせるかどうかを定義します。ツールバーの下図のボタンをクリックしてこのオプションを切り替えてください。



Size プロパティ (レイアウト)

オブジェクトのサイズを設定します。

このプロパティは、オブジェクトの枠をマウスポインタまたはプロパティグリッドから移動する時にサイズを変更します。

Shape オブジェクトのサイズ変更例：

プロパティ	レポート										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Layout</td></tr> <tr><td>Location</td><td>1; 1 cm</td></tr> <tr><td>Size</td><td>2; 2 cm</td></tr> <tr><td> X</td><td>2 cm</td></tr> <tr><td> Y</td><td>2 cm</td></tr> </table>	Layout		Location	1; 1 cm	Size	2; 2 cm	X	2 cm	Y	2 cm	
Layout											
Location	1; 1 cm										
Size	2; 2 cm										
X	2 cm										
Y	2 cm										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Layout</td></tr> <tr><td>Location</td><td>1; 1 cm</td></tr> <tr><td>Size</td><td>1; 1 cm</td></tr> <tr><td> X</td><td>1 cm</td></tr> <tr><td> Y</td><td>1 cm</td></tr> </table>	Layout		Location	1; 1 cm	Size	1; 1 cm	X	1 cm	Y	1 cm	
Layout											
Location	1; 1 cm										
Size	1; 1 cm										
X	1 cm										
Y	1 cm										

注意 1：バンドの X 座標が 0 と等しいので、変わりません。

注意 2：「グリッドに合わせる」は、オブジェクトの位置を変更する時にグリッドに合わせるか定義します。このオプションの切り替えには「グリッドに合わせる」ボタンを使用してください。

CanBreak プロパティ (Render)

オブジェクトがページサイズを超えた場合にオブジェクトの内容をページ分割します。

Detail と AdvancedText オブジェクトの CanBreak プロパティの例：

プロパティ	レポート												
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanBreak</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>GrowToBottom</td><td>False</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanBreak	False	CanGrow	True	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	True	<p>dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed diam nonummy nibh euismod tincidunt ut laoreet dolore magna aliquam erat volutpat. Ut wisi enim ad</p>
Render													
CanBreak	False												
CanGrow	True												
CanShrink	False												
GrowToBottom	False												
Visible	True												
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanBreak</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>GrowToBottom</td><td>False</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanBreak	True	CanGrow	True	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	True	<p>dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed diam nonummy nibh euismod tincidunt ut laoreet dolore magna aliquam erat volutpat. Ut wisi enim ad</p> <p>minim veniam, quis nostrud exercitation ullamcorper suscipit lobortis nisl ut aliquip ex ea commodo consequat. Duis autem vel eum iriure dolor in</p>
Render													
CanBreak	True												
CanGrow	True												
CanShrink	False												
GrowToBottom	False												
Visible	True												

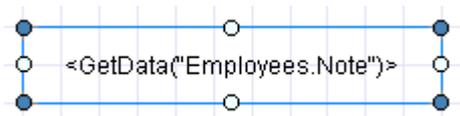
注意：別のセクションに貼り付けたオブジェクトの CanBreak プロパティを設定する場合、その内容をページ分割するには、コンテナバンドに CanBreak プロパティを設定しなければなりません。

CanGrow プロパティ (Render)

コンテンツがテンプレートのオブジェクトに指定したサイズに収まりきらない場合にオブジェクトの高さを大きくします。

TextBox オブジェクトの CanGrow プロパティの使用例

レポートテンプレート :



プロパティ	レポート										
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">Render</td> </tr> <tr> <td>CanGrow</td> <td>False</td> </tr> <tr> <td>CanShrink</td> <td>False</td> </tr> <tr> <td>GrowToBottom</td> <td>False</td> </tr> <tr> <td>Visible</td> <td>True</td> </tr> </table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	True	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> Education includes a BA in psychology from Colorado State Uni </div>
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
GrowToBottom	False										
Visible	True										
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">Render</td> </tr> <tr> <td>CanGrow</td> <td>True</td> </tr> <tr> <td>CanShrink</td> <td>False</td> </tr> <tr> <td>GrowToBottom</td> <td>False</td> </tr> <tr> <td>Visible</td> <td>True</td> </tr> </table>	Render		CanGrow	True	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	True	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> Education includes a BA in psychology from Colorado State University in 1970. She also completed The Art of the Cold Call. Nancy is a member of Toastmasters International. </div>
Render											
CanGrow	True										
CanShrink	False										
GrowToBottom	False										
Visible	True										

注意：別のバンド内のオブジェクトの **CanGrow** プロパティを設定し、そのオブジェクトの高さに応じてコンテナバンドの高さを変えるには、コンテナバンドの **CanGrow** プロパティも設定しなければなりません。

CanShrink プロパティ (Render)

レポート生成時に挿入されたコンテンツがコンテナのサイズよりも小さい場合にオブジェクトの高さを小さくします。

TextBox オブジェクトの CanShrink プロパティの使用例

レポートテンプレート :

```
<GetData  
("Employee  
s.Employee  
eName")>
```

プロパティ	レポート										
<table border="1"><thead><tr><th colspan="2">Render</th></tr></thead><tbody><tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr><tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr><tr><td>GrowToBottom</td><td>False</td></tr><tr><td>Visible</td><td>True</td></tr></tbody></table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	True	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
GrowToBottom	False										
Visible	True										
<table border="1"><thead><tr><th colspan="2">Render</th></tr></thead><tbody><tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr><tr><td>CanShrink</td><td>True</td></tr><tr><td>GrowToBottom</td><td>False</td></tr><tr><td>Visible</td><td>True</td></tr></tbody></table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	True	GrowToBottom	False	Visible	True	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	True										
GrowToBottom	False										
Visible	True										

注意 : 別のバンド内のオブジェクトの **CanShrink** プロパティを設定し、そのオブジェクトの高さに応じてコンテナの高さを変更するには、コンテナバンドの **CanShrink** プロパティも設定しなければなりません。



MinSpaceAfter プロパティ (Render)

バンドの下枠からページの下端領域までの最小間隔を設定します。

Detail の MinSpaceAfter を使用したリストの表示例 :

レポートテンプレート :

```
dataBand1:DataBand DataSource = Em
detail1:Detail
<dataBand1
  ("EmployeeName")>
end of dataBand1
```

プロパティ		レポート
CanGrow	False	
CanShrink	False	
MinSpaceAfter	0,75 cm	
NewColumnAfter	False	

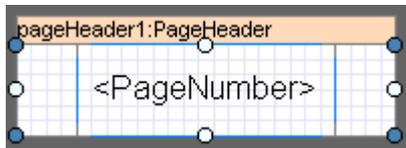


Mode プロパティ(Render)

見出しや重ね合わせに設定でき、オブジェクトを奇数、偶数、全ページに表示するかを定義できます。

ページヘッダーの Mode プロパティの使用例

レポートテンプレート :



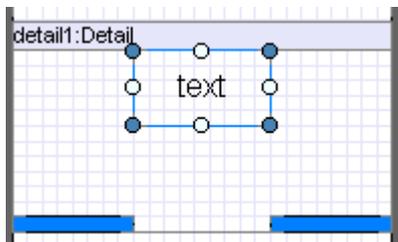
プロパティ	レポート										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>Mode</td><td>AllPages</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	Mode	AllPages	Visible	True	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
Mode	AllPages										
Visible	True										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>Mode</td><td>OddPages</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	Mode	OddPages	Visible	True	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
Mode	OddPages										
Visible	True										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>Mode</td><td>EvenPages</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	Mode	EvenPages	Visible	True	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
Mode	EvenPages										
Visible	True										

GrowToBottom プロパティ (Render)

オブジェクトをコンテナバンドの下枠まで引き伸ばします。

TextBox.GrowToBottom プロパティの使用例

レポートテンプレート :



プロパティ	レポート										
<table border="1"><thead><tr><th colspan="2">Render</th></tr></thead><tbody><tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr><tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr><tr><td>GrowToBottom</td><td>False</td></tr><tr><td>Visible</td><td>True</td></tr></tbody></table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	True	<p>The report preview shows a text box labeled 'text' in a container. The text box is not stretched to the bottom of the container, consistent with the 'GrowToBottom' property being set to False.</p>
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
GrowToBottom	False										
Visible	True										
<table border="1"><thead><tr><th colspan="2">Render</th></tr></thead><tbody><tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr><tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr><tr><td>GrowToBottom</td><td>True</td></tr><tr><td>Visible</td><td>True</td></tr></tbody></table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	GrowToBottom	True	Visible	True	<p>The report preview shows a text box labeled 'text' in a container. The text box is stretched to the bottom of the container, consistent with the 'GrowToBottom' property being set to True.</p>
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
GrowToBottom	True										
Visible	True										



NewColumnAfter プロパティ (Render)

バンド内容の後に新しい列を追加するかを設定します。

Detail の内容の後に新しい列を追加する例:

レポートテンプレート :

```

dataBand3:DataBand DataSource = Em
detail3:Detail
  <dataBand3
  ("EmployeeNa
   me")>
end of dataBand3

```

プロパティ	レポート																				
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanBreak</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>True</td></tr> <tr><td>MinSpaceAfter</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>NewColumnAfter</td><td>False <input type="button" value="v"/></td></tr> <tr><td>NewColumnBefore</td><td>False</td></tr> </table>	Render		CanBreak	False	CanGrow	True	CanShrink	True	MinSpaceAfter	0 cm	NewColumnAfter	False <input type="button" value="v"/>	NewColumnBefore	False	<table border="1"> <tr> <td>Nancy Davolio</td> <td>Steven Buchana</td> </tr> <tr> <td>Andrew Fuller</td> <td>Anne Laura Callahan</td> </tr> <tr> <td>Dodsworth</td> <td>Anne Yorke</td> </tr> </table>	Nancy Davolio	Steven Buchana	Andrew Fuller	Anne Laura Callahan	Dodsworth	Anne Yorke
Render																					
CanBreak	False																				
CanGrow	True																				
CanShrink	True																				
MinSpaceAfter	0 cm																				
NewColumnAfter	False <input type="button" value="v"/>																				
NewColumnBefore	False																				
Nancy Davolio	Steven Buchana																				
Andrew Fuller	Anne Laura Callahan																				
Dodsworth	Anne Yorke																				
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanBreak</td><td>False</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>True</td></tr> <tr><td>MinSpaceAfter</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>NewColumnAfter</td><td>True <input type="button" value="v"/></td></tr> <tr><td>NewColumnBefore</td><td>False</td></tr> </table>	Render		CanBreak	False	CanGrow	True	CanShrink	True	MinSpaceAfter	0 cm	NewColumnAfter	True <input type="button" value="v"/>	NewColumnBefore	False	<table border="1"> <tr> <td>Nancy Davolio</td> <td>Andrew Fuller</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>Anne Dodsworth</td> <td>Steven Buchana</td> </tr> </table>	Nancy Davolio	Andrew Fuller			Anne Dodsworth	Steven Buchana
Render																					
CanBreak	False																				
CanGrow	True																				
CanShrink	True																				
MinSpaceAfter	0 cm																				
NewColumnAfter	True <input type="button" value="v"/>																				
NewColumnBefore	False																				
Nancy Davolio	Andrew Fuller																				
Anne Dodsworth	Steven Buchana																				



NewColumnBefore プロパティ (Render)

バンドの内容の前に新しい列を追加するかを設定します。

Detail (detail4) の内容の前に新しい列を追加する例 :

レポートテンプレート :

```

dataBand3:DataBand DataSource = Em
detail4:Detail
<dataBand3("E
detail3:Detail
<dataBand3("H
end of dataBand3

```

プロパティ	レポート																										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanBreak</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>MinSpaceAfter</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>NewColumnAfter</td><td>False</td></tr> <tr><td>NewColumnBefore</td><td>False</td></tr> </table>	Render		CanBreak	True	CanGrow	True	CanShrink	False	MinSpaceAfter	0 cm	NewColumnAfter	False	NewColumnBefore	False	<table border="1"> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>(206) 555-9482</td></tr> <tr><td>(206)555-9857</td><td>Anne Dodsworth</td></tr> <tr><td>Andrew Fuller</td><td>(71) 555-4444</td></tr> <tr><td>Steven Buchana</td><td>(71) 555-4444</td></tr> <tr><td>(71) 555-4444</td><td>Anne Yorke</td></tr> <tr><td>Laura Callahan</td><td>(71) 555-4444</td></tr> </table>	Nancy Davolio	(206) 555-9482	(206)555-9857	Anne Dodsworth	Andrew Fuller	(71) 555-4444	Steven Buchana	(71) 555-4444	(71) 555-4444	Anne Yorke	Laura Callahan	(71) 555-4444
Render																											
CanBreak	True																										
CanGrow	True																										
CanShrink	False																										
MinSpaceAfter	0 cm																										
NewColumnAfter	False																										
NewColumnBefore	False																										
Nancy Davolio	(206) 555-9482																										
(206)555-9857	Anne Dodsworth																										
Andrew Fuller	(71) 555-4444																										
Steven Buchana	(71) 555-4444																										
(71) 555-4444	Anne Yorke																										
Laura Callahan	(71) 555-4444																										
<table border="1"> <tr><td colspan="2">Render</td></tr> <tr><td>CanBreak</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanGrow</td><td>True</td></tr> <tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr> <tr><td>MinSpaceAfter</td><td>0 cm</td></tr> <tr><td>NewColumnAfter</td><td>False</td></tr> <tr><td>NewColumnBefore</td><td>True</td></tr> </table>	Render		CanBreak	True	CanGrow	True	CanShrink	False	MinSpaceAfter	0 cm	NewColumnAfter	False	NewColumnBefore	True	<table border="1"> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>Andrew Fuller</td></tr> <tr><td>(206)555-9857</td><td>(206) 555-9482</td></tr> <tr><td>Anne Dodsworth</td><td>Steven Buchana</td></tr> <tr><td>(71) 555-4444</td><td>(71) 555-4444</td></tr> </table>	Nancy Davolio	Andrew Fuller	(206)555-9857	(206) 555-9482	Anne Dodsworth	Steven Buchana	(71) 555-4444	(71) 555-4444				
Render																											
CanBreak	True																										
CanGrow	True																										
CanShrink	False																										
MinSpaceAfter	0 cm																										
NewColumnAfter	False																										
NewColumnBefore	True																										
Nancy Davolio	Andrew Fuller																										
(206)555-9857	(206) 555-9482																										
Anne Dodsworth	Steven Buchana																										
(71) 555-4444	(71) 555-4444																										

NewPageAfter プロパティ (Render)

バンド内容の後に新しいページを追加するかを設定します。

Detail の内容の後に新しいページを追加する例 :

レポートテンプレート :

```
dataBand3:DataBand DataSource = Em
detail3:Detail
  <dataBand3("EmployeeNa
end of dataBand3
```

プロパティ		レポート				
MinSpaceAfter	0 cm	<table border="1"> <tr> <td>Nancy Davolio Andrew Fuller</td> </tr> <tr> <td>Anne Dodsworth Steven Buchana</td> </tr> <tr> <td>Nancy Davolio</td> </tr> <tr> <td>Andrew Fuller</td> </tr> </table>	Nancy Davolio Andrew Fuller	Anne Dodsworth Steven Buchana	Nancy Davolio	Andrew Fuller
Nancy Davolio Andrew Fuller						
Anne Dodsworth Steven Buchana						
Nancy Davolio						
Andrew Fuller						
NewColumnAfter	False					
NewColumnBefore	False					
NewPageAfter	False <input type="checkbox"/>					
NewPageBefore	False					
Visible	True					
MinSpaceAfter	0 cm	<table border="1"> <tr> <td>Nancy Davolio</td> </tr> <tr> <td>Andrew Fuller</td> </tr> </table>	Nancy Davolio	Andrew Fuller		
Nancy Davolio						
Andrew Fuller						
NewColumnAfter	False					
NewColumnBefore	False					
NewPageAfter	True <input checked="" type="checkbox"/>					
NewPageBefore	False					
Visible	True					

NewPageBefore プロパティ (Render)

バンド内容の前に新しいページを追加するかどうかを設定します。

Detail (detail3) の内容の前に新しいページを追加する例 :

レポートテンプレート :

```
dataBand3:DataBand DataSource = Em
detail4:Detail
  <dataBand3("EmployeeName")>
detail3:Detail
  <dataBand3("HomePhone")>
end of dataBand3
```

プロパティ		レポート
MinSpaceAfter	0 cm	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Nancy Davolio (206)555-9857 Andrew Fuller</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(206) 555-9482 Anne Dodsworth (71) 555-4444</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Nancy Davolio (206)555-9857 Andrew Fuller (206) 555-9482 Anne Dodsworth</div>
NewColumnAfter	False	
NewColumnBefore	False	
NewPageAfter	False	
NewPageBefore	False <input type="button" value="v"/>	
Visible	True	
MinSpaceAfter	0 cm	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Nancy Davolio (206)555-9857 Andrew Fuller</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(206) 555-9482 Anne Dodsworth</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Nancy Davolio (206)555-9857 Andrew Fuller (206) 555-9482 Anne Dodsworth</div>
NewColumnAfter	False	
NewColumnBefore	False	
NewPageAfter	False	
NewPageBefore	True <input type="button" value="v"/>	
Visible	True	

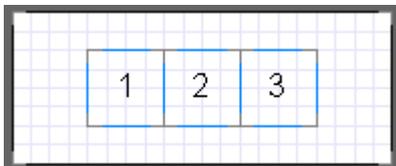


Visible プロパティ(Render)

レポートのオブジェクトの表示/非表示を設定します。

数字「2」のテキストボックスの Visible プロパティの例

レポートテンプレート :



プロパティ	レポート										
<table border="1"><tr><td colspan="2">Render</td></tr><tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr><tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr><tr><td>GrowToBottom</td><td>False</td></tr><tr><td>Visible</td><td>True <input type="checkbox"/></td></tr></table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	True <input type="checkbox"/>	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
GrowToBottom	False										
Visible	True <input type="checkbox"/>										
<table border="1"><tr><td colspan="2">Render</td></tr><tr><td>CanGrow</td><td>False</td></tr><tr><td>CanShrink</td><td>False</td></tr><tr><td>GrowToBottom</td><td>False</td></tr><tr><td>Visible</td><td>False <input checked="" type="checkbox"/></td></tr></table>	Render		CanGrow	False	CanShrink	False	GrowToBottom	False	Visible	False <input checked="" type="checkbox"/>	
Render											
CanGrow	False										
CanShrink	False										
GrowToBottom	False										
Visible	False <input checked="" type="checkbox"/>										

注意：コンテナバンドが非表示の場合、そこに格納されているオブジェクトもすべて非表示になります。



テキスト出力

SharpShooter Reports では、以下のオブジェクトを使用してテキスト入力が行われます。

オブジェクト	説明
TextBox	普通のテキスト情報を入力でき、テキスト表示を調整できます。
AdvancedText	書式付きテキストを出力します。
RichText	RTF テキストを出力します。

静的なテキスト

Text プロパティは、TextBox オブジェクトに出力するテキストを入力するために使用します。このプロパティは[テキストエディタ](#)で定義されます。テキストエディタを開くには、テキストボックスをダブルクリックするか、プロパティグリッドの Text プロパティのボタンをクリックしてください。また、テキストセルに直接テキストを入力することもできます。

Appearance	
Angle	0
Border	
Fill	[None]
Font	Arial; 12pt
Margins	0; 0; 0; 0 cm
RightToLeft	False
StringTrimming	Character
StyleName	
Text	text
TextAlign	MiddleCenter
TextFill	[None]
TextFormat	
ToolTip	

データソースのテキスト

データソースのテキストを入力するには、TextBox オブジェクトの Value プロパティ（選択したフィールドの値を取得します）を設定してください。GetData メソッドか DataBand のインデクサを使用できます。

（参照：[データソースの一覧](#)）

セル枠、セルのテキスト

[Border プロパティ](#)を使用して、オブジェクトの枠を定義します。テキストを表として入力する例：

Caption		
Column	Cell#1	Cell#2
	Cell#3	

テキストの出力方向

TextBox や AdvancedText オブジェクトのテキストの出力方向を変更できます。それには、RightToLeft プロパティを True に設定します。

Text プロパティ = "7 8 9 10 11"

プロパティ		レポート
RightToLeft	False	7 8 9 10 11
StringTrimming	Character	
StyleName		
Text	7 8 9 10 11	
RightToLeft	True	11 10 9 8 7
StringTrimming	Character	
StyleName		
Text	7 8 9 10 11	

テキストの切り取り

出力するテキストがオブジェクトの領域に収まらない場合は StringTrimming プロパティを使用してテキストの切り取りを設定できます。

プロパティ		レポート
表示可能な最後の文字の後のテキストは切り取られます		
RightToLeft	False	one two t
StringTrimming	Character	
StyleName		
Text	one two three	
表示可能な最後の単語の後のテキストは切り取られます		
RightToLeft	False	one two
StringTrimming	Word	
StyleName		
Text	one two three	
表示可能な最後の文字の後のテキストは切り取られ、省略記号が追加されます		
RightToLeft	False	one tw...
StringTrimming	EllipsisCharacter	
StyleName		
Text	one two three	
表示可能な最後の単語の後のテキストが切り取られ、省略記号が追加されます		
RightToLeft	False	one ...
StringTrimming	EllipsisWord	
StyleName		
Text	one two three	
先頭と末尾のテキストが表示され、その間は省略記号が追加されます		
RightToLeft	False	on...ree
StringTrimming	EllipsisWord	
StyleName		
Text	one two three	

ClipText プロパティは、TextBox オブジェクトの領域に入り切らないテキスト行の処理方法を定義します。

プロパティ		レポート
Border	Border	
ClipText	False	
Fill	[None]	
Font	Calibri; 39,75pt; Bold=Off; It	
Border	Border	
ClipText	True	
Fill	[None]	
Font	Calibri; 39,75pt; Bold=Off; It	

テキストオブジェクトのサイズ操作

[Size プロパティ](#)は、オブジェクトのサイズを定義します。生成時にオブジェクトを適切なサイズに変更する機能があります。これは、テンプレートの作成時にオブジェクトのコンテンツが取得されない場合やレポート生成時にコンテンツが変わる場合に役立ちます。[CanShrink](#) や [CanGrow](#) プロパティは内容に応じてオブジェクトを大きくする（またはプロパティの値に応じて大きくさせないようにする）ことができます。

[GrowToBottom プロパティ](#)はオブジェクトのサイズをコンテナバンドの下枠まで大きくするかを定義します。

テキストスタイル

レポートを作成するための機能が多数あります。[Fill プロパティ](#)は背景色を定義します。[Font プロパティ](#)はフォント型、テキストスタイル（標準、太字、斜体、下線、打ち消し線）などのテキストの見た目を設定します。テキストボックスのテキストの揃え方や位置は [TextAlign プロパティ](#) で定義します。[TextFill プロパティ](#) を使用してスタイルやテキストの背景色を設定できます。

また、複数のオブジェクトに 1 つのスタイルを適用させることができます。[スタイルシートエディタ](#) はスタイルエディタとして使用でき、[StyleName](#) プロパティはオブジェクトにスタイルを適用します。

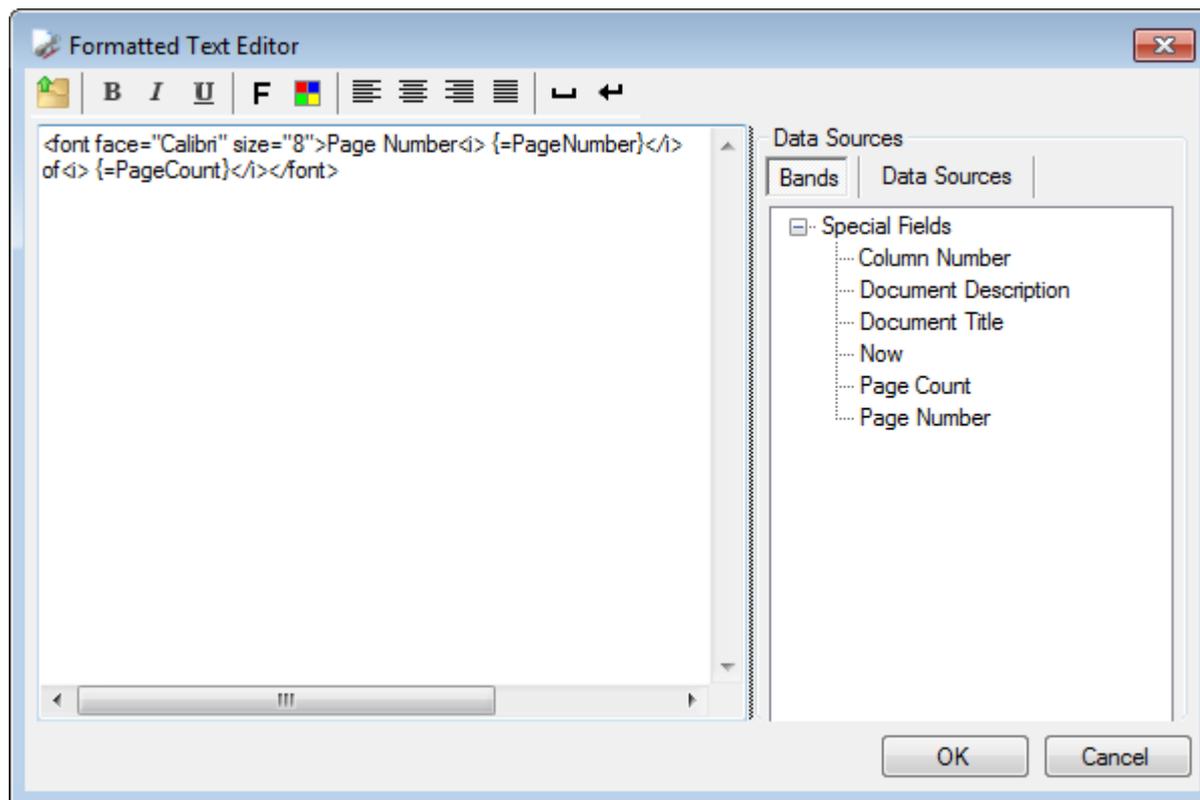
テキスト形式

テキスト形式を指定して表示するには、[TextFormat プロパティ](#)を使用します。フォーマットエディタで複数のテキスト形式（標準、数値、通貨、日付、時刻、パーセンテージ、ユーザー定義）を取得できます。

書式付きテキスト

AdvancedText コンポーネントは、データを書式付きテキストとして入力できます。段落、テキストスタイルの設定や記述したテキストにステートメントを正しく使うオプションがあります。書式付きテキストは、HTML のようなマークアップ言語（**Text** プロパティ）や **RTF** 形式のサブセット（**RTF** プロパティ）から指定できます。

[書式付きテキストエディタ](#)（**Text** プロパティ）で HTML のようなタグを使ってテキストの書式設定が行えます。



段落の書式設定

`<P></P>` タグは、選択したテキストを別の段落にします。

Align 属性は、段落の水平方向のテキストの位置合わせを指定します。使用可能な値は次の通りです。

`align = "left"` - 段落の左揃え

`align = "right"` - 段落の右揃え

`align = "center"` - 中央揃え

`align = "justify"` - 両端揃え

Align の規定値は「left」（左揃え）です。編集するテキストを選択し、ツールバーの「左揃え」、「中央揃え」、「右揃え」、「両端揃え」ボタンを使用して揃え方を設定してください。

テキストの書式設定

`` タグは、この後に設定されたテキストの出力スタイルを設定し、終了タグ `` はこの設定を解除します。`` タグの囲い込みが可能です。テキストスタイルは次の属性を使って指定できます。



face - フォント名を設定します。

size - フォントサイズを設定します。

スタイルを瞬時に定義するには、「フォント」ボタンを押してスタイルエディタを開いてください。

color - フォントの色を設定します。

利用可能な値：色名（例：color="red"）、RGB の各カラーコンポーネントの 16 進形式（例：color="#FF0000"）。色を瞬時に選択するには、「色」ボタンを押して ColorPicker を開いてください。

Tag - この後のテキストは太字になります。終了タグ はこの設定を解除します（「太字」ボタン）。

Tag <I> - この後のテキストは斜体になります。終了タグ </I> はこの設定を解除します（「斜体」ボタン）。

Tag <U> - この後のテキストには下線が付きます。終了タグ </U> はこの設定を解除します（「下線」ボタン）。

Tag
 - 段落内で行を折り返します（「改行を挿入する」ボタン）。

記号の追加

" " - スペース（「スペースを挿入する」ボタン）

"&" - 「&」記号

"<" - 「<」記号

"&#ddd;" - ddd コード付きの記号

注意：テキストが段落として書かれていない場合、TextAlign プロパティの位置合わせが適用されます。明白なフォントが設定されていない場合、Font プロパティの設定が適用されます。テキストの色が指定されていない場合、TextFill プロパティの設定が適用されます。テキスト操作時の改行、複数のスペース、連続/不明なタグや属性は無視されます。タグ名の大文字/小文字の区別はありません。

式を使用する

書式付きテキストに命令文を直接使用でき、その結果はテキストに追加されます。式は {=<Statement>} のように指定します（{=<Statement>} - 設定したスクリプト言語の式）。利用可能な型やオブジェクトをすべて式に使用できます。テキストを挿入する前に、Format プロパティで指定したマスクの書式が式の結果に適用されます。エラーが発生した場合、エラーメッセージが式の結果としてテキストに挿入されます。

DataSources セクションは、ドキュメントやデータソースフィールドに特別なプロパティを追加します。

RTF プロパティの使用

RTF 形式のサブセットがテキストの書式に使用されます。RTF 形式の次の構造が使用されます：フォントテーブル、色テーブル、コメント、段落書式の演算子（"\par"、"\pard"、"\ql"、"\qr"、"\qc"、"\qj"、"\line"）、テキスト書式の演算子（"\fxx"、"\fsxx"、"\cfxx"、"\b"、"\i"、"\u"）。残りのすべての構造や演算子は無視されます。Rtf プロパティは、書き込み専用でデザインされています。Rtf プロパティは、Text プロパティに接続されます。Rtf プロパティが指定されると、Text プロパティの値が自動的に指定されます。

RTF ファイルからテキストを読み込むには、「RTF ドキュメントを開く」ボタンを押してください。

テキストのページ分割

AdvancedText オブジェクトは、1 つのオブジェクトのテキストを 1 ページまたは複数ページに出力します。それには [CanBreak プロパティ](#) を使用してください。



RTF 形式のテキスト

RichText オブジェクトは、RTF 形式のテキストを出力するために使用します。[RichText エディタ](#)を使って、ファイルからテキストを読み込みます。

リスト

シンプルリスト

DataBand を使用してリストを作成します。**DataBand** はその中に格納されたオブジェクトを繰り返し出力します。ビジュアルオブジェクトをリストとして表示するには、**DataBand** 内の **Detail** に格納しなければなりません。**Detail** は行の高さを設定します。**InstanceCount** プロパティは何回表示するかを設定します。

Data	
DataSource	
FilterExpression	
InstanceCount	5
Sort	(Collection)
Tag	
Totals	(Collection)

命令文 : `<DataBand name>.LineNumber()` は、行番号を取得するために使用します。

行番号を出力するリスト例 :

```
dataBand1.InstanceCount = 5;
```

```
textBox.Value = "line number = " + dataBand1.LineNumber().ToString() + " of " + dataBand1.InstanceCount.ToString();
```

レポートテンプレート	レポート
<pre>dataBand1:DataBand detail1:Detail <"line number: " + dataBa end of dataBand1</pre>	
<pre>dataBand1:DataBand detail1:Detail <"line number: " + dataBa end of dataBand1</pre>	

データソースのリスト

DataBand はソースのデータに基づいてリストを作成します。データソースは、**DataSource** プロパティで設定されます。

注意 : 出力される行数はデータソースの行数によるので、**InstanceCount** プロパティは無視されます。

Data	
DataSource	Employees ▼
FilterExpression	
InstanceCount	0
Sort	(Collection)
Tag	
Totals	(Collection)

現在の (出力しなければならない) フィールドにアクセスするには、`GetData("<Data source name>.<Field name>")` または `<DataBand name>["<Field name>"]` のどちらかのスクリプトを使用します。テキスト情報は、[データソース](#) タブのドキュメントツリーから対象のフィールドを (**DataBand** 内の) **Detail** にドラッグすることで出力できます。

担当者名を出力するリスト例：

```
dataBand.DataSource = Employees;
textBox.Value = dataBand["EmployeeName"];
```

レポートテンプレート	レポート
<pre>dataBand:DataBand DataSource = Emp detail:Detail <dataBand["EmployeeNa end of dataBand</pre>	<p>Nancy Davolio Andrew Fuller Anne Dodsworth Steven Buchana Laura Callahan</p>

段組みのリスト

レポートの領域を減らしてレポートをより視覚的にするには、リストを段組で出力する方法があります。**DataBand** の **ColumnsCount** プロパティに列数を設定します。また、リストの列間隔も **ColumnsGap** プロパティで設定できます。

社員のリスト例：

```
dataBand.DataSource = Employees;
textBox.Value = dataBand["EmployeeName"];
```

レポートテンプレート：

dataBand:DataBand DataSource = Emp
detail:Detail
<dataBand["
end of dataBand

プロパティ	レポート						
<p>Layout</p> <p>ColumnsCount: 0</p> <p>ColumnsGap: 0 cm</p> <p>Location: 0; 0 cm</p> <p>Size: 5; 2 cm</p>	<p>Nancy Davolio Andrew Fuller Anne Dodsworth</p> <hr/> <p>Steven Buchana Laura Callahan Anne Yorke</p>						
<p>Layout</p> <p>ColumnsCount: 2</p> <p>ColumnsGap: 0 cm</p> <p>Location: 0; 0 cm</p> <p>Size: 6; 1.6 cm</p>	<table border="0"> <tr> <td>Nancy Davolio</td> <td>Steven Buchana</td> </tr> <tr> <td>Andrew Fuller</td> <td>Laura Callahan</td> </tr> <tr> <td>Anne Dodsworth</td> <td>Anne Yorke</td> </tr> </table>	Nancy Davolio	Steven Buchana	Andrew Fuller	Laura Callahan	Anne Dodsworth	Anne Yorke
Nancy Davolio	Steven Buchana						
Andrew Fuller	Laura Callahan						
Anne Dodsworth	Anne Yorke						



Layout		Nancy	Steven
ColumnsCount	2	Davolio	Buchana
ColumnsGap	0,25 cm	Andrew	Laura
Location	0; 0 cm	Fuller	Callahan
Size	5; 1,5 cm	Anne	Anne Yorke
		Dodsworth	

リストのヘッダー

Header はリスト、ページ、または列の先頭にデータを一回出力するために使用します。ヘッダーはそのため
に使用され、DataBand 内に貼り付けなければなりません。RepeatEveryColumn や RepeatEveryPage プ
ロパティはヘッダーの反復モードに役立ちます。

リストのヘッダーの使用例 :

```
dataBand3.DataSource = Employees; textBox1.Text = "Name"; textBox2.Value =  
dataBand3("EmployeeName");
```

レポートテンプレート :

```
dataBand:DataBand DataSource = Emp  
header5:Header  
Name  
detail:Detail  
<dataBand["E  
end of dataBand
```

プロパティ	レポート																								
<table border="1"> <tr><td>NewColumnBefore</td><td>False</td></tr> <tr><td>NewPageAfter</td><td>False</td></tr> <tr><td>NewPageBefore</td><td>False</td></tr> <tr><td>RepeatEveryColumn</td><td>False</td></tr> <tr><td>RepeatEveryPage</td><td>False</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	NewColumnBefore	False	NewPageAfter	False	NewPageBefore	False	RepeatEveryColumn	False	RepeatEveryPage	False	Visible	True	<table border="1"> <tr><td>Name</td><td>Steven</td></tr> <tr><td></td><td>Buchana</td></tr> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>Laura Callahan</td></tr> <tr><td>Andrew Fuller</td><td>Anne Yorke</td></tr> <tr><td>Anne</td><td></td></tr> <tr><td>Dodsworth</td><td></td></tr> </table>	Name	Steven		Buchana	Nancy Davolio	Laura Callahan	Andrew Fuller	Anne Yorke	Anne		Dodsworth	
NewColumnBefore	False																								
NewPageAfter	False																								
NewPageBefore	False																								
RepeatEveryColumn	False																								
RepeatEveryPage	False																								
Visible	True																								
Name	Steven																								
	Buchana																								
Nancy Davolio	Laura Callahan																								
Andrew Fuller	Anne Yorke																								
Anne																									
Dodsworth																									
<table border="1"> <tr><td>NewColumnBefore</td><td>False</td></tr> <tr><td>NewPageAfter</td><td>False</td></tr> <tr><td>NewPageBefore</td><td>False</td></tr> <tr><td>RepeatEveryColumn</td><td>True</td></tr> <tr><td>RepeatEveryPage</td><td>False</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	NewColumnBefore	False	NewPageAfter	False	NewPageBefore	False	RepeatEveryColumn	True	RepeatEveryPage	False	Visible	True	<table border="1"> <tr><td>Name</td><td>Name</td></tr> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>Steven</td></tr> <tr><td>Andrew Fuller</td><td>Buchana</td></tr> <tr><td>Anne</td><td>Laura Callahan</td></tr> <tr><td>Dodsworth</td><td>Anne Yorke</td></tr> </table>	Name	Name	Nancy Davolio	Steven	Andrew Fuller	Buchana	Anne	Laura Callahan	Dodsworth	Anne Yorke		
NewColumnBefore	False																								
NewPageAfter	False																								
NewPageBefore	False																								
RepeatEveryColumn	True																								
RepeatEveryPage	False																								
Visible	True																								
Name	Name																								
Nancy Davolio	Steven																								
Andrew Fuller	Buchana																								
Anne	Laura Callahan																								
Dodsworth	Anne Yorke																								
<table border="1"> <tr><td>NewPageAfter</td><td>False</td></tr> <tr><td>NewPageBefore</td><td>False</td></tr> <tr><td>RepeatEveryColumn</td><td>False</td></tr> <tr><td>RepeatEveryPage</td><td>False</td></tr> <tr><td>Visible</td><td>True</td></tr> </table>	NewPageAfter	False	NewPageBefore	False	RepeatEveryColumn	False	RepeatEveryPage	False	Visible	True	<table border="1"> <tr><td>Name</td><td></td></tr> <tr><td>Nancy Davolio</td><td></td></tr> <tr><td>Andrew Fuller</td><td></td></tr> <tr><td>Anne Dodsworth</td><td></td></tr> <tr><td>Steven Buchana</td><td></td></tr> <tr><td>Laura Callahan</td><td></td></tr> <tr><td>Anne Yorke</td><td></td></tr> </table>	Name		Nancy Davolio		Andrew Fuller		Anne Dodsworth		Steven Buchana		Laura Callahan		Anne Yorke	
NewPageAfter	False																								
NewPageBefore	False																								
RepeatEveryColumn	False																								
RepeatEveryPage	False																								
Visible	True																								
Name																									
Nancy Davolio																									
Andrew Fuller																									
Anne Dodsworth																									
Steven Buchana																									
Laura Callahan																									
Anne Yorke																									



NewPageAfter	False
NewPageBefore	False
RepeatEveryColumn	False
RepeatEveryPage	True <input type="checkbox"/>
Visible	True

Name

Nancy Davolio
Andrew Fuller
Anne Dodsworth

Name

Steven Buchana
Laura Callahan
Anne Yorke



並べ替え条件	レポート														
なし	<table border="1"> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>11.11.1976</td></tr> <tr><td>Andrew Fuller</td><td>25.02.1969</td></tr> <tr><td>Anne Dodsworth</td><td>30.06.1981</td></tr> <tr><td>Steven Buchan</td><td>15.12.1984</td></tr> <tr><td>Laura Callahan</td><td>28.09.1987</td></tr> </table>	Nancy Davolio	11.11.1976	Andrew Fuller	25.02.1969	Anne Dodsworth	30.06.1981	Steven Buchan	15.12.1984	Laura Callahan	28.09.1987				
Nancy Davolio	11.11.1976														
Andrew Fuller	25.02.1969														
Anne Dodsworth	30.06.1981														
Steven Buchan	15.12.1984														
Laura Callahan	28.09.1987														
<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">☐ Misc</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;">Expression</td> <td>dataBand["EmployeeName"] ...</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;">Order</td> <td>Ascending</td> </tr> </table> </div>	Expression	dataBand["EmployeeName"] ...	Order	Ascending	<table border="1"> <tr><td>Andrew Fuller</td><td>25.02.1969</td></tr> <tr><td>Anne Dodsworth</td><td>30.06.1981</td></tr> <tr><td>Anne Yorke</td><td>03.05.1969</td></tr> <tr><td>Laura Callahan</td><td>28.09.1987</td></tr> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>11.11.1976</td></tr> </table>	Andrew Fuller	25.02.1969	Anne Dodsworth	30.06.1981	Anne Yorke	03.05.1969	Laura Callahan	28.09.1987	Nancy Davolio	11.11.1976
Expression	dataBand["EmployeeName"] ...														
Order	Ascending														
Andrew Fuller	25.02.1969														
Anne Dodsworth	30.06.1981														
Anne Yorke	03.05.1969														
Laura Callahan	28.09.1987														
Nancy Davolio	11.11.1976														
<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">☐ Misc</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;">Expression</td> <td>dataBand["BirthDate"] ...</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;">Order</td> <td>Descending</td> </tr> </table> </div>	Expression	dataBand["BirthDate"] ...	Order	Descending	<table border="1"> <tr><td>Laura Callahan</td><td>28.09.1987</td></tr> <tr><td>Steven Buchan</td><td>15.12.1984</td></tr> <tr><td>Anne Dodsworth</td><td>30.06.1981</td></tr> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>11.11.1976</td></tr> <tr><td>Anne Yorke</td><td>03.05.1969</td></tr> </table>	Laura Callahan	28.09.1987	Steven Buchan	15.12.1984	Anne Dodsworth	30.06.1981	Nancy Davolio	11.11.1976	Anne Yorke	03.05.1969
Expression	dataBand["BirthDate"] ...														
Order	Descending														
Laura Callahan	28.09.1987														
Steven Buchan	15.12.1984														
Anne Dodsworth	30.06.1981														
Nancy Davolio	11.11.1976														
Anne Yorke	03.05.1969														

リストのフィルタ処理

ある条件を満たしているデータを表示する場合には、DataBand の FilterExpression プロパティを使用できます。

性別によって社員の名前を表示するリスト例：

レポートテンプレート：

dataBand:DataBand DataSource = Emp
detail:Detail
<dataBand["EmployeeNa
end of dataBand

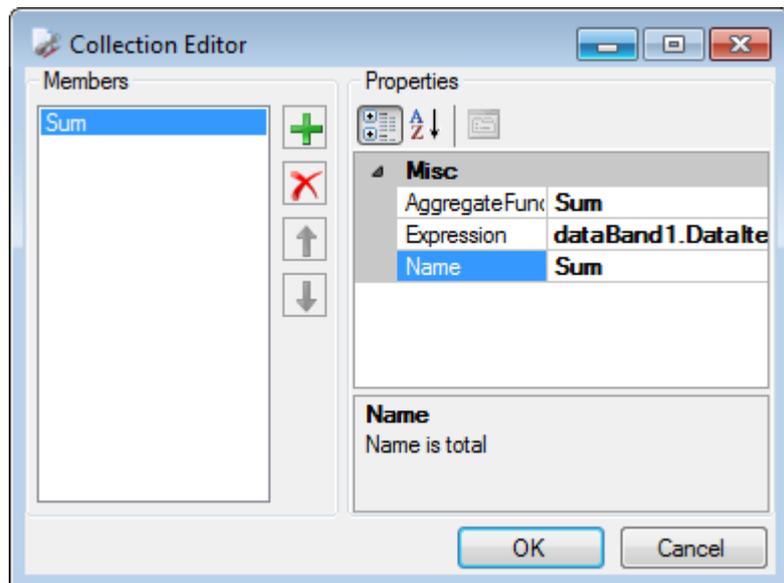
dataBand.DataSource = Employees;

textBoxName.Value = dataBand["EmployeeName"];

プロパティ	レポート				
dataBand.FilterExpression = dataBand1["Sex"].ToString() == "f"	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>Nancy Davolio</td></tr> <tr><td>Anne Dodsworth</td></tr> <tr><td>Laura Callahan</td></tr> <tr><td>Anne Yorke</td></tr> </table>	Nancy Davolio	Anne Dodsworth	Laura Callahan	Anne Yorke
Nancy Davolio					
Anne Dodsworth					
Laura Callahan					
Anne Yorke					
dataBand.FilterExpression = dataBand1["Sex"].ToString() == "m"	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>Andrew Fuller</td></tr> <tr><td>Steven Buchana</td></tr> </table>	Andrew Fuller	Steven Buchana		
Andrew Fuller					
Steven Buchana					

最終的なリストの値

リストの合計を計算する場合、集計リストを使用できます。DataBand にデータを出力するには、Totals プロパティの [コレクションエディタ](#) コレクションエディタでリストの集計関数を指定できます。



AggregateFunction プロパティは集計関数を指定します。集計式は **Expression** プロパティで指定します。関数名は **Name** プロパティに指定します。スクリプト : `GetTotal("<aggregate name>")` は、指定した関数を呼び出してその合計を取得するために使用します。`GetRunningTotal("<aggregate name>")` は、現在の累計を取得するために使用します。集計値を出力する前に集計したデータを取得することができます。**GetTotal** の結果はこの関数を呼び出す要素の位置（前または後）には依存しません。**Detail** に `GetRunningTotal` の値を出力することをお勧めいたします。**Header** からの呼び出しは累計された値がないので役に立ちません。**Footer** から呼び出した `GetRunningTotal` の値は `GetTotal` の値と一致します。

レポートジェネレータは、組み込まれている次の 12 の集計関数をサポートしています。

集計関数の使用例 :

レポートテンプレート :

```
dataBand:DataB
detail:Detail
<dataBa
footer:Footer
<GetTota
end of dataBand
```

```
dataBand.DataSource = Numbers; textBox1.Value = dataBand["Value"]; textBox.Value = GetTotal("Func");
```

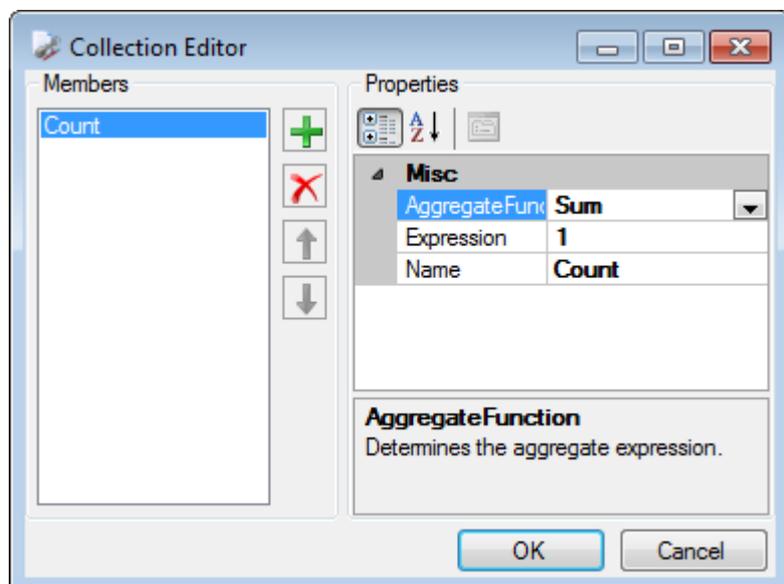


プロパティ	レポート								
合計 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Sum</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Sum	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>91</td></tr> </table>	1	13	77	91
☐ Misc									
AggregateFunction Sum									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
91									
平均 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Avg</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Avg	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>30,33333</td></tr> </table>	1	13	77	30,33333
☐ Misc									
AggregateFunction Avg									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
30,33333									
最小値 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Min</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Min	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>1</td></tr> </table>	1	13	77	1
☐ Misc									
AggregateFunction Min									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
1									
最大値 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Max</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Max	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>77</td></tr> </table>	1	13	77	77
☐ Misc									
AggregateFunction Max									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
77									
個数 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Count</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Count	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>3</td></tr> </table>	1	13	77	3
☐ Misc									
AggregateFunction Count									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
3									
標準偏差 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Standard Deviation</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Standard Deviation	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>33,35998</td></tr> </table>	1	13	77	33,35998
☐ Misc									
AggregateFunction Standard Deviation									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
33,35998									
推定標準偏差 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Estimate of Standard Deviation</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Estimate of Standard Deviation	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>40,85747</td></tr> </table>	1	13	77	40,85747
☐ Misc									
AggregateFunction Estimate of Standard Deviation									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
40,85747									
分散 :									
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction Variance</td></tr> <tr><td>Expression dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction Variance	Expression dataBand["Value"]	Name Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>1112,888</td></tr> </table>	1	13	77	1112,888
☐ Misc									
AggregateFunction Variance									
Expression dataBand["Value"]									
Name Func									
1									
13									
77									
1112,888									
標本分散 :									

<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction</td><td>Estimate of varian</td></tr> <tr><td>Expression</td><td>dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name</td><td>Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction	Estimate of varian	Expression	dataBand["Value"]	Name	Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>1669,333</td></tr> </table>	1	13	77	1669,333
☐ Misc												
AggregateFunction	Estimate of varian											
Expression	dataBand["Value"]											
Name	Func											
1												
13												
77												
1669,333												
中央値 :												
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction</td><td>Median</td></tr> <tr><td>Expression</td><td>dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name</td><td>Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction	Median	Expression	dataBand["Value"]	Name	Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>13</td></tr> </table>	1	13	77	13
☐ Misc												
AggregateFunction	Median											
Expression	dataBand["Value"]											
Name	Func											
1												
13												
77												
13												
歪度 :												
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction</td><td>Skewness</td></tr> <tr><td>Expression</td><td>dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name</td><td>Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction	Skewness	Expression	dataBand["Value"]	Name	Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>0,639105</td></tr> </table>	1	13	77	0,639105
☐ Misc												
AggregateFunction	Skewness											
Expression	dataBand["Value"]											
Name	Func											
1												
13												
77												
0,639105												
尖度 :												
<table border="1"> <tr><td>☐ Misc</td></tr> <tr><td>AggregateFunction</td><td>Kurtosis</td></tr> <tr><td>Expression</td><td>dataBand["Value"]</td></tr> <tr><td>Name</td><td>Func</td></tr> </table>	☐ Misc	AggregateFunction	Kurtosis	Expression	dataBand["Value"]	Name	Func	<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>77</td></tr> <tr><td>-1,5</td></tr> </table>	1	13	77	-1,5
☐ Misc												
AggregateFunction	Kurtosis											
Expression	dataBand["Value"]											
Name	Func											
1												
13												
77												
-1,5												

ページの項目数

DataBand の Total プロパティはそのページの項目数を数えるために使用します。次のように、[コレクションエディタ](#)で Count 関数を定義できます。



PageFooter の Textbox オブジェクトは個数の出力に使用します。Text プロパティは PageFooter.GenerateScript で設定されます。

```

if (Engine.IsDoublePass)
{
    textBoxFooter.Text = dataBand5.GetPageTotal("Count") + " / " +
dataBand5.GetTotal("Count") + "レコード";
}

```



個数を計算するには、ドキュメントの DoublePass プロパティを True に設定してください。

レポートテンプレート	レポート
<pre>dataBand5:DataBand DataSource = Em detail6:Detail <dataBand5["EmployeeNam end of dataBand5 pageFooter1:PageFooter</pre>	<p>Nancy Davolio Andrew Fuller Anne Dodsworth Steven Buchana</p> <hr/> <p>Records 4 of 6</p>
	<p>Laura Callahan Anne Yorke</p> <hr/> <p>Records 2 of 6</p>

グループ化

条件を指定してデータをグループ化することで、データ行を論理的にグループ化し、情報をより良く表現することができます。GroupBandはそのために使用します。グループ化の基準は、GroupExpression プロパティで設定します。このプロパティはスクリプトエディタで順番に設定されます。

グループヘッダー

グループヘッダーを表示するには、グループバンドにヘッダーを配置します。グループ値を表示するには、GroupExpression プロパティを使用します。

名前の頭文字ごとに担当者の一覧をグループ化する例：

レポートテンプレート：

```
dataBand:DataBand DataSource = Emp
groupBand:GroupBand Group = dataB
header:Header
  <Group>
detail7:Detail
  <dataBand["EmployeeNa
end of groupBand
end of dataBand
```

```
dataBand.DataSource = Employees; groupBand1.GroupExpression =
dataBand6["EmployeeName"].ToString().Substring(0,1); textBoxHeader.Value = Group;
textBoxDetail.Value = dataBand["EmployeeName"]
```

レポート：

<u>N</u>	Nancy Davolio
<u>A</u>	Andrew Fuller Anne Dodsworth Anne Yorke
<u>S</u>	
	Steven Buchana
<u>L</u>	Laura Callahan

グループの並べ替え

GroupBand はレポートの項目をデータソースに保存されている順番で表示します。GroupBand の Order プロパティは出力順を設定します。このプロパティには次の3つの値 : KeepOriginal (最初のまま)、Ascending (昇順)、Descending (降順) があります。

Data	
GroupExpression	dataBand["EmployeeName"]
Order	Ascending ▼
SortExpression	
Tag	

SortExpression プロパティは並べ替えの基準を設定します。

社員の名前の頭文字でグループ化し並べ替えをするリストの例 :

```
dataBand.DataSource = Employees; groupBand.GroupExpression =  
dataBand["EmployeeName"].ToString().Substring(0,1); groupBand.Order = Ascending;  
textBoxHeader.Value = Group; textBoxDetail.Value = dataBand["EmployeeName"]
```

レポートテンプレート	レポート
dataBand:DataBand DataSource = Emp	
groupBand:GroupBand Group = dataBe	<u>A</u>
header:Header	Andrew Fuller
<Group>	Anne Dodsworth
detail7:Detail	Anne Yorke
<dataBand["EmployeeNa	<u>L</u>
end of groupBand	Laura Callahan
end of dataBand	<u>N</u>
	Nancy Davolio
	<u>S</u>
	Steven Buchana



グループのカスケード表示

複雑なグループ構造のレポートを作成するためのオプションがあります。それには、複数の GroupBand を入れ子にして使用します。

まず国名、次に都市名でグループ化された社員リストの例：

```
dataBand.DataSource = Employees; groupBandCounty.GroupExpression = dataBand["Country"];  
groupBandCity.GroupExpression = dataBand["City"]; textBoxDetail.Value =  
dataBand["EmployeeName"].
```

レポートテンプレート	レポート
<code>dataBand:DataBand DataSource = Employees</code>	
<code>groupBandCounty:GroupBand Group = dataBand["Country"]</code>	<u>Italy</u>
header1:Header	<u>Rome</u>
<Group>	Nancy Davolio
<code>groupBandCity:GroupBand Group = dataBand["City"]</code>	<u>Milan</u>
header2:Header	Anne Dodswort
<Group>	
detail8:Detail	<u>France</u>
<dataBand["Em	<u>Paris</u>
end of groupBandCity	Andrew Fuller
end of groupBandCounty	
end of dataBand	<u>England</u>
	<u>London</u>
	Steven Buchan
	<u>Liverpool</u>
	Laura Callahan
	Anne Yorke



グループの合計

グループの合計値を取得するには、グループで **GetTotal** を呼び出します。グループで **GetRunningTotal** を呼び出すと、グループの累計値を取得します。

グループ化された数値のリスト例：まず、各グループの合計が計算され、最後に全グループの合計が表示されます。

```
dataBand1.DataSource = Numbers;
```

```
集計関数 : AggregateFunction = Sum; Expression = dataBand1 ["Value"]; Name = SUM;
```

```
groupBand4.GroupExpression = dataBand1["Type"]; textBoxDetail.Value = dataBand1["Value"];  
textBoxFooter.Value = GetTotal("SUM");
```

レポートテンプレート	レポート
dataBand1:DataBand DataSource	1
groupBand4:GroupBand Group	13
detail9:Detail	12
<data	group sum 26
footer2:Footer	-34
group sum <Get	-56
end of groupBand4	108
footer3:Footer	group sum 18
total sum <Get	total sum 44
end of dataBand1	

水平方向のリストと表

水平方向のリスト

水平方向のリストを作成するには、**CrossBand** を使用します。**CrossBand** はこのバンド内のオブジェクトを水平方向（左から右）に反復表示します。**CrossBand** は、レポート内の **CrossBand** の位置を定義する **Detail**、**Header** または **Footer** に入れなければなりません。反復回数は **InstanceCount** プロパティで定義します。

Data	
DataSource	
InstanceCount	5
Tag	

命令文 : `<CrossBand name>. LineNumber()`は、項目番号を取得するために使用します。**CrossBand** に出されるすべての項目が1行に収まり切らない場合は、次のページに表示されます。

項目番号を出力する水平方向のリストの例 :

```
crossBand1.InstanceCount = 4;
textBox.Value = crossBand1.LineNumber().ToString + " of " +
crossBand1.InstanceCount().ToString;
```

レポートテンプレート	レポート

データソースのデータを使った水平方向のリスト

CrossBand はデータソースのデータに基づいて水平方向のリストを作成できます。データソースは **DataSource** プロパティに設定します。出力項目数はソースの項目数に依存するので、**InstanceCount** プロパティは無視されます。

Data	
DataSource	Numbers
InstanceCount	0
Tag	

(出力する) 現在のフィールドにアクセスするには、スクリプト : `GetData(" <Data source name>.<Field name>")` を使用します。

1行の数値を出力する水平方向のリストの例 :

```
crossBand1.DataSource = Numbers; textBox.Value = GetData("Numbers.Value")
```



レポートテンプレート	レポート					
<pre> dataBand:DataBand header:Header <Get CrossBand </pre>	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>-34</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>-56</td> </tr> </table>	1	-34	13	12	-56
1	-34	13	12	-56		

表

DataBand に CrossBand を入れて使用することで、データを表として出力することができます。

カレンダーの出力例 :

```

dataBand.InstanceCount = 5; crossBand. InstanceCount = 7; textBox.Value =
(crossBand.LineNumber + ((dataBand.LineNumber - 1) * 7))>31?"":(crossBand.LineNumber +
((dataBand.LineNumber - 1) * 7)).ToString();

```

レポートテンプレート	レポート																																																	
<pre> dataBand:DataBand header:Header March, 2010 CrossBand <cr end of dataBand </pre>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">March, 2010</th> </tr> <tr> <th>Sun</th> <th>Mon</th> <th>Tue</th> <th>Wed</th> <th>Thu</th> <th>Fri</th> <th>Sat</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>30</td> <td>31</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	March, 2010							Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
March, 2010																																																		
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat																																												
1	2	3	4	5	6	7																																												
8	9	10	11	12	13	14																																												
15	16	17	18	19	20	21																																												
22	23	24	25	26	27	28																																												
29	30	31																																																



SideBySide バンド

SideBySide はさまざまなバンドのオブジェクトを並列表示するために使用します。SideBySide 内のオブジェクトはすべてバンドの先頭から出力されます。BandContainer はその中に格納されている複数のセクションを（先頭からではなく）その隣りから並列表示するために使用します。

さまざまなバンドから並列表示する例：

dataBand1.InstanceCount = 5;

dataBand2.InstanceCount = 4;

dataBand3.InstanceCount = 2;

レポートテンプレート	テンプレートの構造	レポート
<pre> sideBySide1:SideBySide dataBand1:DataBand detail1:Detail 1 end of dataBand1 dataBand2:DataBand detail2:Detail 2 end of dataBand2 dataBand3:DataBand detail3:Detail 3 end of dataBand3 </pre>	<pre> Document tree document1 ├── page1 │ └── sideBySide1 │ ├── dataBand1 │ │ ├── detail1 │ │ ├── dataBand2 │ │ │ ├── detail2 │ │ │ └── dataBand3 │ │ │ └── detail3 </pre>	
<pre> sideBySide1:SideBySide dataBand1:DataBand detail1:Detail 1 end of dataBand1 bandContainer1:BandContainer dataBand2:DataBand detail2:Detail 2 end of dataBand2 dataBand3:DataBand detail3:Detail 3 end of dataBand3 </pre>	<pre> Document tree document1 ├── page1 │ └── sideBySide1 │ ├── dataBand1 │ │ └── detail1 │ ├── bandContainer1 │ │ ├── dataBand2 │ │ │ ├── detail2 │ │ │ └── dataBand3 │ │ │ └── detail3 </pre>	



ピボットテーブル

ピボットテーブルは、データ出力を構築し、合計を計算するために使用されます。PivotTable はピボットテーブルの作成に使用します。DataSource プロパティは、ピボットテーブルのデータソースを設定します。

Data	
DataSource	Sales
Layout	
NestedFields	(Collection)
Tag	

Layout プロパティは処理後のピボットテーブルの行や列の値を設定します。このプロパティは、[ソースフィールド](#)で変更できます。

データソースのフィールド一覧は、左側のソースフィールドに表示されます。データキューブ フィールドは、ピボットテーブルのデータを割り当てます。ピボットテーブルの水平方向の見出しのフィールドは、X デイメンションフィールドに設定します。ピボットテーブルの垂直方向の見出しのフィールドは、Y デイメンションフィールドに設定します。ファクトフィールドには、データを持ったセルのフィールドが格納されます。プロパティグリッドは右側に表示され、セルのプロパティを設定するために使用します。

Appearance	
Caption	ProductName
Format	
ShowPercent	False
SortOrder	Ascending
TotalLabel	
Width	100
Data	
Aggregate	Sum
DisplayExpressi	
Expression	GetData("Sales.Pro



テーブルのタイトル

TableCaption プロパティはテーブルのタイトルを設定します。

プロパティ		レポート				
StyleName	New Style					
⊕ Styles		Company				
TableCaption		Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total
ToolTip		Beverages	Chai	452.63		452.63
			Ipoh Coffee		909.00	909.00
			Stout	420.00		420.00
StyleName	New Style	Sales				
⊕ Styles		Company				
TableCaption	Sales	Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total
ToolTip		Beverages	Chai	452.625		452.625
			Ipoh Coffee		909	909
			Stout	420		420

テーブルの行タイトルや列タイトルは、ピボットテーブルの **Layout** プロパティのエディタで設定できます。
Caption プロパティはそのために使用します。**TotalLabel** プロパティは合計値を持つ列や行のタイトルを設定します。このプロパティが設定されていない場合、合計値は「合計」として識別されます。

プロパティ		レポート			
⊖ Appearance					
Caption	CompanyName	CompanyName			
Format		Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total
ShowPercent	False	Chai	452.63		452.63
SortOrder	Ascending	Ipoh Coffee		909.00	909.00
TotalLabel		Stout	420.00		420.00
Width	100	Total	872.63	909.00	1781.63
⊖ Appearance					
Caption	Company	Company			
Format		Product	Futterkiste	Karkki Oy	Sum
ShowPercent	False	Chai	452.63		452.63
SortOrder	Ascending	Ipoh Coffee		909.00	909.00
TotalLabel	Sum	Stout	420.00		420.00
Width	100	Total	872.63	909.00	1781.63



現在のページに文字列が収まり切らない場合は、次のページにテキストを反復させることができます。それには、**ShowRepeatText** プロパティを使用してください。

プロパティ		レポート		
RowHeight	30	Dairy Products	Courdavault	890.63
Shift	0 cm		Flotemysost	2256.00
ShowRepeatText	True		Geitost	154.84
ShowSingleFact	False			
		Dairy Products	Total	3301.47
RowHeight	30	Dairy Products	Courdavault	890.63
Shift	0 cm		Flotemysost	2256.00
ShowRepeatText	False		Geitost	154.84
ShowSingleFact	False			
			Total	3301.47

データ形式

「ソースフィールド」エディタの **Format** プロパティを使用して、出力データの形式を定義できます。

プロパティ		レポート		
Appearance		452.625		452.625
Caption	Price		909	909
Format		420		420
ShowPercent	False	872.625	909	1781.625
SortOrder	Ascending	890.625		890.625
		890.625		890.625
		1763.25	909	2672.25
Appearance		452.63		452.63
Caption	Price		909.00	909.00
Format	0.00	420.00		420.00
ShowPercent	False	872.63	909.00	1781.63
SortOrder	Ascending	890.63		890.63
		890.63		890.63
		1763.25	909.00	2672.25
Appearance		16.94%		16.94%
Caption	Price		34.02%	34.02%
Format	0.00	15.72%		15.72%
ShowPercent	True	32.66%	34.02%	66.67%
SortOrder	Ascending	33.33%		33.33%
		33.33%		33.33%
		65.98%	34.02%	100.00%

ShowZeroValues プロパティはレポートに NULL 値を表示します。

プロパティ		レポート		
ShowSingleFact	False	452.63		452.63
ShowTableCaption	True		909.00	909.00
ShowZeroValues	False	420.00		420.00
StyleName	Main			
ShowSingleFact	False	452.63	0	452.63
ShowTableCaption	True	0	909.00	909.00
ShowZeroValues	True	420.00	0	420.00
StyleName	Main			

合計の表示/非表示

フィールドの ShowTotal プロパティを使用して、ピボットテーブルの「合計」列または行を非表示にすることができます。「ソースフィールド」エディタでこのプロパティを設定できます。

プロパティ		レポート		
Appearance Caption Category Format ShowPercent False ShowTotal True SortOrder Ascending		Category	Product	Alfreds Futterkiste
		Beverages	Chai	505,88
			Ipoh Coffee	
			Steeleye Stout	525,00
			Total	1030,88
		Confections	Maxilaku	130,00
			Total	130,00
		Total	4509,22	
Appearance Caption Category Format ShowPercent False ShowTotal False SortOrder Ascending		Category	Product	Alfreds Futterkiste
		Beverages	Chai	505,88
			Ipoh Coffee	
			Steeleye Stout	525,00
			Total	
		Confections	Maxilaku	130,00
			Total	4509,22

データの並べ替え

並べ替え順は SortOrder プロパティで設定します。このプロパティの値には Ascending（昇順）と Descending（降順）があります。

データのフィルタ処理

フィルタ処理は、ある特定条件を指定してデータを出力しなければならない場合に使用します。FilterExpression プロパティは、その条件を設定するために使用します。式はスクリプトで設定します。この式の計算結果がピボットテーブルのデータを決めます。

プロパティ		レポート				
設定なし			Futterkiste	Karkki Oy	Shopy	Total
		Category	Product	Discount	Discount	Discount
		Beverages	Chai	0.15	0.04	0.19
			Ipoh Coffee		0.1	0.1
			Stout	0.2		0.2
			Total	0.35	0.14	0.49
FilterExpression="(double)GetData("Sales.Discount") >= 0.1"			Futterkiste	Karkki Oy	Total	
		Category	Product	Discount	Discount	Discount
		Beverages	Chai	0.15		0.15
			Ipoh Coffee		0.1	0.1
			Stout	0.2		0.2
			Total	0.35	0.1	0.45



テーブルのサイズ

ピボットテーブルのセルサイズは、規定ではピボットテーブルのデータの大きさに応じて自動的に決まります。このために、**AutoColumnWidth**（列の幅を設定します）と **AutoRowHeight**（行の高さを設定します）プロパティを使用します。行の高さを任意に設定するには、**AutoRowHeight** プロパティの値を「None」に選択し、**RowHeight** プロパティにピクセル単位で行の高さを設定してください。

Appearance	
AutoColumnWidth	True
AutoRowHeight	None
DimensionOnEveryPage	False
RowHeight	100

左側の余白は **Shift** プロパティで設定します。

テーブルのスタイル

StyleName プロパティは、テーブルのスタイルを設定します。スタイルを作成するには、[スタイルシートエディタ](#)を使用します。

Styles のプロパティ群を使用して、各セル型に個別のスタイルを設定できます。

プロパティ	レポート																																																																					
<table border="1"> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>Styles</td><td></td></tr> <tr><td> EvenRowFactStyle</td><td></td></tr> <tr><td> FieldCaptionStyle</td><td></td></tr> <tr><td> GroupTotalStyle</td><td></td></tr> <tr><td> MainTotalStyle</td><td></td></tr> <tr><td> OddRowFactStyle</td><td></td></tr> <tr><td> TableCaptionStyle</td><td></td></tr> <tr><td> TotalStyle</td><td></td></tr> <tr><td> XDimensionStyle</td><td></td></tr> <tr><td> YDimensionStyle</td><td></td></tr> </table>	StyleName		Styles		EvenRowFactStyle		FieldCaptionStyle		GroupTotalStyle		MainTotalStyle		OddRowFactStyle		TableCaptionStyle		TotalStyle		XDimensionStyle		YDimensionStyle		<table border="1"> <tr><td colspan="5">Sales</td></tr> <tr><td colspan="5">Company</td></tr> <tr><td>Category</td><td>Product</td><td>Futterkiste</td><td>Karkki Oy</td><td>Total</td></tr> <tr><td></td><td>Chai</td><td>452.63</td><td></td><td>452.63</td></tr> <tr><td rowspan="3">Beverages</td><td>Ipoh Coffee</td><td></td><td>909.00</td><td>909.00</td></tr> <tr><td>Stout</td><td>420.00</td><td></td><td>420.00</td></tr> <tr><td>Total</td><td>872.63</td><td>909.00</td><td>1781.63</td></tr> <tr><td rowspan="2">Dairy Products</td><td>Courdavault</td><td>890.63</td><td></td><td>890.63</td></tr> <tr><td>Total</td><td>890.63</td><td></td><td>890.63</td></tr> <tr><td>Total</td><td></td><td>1763.25</td><td>909.00</td><td>2672.25</td></tr> </table>	Sales					Company					Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total		Chai	452.63		452.63	Beverages	Ipoh Coffee		909.00	909.00	Stout	420.00		420.00	Total	872.63	909.00	1781.63	Dairy Products	Courdavault	890.63		890.63	Total	890.63		890.63	Total		1763.25	909.00	2672.25
StyleName																																																																						
Styles																																																																						
EvenRowFactStyle																																																																						
FieldCaptionStyle																																																																						
GroupTotalStyle																																																																						
MainTotalStyle																																																																						
OddRowFactStyle																																																																						
TableCaptionStyle																																																																						
TotalStyle																																																																						
XDimensionStyle																																																																						
YDimensionStyle																																																																						
Sales																																																																						
Company																																																																						
Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total																																																																		
	Chai	452.63		452.63																																																																		
Beverages	Ipoh Coffee		909.00	909.00																																																																		
	Stout	420.00		420.00																																																																		
	Total	872.63	909.00	1781.63																																																																		
Dairy Products	Courdavault	890.63		890.63																																																																		
	Total	890.63		890.63																																																																		
Total		1763.25	909.00	2672.25																																																																		
<table border="1"> <tr><td>StyleName</td><td>Main</td></tr> <tr><td>Styles</td><td></td></tr> <tr><td> EvenRowFactStyle</td><td></td></tr> <tr><td> FieldCaptionStyle</td><td></td></tr> <tr><td> GroupTotalStyle</td><td></td></tr> <tr><td> MainTotalStyle</td><td></td></tr> <tr><td> OddRowFactStyle</td><td></td></tr> <tr><td> TableCaptionStyle</td><td></td></tr> <tr><td> TotalStyle</td><td></td></tr> <tr><td> XDimensionStyle</td><td></td></tr> <tr><td> YDimensionStyle</td><td></td></tr> </table>	StyleName	Main	Styles		EvenRowFactStyle		FieldCaptionStyle		GroupTotalStyle		MainTotalStyle		OddRowFactStyle		TableCaptionStyle		TotalStyle		XDimensionStyle		YDimensionStyle		<table border="1"> <tr><td colspan="5">Sales</td></tr> <tr><td colspan="5">Company</td></tr> <tr><td>Category</td><td>Product</td><td>Futterkiste</td><td>Karkki Oy</td><td>Total</td></tr> <tr><td></td><td>Chai</td><td>452.63</td><td></td><td>452.63</td></tr> <tr><td rowspan="3">Beverages</td><td>Ipoh Coffee</td><td></td><td>909.00</td><td>909.00</td></tr> <tr><td>Stout</td><td>420.00</td><td></td><td>420.00</td></tr> <tr><td>Total</td><td>872.63</td><td>909.00</td><td>1781.63</td></tr> <tr><td rowspan="2">Dairy Products</td><td>Courdavault</td><td>890.63</td><td></td><td>890.63</td></tr> <tr><td>Total</td><td>890.63</td><td></td><td>890.63</td></tr> <tr><td>Total</td><td></td><td>1763.25</td><td>909.00</td><td>2672.25</td></tr> </table>	Sales					Company					Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total		Chai	452.63		452.63	Beverages	Ipoh Coffee		909.00	909.00	Stout	420.00		420.00	Total	872.63	909.00	1781.63	Dairy Products	Courdavault	890.63		890.63	Total	890.63		890.63	Total		1763.25	909.00	2672.25
StyleName	Main																																																																					
Styles																																																																						
EvenRowFactStyle																																																																						
FieldCaptionStyle																																																																						
GroupTotalStyle																																																																						
MainTotalStyle																																																																						
OddRowFactStyle																																																																						
TableCaptionStyle																																																																						
TotalStyle																																																																						
XDimensionStyle																																																																						
YDimensionStyle																																																																						
Sales																																																																						
Company																																																																						
Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total																																																																		
	Chai	452.63		452.63																																																																		
Beverages	Ipoh Coffee		909.00	909.00																																																																		
	Stout	420.00		420.00																																																																		
	Total	872.63	909.00	1781.63																																																																		
Dairy Products	Courdavault	890.63		890.63																																																																		
	Total	890.63		890.63																																																																		
Total		1763.25	909.00	2672.25																																																																		
<table border="1"> <tr><td>StyleName</td><td>Main</td></tr> <tr><td>Styles</td><td></td></tr> <tr><td> EvenRowFactStyle</td><td>DataStyle</td></tr> <tr><td> FieldCaptionStyle</td><td>CaptionStyle</td></tr> <tr><td> GroupTotalStyle</td><td></td></tr> <tr><td> MainTotalStyle</td><td>Total Style</td></tr> <tr><td> OddRowFactStyle</td><td>DataStyle</td></tr> <tr><td> TableCaptionStyle</td><td>CaptionStyle</td></tr> <tr><td> TotalStyle</td><td>Total Style</td></tr> <tr><td> XDimensionStyle</td><td></td></tr> <tr><td> YDimensionStyle</td><td></td></tr> </table>	StyleName	Main	Styles		EvenRowFactStyle	DataStyle	FieldCaptionStyle	CaptionStyle	GroupTotalStyle		MainTotalStyle	Total Style	OddRowFactStyle	DataStyle	TableCaptionStyle	CaptionStyle	TotalStyle	Total Style	XDimensionStyle		YDimensionStyle		<table border="1"> <tr><td colspan="5">Sales</td></tr> <tr><td colspan="5">Company</td></tr> <tr><td>Category</td><td>Product</td><td>Futterkiste</td><td>Karkki Oy</td><td>Total</td></tr> <tr><td></td><td>Chai</td><td>452.63</td><td></td><td>452.63</td></tr> <tr><td rowspan="3">Beverages</td><td>Ipoh Coffee</td><td></td><td>909.00</td><td>909.00</td></tr> <tr><td>Stout</td><td>420.00</td><td></td><td>420.00</td></tr> <tr><td>Total</td><td>872.63</td><td>909.00</td><td>1781.63</td></tr> <tr><td rowspan="2">Dairy Products</td><td>Courdavault</td><td>890.63</td><td></td><td>890.63</td></tr> <tr><td>Total</td><td>890.63</td><td></td><td>890.63</td></tr> <tr><td>Total</td><td></td><td>1763.25</td><td>909.00</td><td>2672.25</td></tr> </table>	Sales					Company					Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total		Chai	452.63		452.63	Beverages	Ipoh Coffee		909.00	909.00	Stout	420.00		420.00	Total	872.63	909.00	1781.63	Dairy Products	Courdavault	890.63		890.63	Total	890.63		890.63	Total		1763.25	909.00	2672.25
StyleName	Main																																																																					
Styles																																																																						
EvenRowFactStyle	DataStyle																																																																					
FieldCaptionStyle	CaptionStyle																																																																					
GroupTotalStyle																																																																						
MainTotalStyle	Total Style																																																																					
OddRowFactStyle	DataStyle																																																																					
TableCaptionStyle	CaptionStyle																																																																					
TotalStyle	Total Style																																																																					
XDimensionStyle																																																																						
YDimensionStyle																																																																						
Sales																																																																						
Company																																																																						
Category	Product	Futterkiste	Karkki Oy	Total																																																																		
	Chai	452.63		452.63																																																																		
Beverages	Ipoh Coffee		909.00	909.00																																																																		
	Stout	420.00		420.00																																																																		
	Total	872.63	909.00	1781.63																																																																		
Dairy Products	Courdavault	890.63		890.63																																																																		
	Total	890.63		890.63																																																																		
Total		1763.25	909.00	2672.25																																																																		

ピボットテーブルの保存

Layout プロパティはピボットテーブルのフィールドの式や位置を設定します。後で使用するためにレイアウトをファイルに保存して、最初のピボットテーブルのフォームに瞬時に戻ることができます。**Layout** プロパティのエディタの[保存]/[開く]ボタンを使用して、ピボットテーブルのパラメータの保存/読込ができます。ファイルは XML 形式で、拡張子は .dcl です。



イメージ

Picture オブジェクトは、イメージを表示するために使用します。

Image プロパティはイメージを設定します。ファイルを選択するには、**Image** プロパティのボタンを押すか、**Picture** オブジェクトを左マウスボタンでダブルクリックしてください。

アップロード可能なイメージ形式 : *.bmp、*.gif、*.jpg、*.jpeg、*.png、*.ico、*.emf、*.wmf

イメージのサイズとスケーリング

Size プロパティは **Picture** オブジェクトのサイズを設定します。出力時にイメージのサイズが **Picture** オブジェクトのサイズに収まりきらない場合、**SizeMode** プロパティを使用してサイズを変更できます。

イメージの引き伸ばし - オブジェクトのサイズに応じてイメージの比率を変更します。

プロパティ		レポート								
<table border="1"> <tr><td>⊕ Margins</td><td>0; 0; 0; 0 cm</td></tr> <tr><td>SizeMode</td><td>Stretch</td></tr> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td></td></tr> </table>	⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm	SizeMode	Stretch	StyleName		ToolTip			
⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm									
SizeMode	Stretch									
StyleName										
ToolTip										
イメージの切り取り - イメージは実サイズのままで、オブジェクトのサイズに応じて切り取られます。										
<table border="1"> <tr><td>⊕ Margins</td><td>0; 0; 0; 0 cm</td></tr> <tr><td>SizeMode</td><td>Normal</td></tr> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td></td></tr> </table>	⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm	SizeMode	Normal	StyleName		ToolTip			
⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm									
SizeMode	Normal									
StyleName										
ToolTip										
自動サイズ - オブジェクトのサイズはイメージサイズに応じて変更され、編集はされません。										
<table border="1"> <tr><td>⊕ Margins</td><td>0; 0; 0; 0 cm</td></tr> <tr><td>SizeMode</td><td>AutoSize</td></tr> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td></td></tr> </table>	⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm	SizeMode	AutoSize	StyleName		ToolTip			
⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm									
SizeMode	AutoSize									
StyleName										
ToolTip										
均一 - イメージはオブジェクトの領域内の最大サイズにリサイズされ、イメージのアスペクト比は維持されます。										
<table border="1"> <tr><td>⊕ Margins</td><td>0; 0; 0; 0 cm</td></tr> <tr><td>SizeMode</td><td>Uniform</td></tr> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> <tr><td>ToolTip</td><td></td></tr> </table>	⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm	SizeMode	Uniform	StyleName		ToolTip			
⊕ Margins	0; 0; 0; 0 cm									
SizeMode	Uniform									
StyleName										
ToolTip										

イメージの位置合わせ

SizeMode プロパティを Normal か Uniform に設定した場合、ImageAlign プロパティは Picture オブジェクトの領域内のイメージの位置を定義します。

プロパティ		レポート
Fill	[None]	
+ Image	System.Drawing.Bitmap	
ImageAlign	TopLeft	
+ Margins	0; 0; 0; 0 cm	
SizeMode	Normal	
+ Image	System.Drawing.Bitmap	
ImageAlign	MiddleCenter	
+ Margins	0; 0; 0; 0 cm	
SizeMode	Normal	
StyleName		
+ Image	System.Drawing.Bitmap	
ImageAlign	BottomRight	
+ Margins	0; 0; 0; 0 cm	
SizeMode	Normal	
StyleName		

イメージの動的な読込

レポートの生成中にイメージを読み込まなければならない場合、バインドのプロパティを開いて **Image** プロパティを使用できます。ファイルからイメージを読み込む場合、次のスクリプトを使用します。

```
System.Drawing.Image.FromFile("<path to the file>")
```

レポートテンプレート	レポート
<pre>dataBand:DataBand DataSource = Employees; detail:Detail <dataBand["EmployeeName"]> end of dataBand</pre>	<p><u>Nancy Davolio</u></p> 
<pre>dataBand.DataSource = Employees; textBox.Value = dataBand["EmployeeName"]; picture.Image = System.Drawing.Image.FromFile ("C:\\Data\\Pictures\\"+dataBand["EmployeeName"]. ToString()+".png"); picture.SizeMode = AutoSize;</pre>	<p><u>Andrew Fuller</u></p> 

データソースのイメージ

データソースからイメージを出力するには、データソースが設定されている **DataBand** 内の **Detail** に **Picture** オブジェクトを配置し、「バインド」タブで **Image** プロパティを設定します。この場合、イメージはデータソースにバイト型で格納されます。

レポートテンプレート	レポート
<pre>dataBand:DataBand DataSource = Employee detail:Detail <dataBand["EmployeeName"]> end of dataBand</pre>	<p><u>Nancy Davolio</u></p> 
<pre>dataBand.DataSource = Employees; textBox.Value = dataBand["EmployeeName"]; picture.Image = dataBand["Picture"]; picture.SizeMode = AutoSize;</pre>	<p><u>Andrew Fuller</u></p> 



シェープの使用

Shape コンポーネントを使用して、様々なグラフィカルな図形を出力できます。

シェープの種類

ShapeStyle プロパティは図形の種類を定義します。次の種類を使用できます。

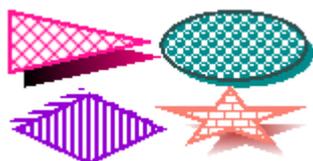
シェープのスタイル	レポート																		
<p>RectangleShape - 四角形を描画します</p> <table border="1"> <tr><td colspan="2">Appearance</td></tr> <tr><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>Line</td><td>2 Solid DodgerBlue</td></tr> <tr><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>ShapeStyle</td><td>RectangleShape</td></tr> </table>	Appearance		Fill	HatchFill	Line	2 Solid DodgerBlue	Shadow	Shadow	ShapeStyle	RectangleShape									
Appearance																			
Fill	HatchFill																		
Line	2 Solid DodgerBlue																		
Shadow	Shadow																		
ShapeStyle	RectangleShape																		
<p>TriangleShape - 二等辺三角形を描画します。Direction プロパティが三角形の向きを設定します。</p> <table border="1"> <tr><td colspan="2">Appearance</td></tr> <tr><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>Line</td><td>2 Solid DeepPink</td></tr> <tr><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>ShapeStyle</td><td>TriangleShape</td></tr> <tr><td>Direction</td><td>Right</td></tr> <tr><td>StyleName</td><td></td></tr> </table>	Appearance		Fill	HatchFill	Line	2 Solid DeepPink	Shadow	Shadow	ShapeStyle	TriangleShape	Direction	Right	StyleName						
Appearance																			
Fill	HatchFill																		
Line	2 Solid DeepPink																		
Shadow	Shadow																		
ShapeStyle	TriangleShape																		
Direction	Right																		
StyleName																			
<p>CrossShape - 十字を描画します</p> <table border="1"> <tr><td colspan="2">Appearance</td></tr> <tr><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>Line</td><td>2 Solid DarkTurquoise</td></tr> <tr><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>ShapeStyle</td><td>CrossShape</td></tr> </table>	Appearance		Fill	HatchFill	Line	2 Solid DarkTurquoise	Shadow	Shadow	ShapeStyle	CrossShape									
Appearance																			
Fill	HatchFill																		
Line	2 Solid DarkTurquoise																		
Shadow	Shadow																		
ShapeStyle	CrossShape																		
<p>DiamondShape - ひし形を描画します</p> <table border="1"> <tr><td colspan="2">Appearance</td></tr> <tr><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>Line</td><td>2 Solid DarkViolet</td></tr> <tr><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>ShapeStyle</td><td>DiamondShape</td></tr> </table>	Appearance		Fill	HatchFill	Line	2 Solid DarkViolet	Shadow	Shadow	ShapeStyle	DiamondShape									
Appearance																			
Fill	HatchFill																		
Line	2 Solid DarkViolet																		
Shadow	Shadow																		
ShapeStyle	DiamondShape																		
<p>StarShape - 星型を描画します。InternalRadius プロパティは内接円の半径を設定します。KeepRoundForm プロパティは星の形（楕円または円）を定義します。Points プロパティは放射線の数を定義します。StartAngle プロパティは星の回転角度を設定します。</p> <table border="1"> <tr><td colspan="2">Appearance</td></tr> <tr><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>Line</td><td>2 Solid Salmon</td></tr> <tr><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>ShapeStyle</td><td>StarShape</td></tr> <tr><td>InternalRadius</td><td>0.37999999523162842</td></tr> <tr><td>KeepRoundForm</td><td>False</td></tr> <tr><td>Points</td><td>5</td></tr> <tr><td>StartAngle</td><td>0</td></tr> </table>	Appearance		Fill	HatchFill	Line	2 Solid Salmon	Shadow	Shadow	ShapeStyle	StarShape	InternalRadius	0.37999999523162842	KeepRoundForm	False	Points	5	StartAngle	0	
Appearance																			
Fill	HatchFill																		
Line	2 Solid Salmon																		
Shadow	Shadow																		
ShapeStyle	StarShape																		
InternalRadius	0.37999999523162842																		
KeepRoundForm	False																		
Points	5																		
StartAngle	0																		
<p>ArrowShape - 矢印を描画します。Direction プロパティが矢印の向きを設定します。</p> <table border="1"> <tr><td colspan="2">Appearance</td></tr> <tr><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>Line</td><td>2 Solid SpringGreen</td></tr> <tr><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>ShapeStyle</td><td>ArrowShape</td></tr> <tr><td>Direction</td><td>Left</td></tr> </table>	Appearance		Fill	HatchFill	Line	2 Solid SpringGreen	Shadow	Shadow	ShapeStyle	ArrowShape	Direction	Left							
Appearance																			
Fill	HatchFill																		
Line	2 Solid SpringGreen																		
Shadow	Shadow																		
ShapeStyle	ArrowShape																		
Direction	Left																		
<p>RectTriangleShape - 5角形を描画します。Direction プロパティが図形の向きを設定します。</p>																			

<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Appearance</td></tr> <tr><td>+</td><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>+</td><td>Line</td><td>2 Solid DarkOrange</td></tr> <tr><td>+</td><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>[-]</td><td>ShapeStyle</td><td>RectTriangleShape</td></tr> <tr><td></td><td>Direction</td><td>Up</td></tr> </table>	[-] Appearance		+	Fill	HatchFill	+	Line	2 Solid DarkOrange	+	Shadow	Shadow	[-]	ShapeStyle	RectTriangleShape		Direction	Up	
[-] Appearance																		
+	Fill	HatchFill																
+	Line	2 Solid DarkOrange																
+	Shadow	Shadow																
[-]	ShapeStyle	RectTriangleShape																
	Direction	Up																
EllipseShape – 楕円を描画します。																		
<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Appearance</td></tr> <tr><td>+</td><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>+</td><td>Line</td><td>2 Solid DarkCyan</td></tr> <tr><td>+</td><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td></td><td>ShapeStyle</td><td>EllipseShape</td></tr> </table>	[-] Appearance		+	Fill	HatchFill	+	Line	2 Solid DarkCyan	+	Shadow	Shadow		ShapeStyle	EllipseShape				
[-] Appearance																		
+	Fill	HatchFill																
+	Line	2 Solid DarkCyan																
+	Shadow	Shadow																
	ShapeStyle	EllipseShape																
RoundRectangleShape – 角丸四角形を描画します。Round プロパティは角丸の半径を設定します。																		
<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Appearance</td></tr> <tr><td>+</td><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>+</td><td>Line</td><td>2 Solid DarkSlateBlue</td></tr> <tr><td>+</td><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>[-]</td><td>ShapeStyle</td><td>RoundRectangleShape</td></tr> <tr><td></td><td>Round</td><td>0,4</td></tr> </table>	[-] Appearance		+	Fill	HatchFill	+	Line	2 Solid DarkSlateBlue	+	Shadow	Shadow	[-]	ShapeStyle	RoundRectangleShape		Round	0,4	
[-] Appearance																		
+	Fill	HatchFill																
+	Line	2 Solid DarkSlateBlue																
+	Shadow	Shadow																
[-]	ShapeStyle	RoundRectangleShape																
	Round	0,4																
ParallelogramShape – 平行四辺形を描画します。Angle プロパティは平行四辺形の回転角度を設定します。																		
<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Appearance</td></tr> <tr><td>+</td><td>Fill</td><td>HatchFill</td></tr> <tr><td>+</td><td>Line</td><td>2 Solid DarkMagenta</td></tr> <tr><td>+</td><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>[-]</td><td>ShapeStyle</td><td>ParallelogramShape</td></tr> <tr><td></td><td>Angle</td><td>45</td></tr> </table>	[-] Appearance		+	Fill	HatchFill	+	Line	2 Solid DarkMagenta	+	Shadow	Shadow	[-]	ShapeStyle	ParallelogramShape		Angle	45	
[-] Appearance																		
+	Fill	HatchFill																
+	Line	2 Solid DarkMagenta																
+	Shadow	Shadow																
[-]	ShapeStyle	ParallelogramShape																
	Angle	45																
LineShape – 線を描画します。LineKind プロパティは線の回転角度を設定します。																		
<table border="1"> <tr><td colspan="2">[-] Appearance</td></tr> <tr><td></td><td>Fill</td><td>[None]</td></tr> <tr><td>+</td><td>Line</td><td>2 Solid Red</td></tr> <tr><td>+</td><td>Shadow</td><td>Shadow</td></tr> <tr><td>[-]</td><td>ShapeStyle</td><td>LineShape</td></tr> <tr><td></td><td>LineKind</td><td>BackSlash</td></tr> </table>	[-] Appearance			Fill	[None]	+	Line	2 Solid Red	+	Shadow	Shadow	[-]	ShapeStyle	LineShape		LineKind	BackSlash	
[-] Appearance																		
	Fill	[None]																
+	Line	2 Solid Red																
+	Shadow	Shadow																
[-]	ShapeStyle	LineShape																
	LineKind	BackSlash																

シェープの影

シェープの影は **Shadow** プロパティで設定します。DX 値と DY 値は影のオフセットを設定します。Fill プロパティは塗りつぶしを設定します。影を追加するとオブジェクトの大きさは同じですが、シェープの大きさは小さくなります。

シェープの影の使用例：

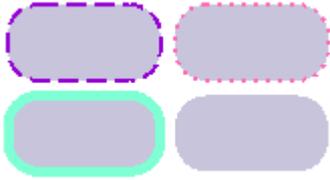


シェープの枠

シェープの枠は、**Line** プロパティで定義します。Color プロパティは線の色を設定します。Style プロパティは線のスタイルを設定します。Width プロパティは線の幅を設定します。



枠線の例：



バーコード

BarCode コンポーネントはバーコードを作成するために使用します。バーコードのコードは **Code** プロパティに設定します。大半のバーコードに数字を使用できます。一部の高度なバーコードにラテン記号を使用できます。

プロパティ		レポート
CalcCheckSumm	False	 123456
Code	123456	
CodeType	Code39	
CalcCheckSumm	False	 Code 123456
Code	Code 123456	
CodeType	Code39Extended	

バーコードの比率は **BarRatio** プロパティに設定します。

バーコードの種類

バーコードの種類は **CodeType** プロパティに設定します。利用可能なバーコード型は次の通りです。

Code_2_5_interleaved、Code_2_5_industrial、Code_2_5_matrix、Code39 (default value)、Code39Extended、Code128A、Code128B、Code128C、Code93、Code93Extended、CodeMSI、CodePostNet、CodeCodabar、CodeEAN8、CodeJAN8、CodeEAN13、CodeJAN13、CodeUPC_A、CodeUPC_E0、CodeUPC_E1、CodeUPC_Supp2、CodeUPC_Supp5、CodeEAN128A、CodeEAN128B、CodeEAN128C

2次元バーコードを使用するには次のような付加的な設定が必要です。

PDF417、PDF417Compact の場合：Pdf417Settings のプロパティ群の設定

CodeType	PDF417
Fill	[None]
Font	Arial; 12pt
LabelPosition	BottomCenter
Margins	0; 0; 0; 0 cm
MicroQRCodeSettings	PerpetuumSoft.Framework.Drawir
Pdf417Settings	3; 0; 5; TextMode
ColumnsCount	3
ErrorLevel	0
RowsCount	5
Type	TextMode

QRCode の場合：QRCodeSettings のプロパティ群の設定

CodeType	QRCode
Fill	[None]
Font	Arial; 12pt
LabelPosition	BottomCenter
Margins	0; 0; 0; 0 cm
MicroQRCodeSettings	PerpetuumSoft.Framework.Drawir
Pdf417Settings	3; 0; 5; TextMode
QRCodeSettings	PerpetuumSoft.Framework.Drawi
ErrorCorrectionLevel	L
Mask	Mask000
MirrorImaging	False
ReflectanceReversal	False
Version	4

MicroQRCode の場合 : MicroQRCodeSettings のプロパティ群の設定

CodeType	MicroQRCode
Fill	[None]
Font	Arial; 12pt
LabelPosition	BottomCenter
Margins	0; 0; 0; 0 cm
MicroQRCodeSettings	PerpetuumSoft.Framework.Drawi
ErrorCorrectionLevel	L
Mask	Mask00
MirrorImaging	False
ReflectanceReversal	False
Version	4

郵便カスタマー バーコードを利用するには、Barcode オブジェクトの CodeType プロパティを「Japan_Postal」に設定します。このバーコードでは、BarPoint プロパティにバーコードのポイント数（日本郵便では 8 ポイントから 11.5 ポイントを推奨、デフォルト 10 ポイント）を指定することでデザイン時および実行時に自動的に Barcode オブジェクトの大きさが決まるようになっています。なお、BarPoint プロパティは CodeType プロパティが Japan_Postal の場合のみ有効なプロパティです。

プロパティ	レポート
BarPoint	10
BarRatio	2
Border	
CalcCheckSumm	False
Code	123456
CodeType	Japan_Postal

バーコードのスタイル

バーコードの背景色を作成するには、BackColor プロパティを使用します。バーコード自体の色は BarColor プロパティで設定できます。

プロパティ	レポート
BackColor	<input type="checkbox"/> Transparent
BarColor	<input checked="" type="checkbox"/> Black
BackColor	<input checked="" type="checkbox"/> DodgerBlue
BarColor	<input checked="" type="checkbox"/> DeepPink

ShowLabel プロパティはバーコードのラベル表示を定義します。ラベルのフォント（Font プロパティ）、色（TextColor プロパティ）、位置（LabelPosition プロパティ）を設定できます。

プロパティ	レポート
Font	Calibri; 9pt; Bold=Off; Italic=Off; U
LabelPosition	TopLeft
Margins	0; 0; 0; 0 cm
ShowCheckDigit	False
ShowLabel	False
StyleName	

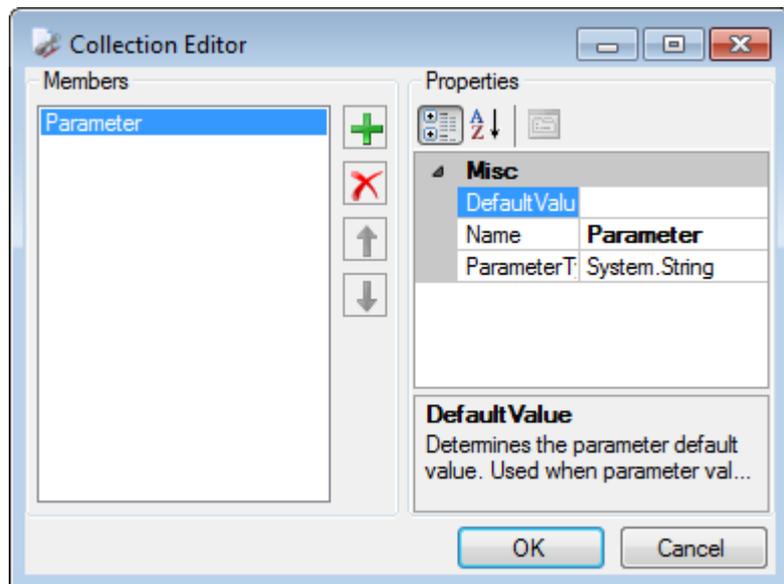
CalcCheckSumm と ShowCheckDigit プロパティ

未定



Parameters

Parameters プロパティは、レポートパラメータの設定に使用します。[コレクションエディタ](#)は、このプロパティのエディタです。



DefaultValue プロパティはパラメータ値を設定します。**Name** プロパティはサブレポートのパラメータ値を表す名前を設定します。**ParameterType** プロパティはパラメータ型を設定します（規定ではすべてのパラメータに **string** 型が使用されます）。

サブレポートのパラメータ値を取得する式：

```
GetParameter("<ParameterName>")
```

未使用



ハイパーリンクとレポートのナビゲーション

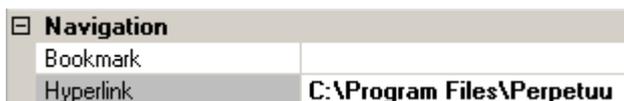
ハイパーリンクを設定するには、オブジェクトの **Hyperlink** プロパティを使用します。

外部アプリケーションの呼び出し

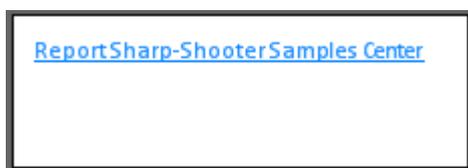
Hyperlink プロパティを使用して、外部のアプリケーションを呼び出すことができます。

TextBox オブジェクトの **Hyperlink** プロパティを使用してアプリケーションを呼び出す例：

`textBox.Hyperlink` プロパティ : `C:\Program Files\Perpetuum Software\SharpShooter Reports\Bin\SharpShooterReportsSamplesCenter.exe`



レポート：



TextBox をクリックすると **SharpShooter Reports Samples Center** が起動します。

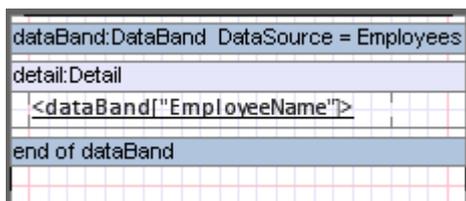
ファイルを開く

Hyperlink プロパティに設定されたファイルパスは、ファイルの種類に合ったプログラムを使用して開かれます。

ファイルパスの設定例：

Hyperlink プロパティはスクリプトで設定され、レポートの生成中にファイルアドレスに関連付けられます。

レポートテンプレート：



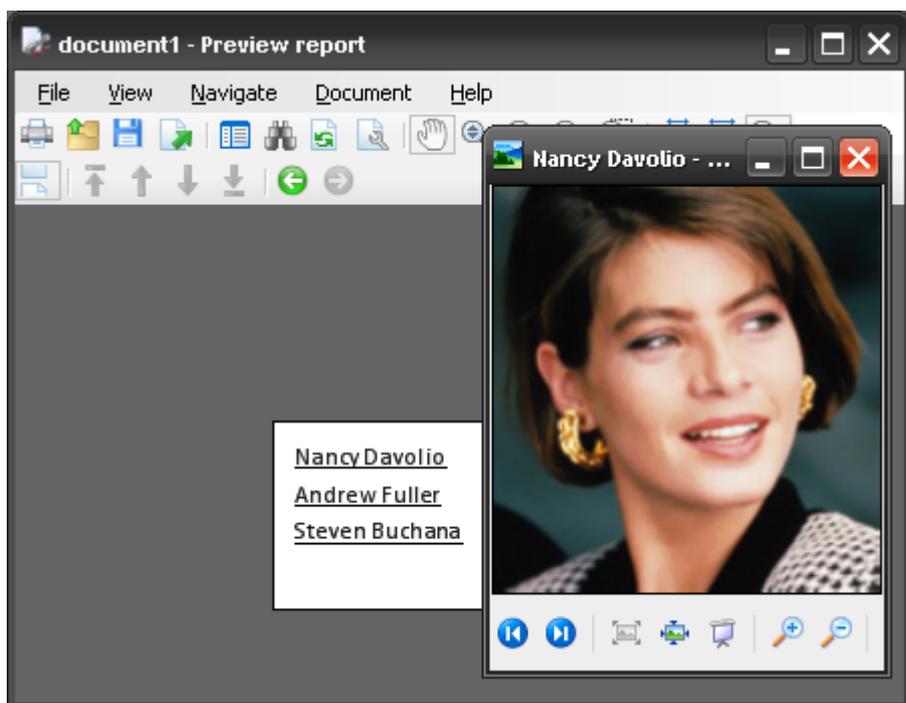
```
dataBand.DataSource = Employees;
```

```
textBox.Value = dataBand["EmployeeName"]; textBox.Hyperlink =
"C:\\Data\\Pictures\\"+dataBand["EmployeeName"].ToString()+".png"
```

レポート：



TextBox オブジェクトの領域をクリックすると、イメージのビューアを使って対象のイメージが表示されます。



インターネットリソースや Email のハイパーリンク

Hyperlink プロパティにインターネットリソースのハイパーリンクを取得するには、URL を設定する必要があります。

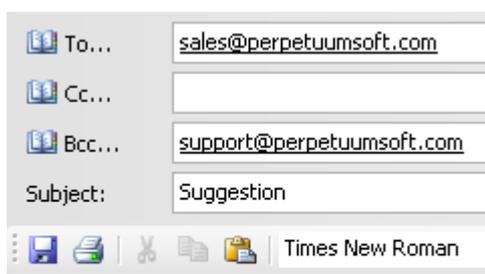
例 : `textBox.Hyperlink = "http://www.perpetuumsoft.com/"`



最終ドキュメントの TextBox オブジェクトをクリックすると、ブラウザにハイパーリンクが表示されます。

リンクをクリックすると電子メールクライアントが開くようにするには、Hyperlink プロパティに `mailto` ハイパーリンク（例 : `textBox.Hyperlink = "mailto:sales@perpetuumsoft.com"`）を設定します。そしてそのハイパーリンクをクリックすると、電子メールクライアントが開いて、設定されたアドレスにメッセージを送ることができます。件名、本文、Cc、Bcc などのパラメータも同じです。件名、本文、Cc/Bcc を送信するための Email の設定が可能です。例えば、ハイパーリンク :

<mailto:sales@perpetuumsoft.com?subject=Suggestion&Body=Hello!%0DI%20have%20some%20ideas%20for%20you.&bcc=support@perpetuumsoft.com> は次のようなデータの電子メールクライアントを開きます。

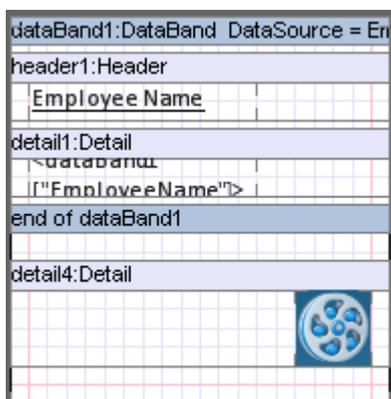


Hello!
I have some ideas for you. |

ブックマーク

レポートを簡単に移動するには、**Bookmark** プロパティを使用できます。このプロパティは、レポートビューアのコンテンツツリーを使ってレポートの別の場所から対象のオブジェクトに移動できるブックマークを作成します。ブックマーク名は、# 記号で始めなければなりません。そうしないと **Bookmark** プロパティの値は無視されます。

レポートテンプレート :

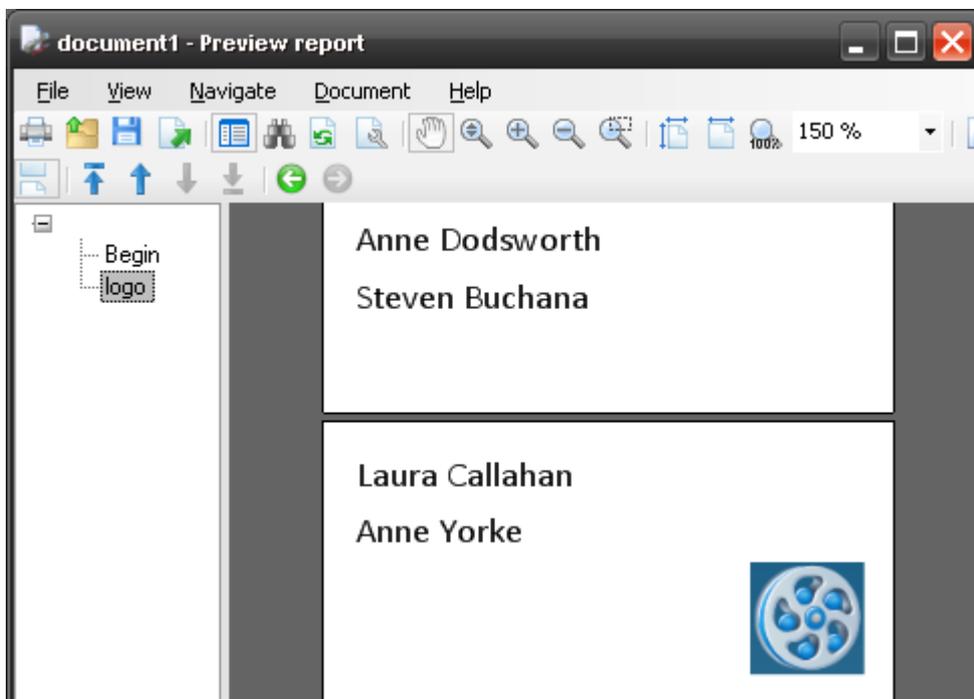


```
textBoxHeader.Bookmark = #Begin;
```

```
picture.Bookmark = #logo;
```



レポートビューアのレポート :

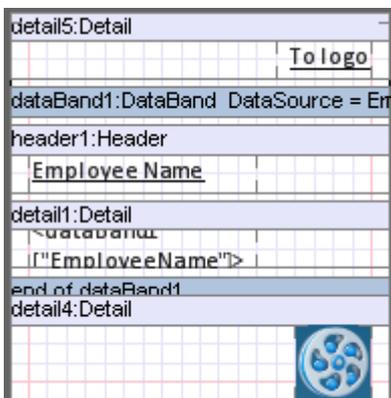


ブックマークは左側にツリー表示されます。「コンテンツ表示」ボタンはこのツリーを表示/非表示にするために使用します。コンテンツからブックマークが設定されている項目を選択すると、ブックマークの設定先のレポート領域が表示されます。

ハイパーリンクとブックマークを使ったレポートの移動

ハイパーリンクを使ってブックマークに移動するには、**Bookmark** プロパティを使用できます。それには、**Hyperlink** プロパティにブックマークの名前を設定する必要があります。

レポートテンプレート :

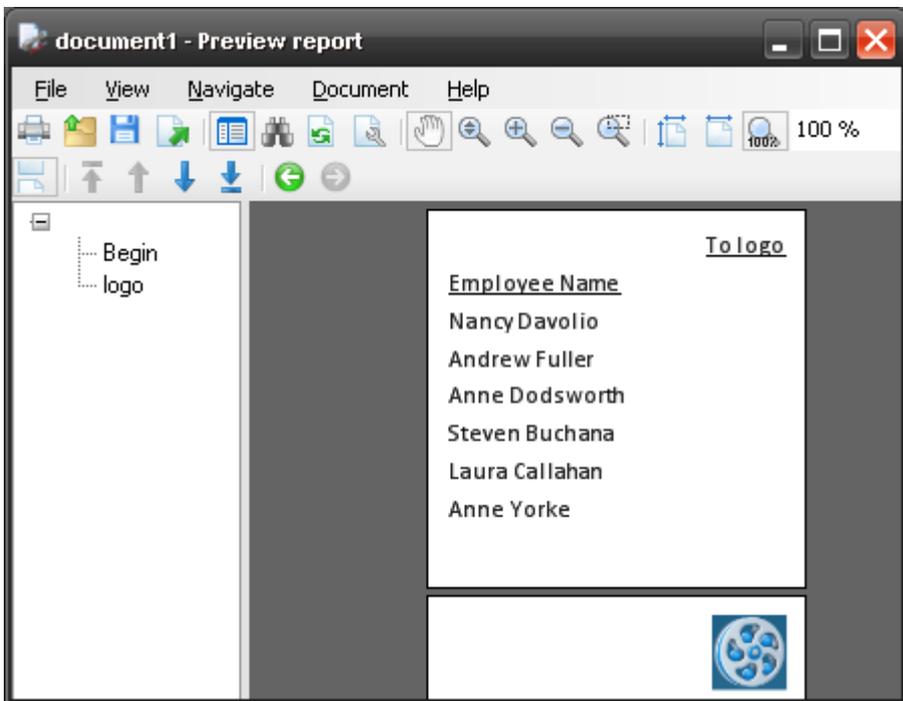


```
picture.Bookmark = #logo;
```

```
textBoxToLogo.Hyperlink = #logo
```



レポートビューアのレポート :

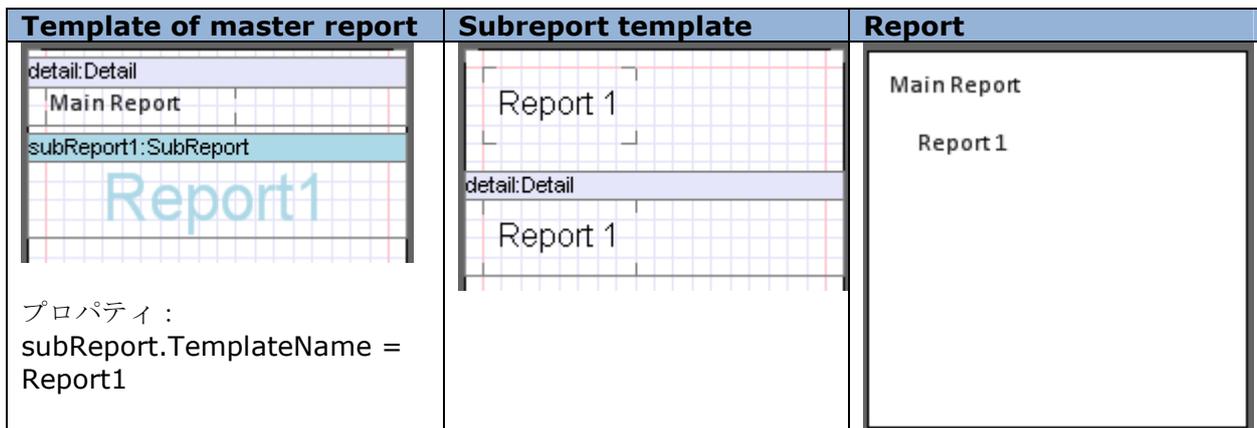
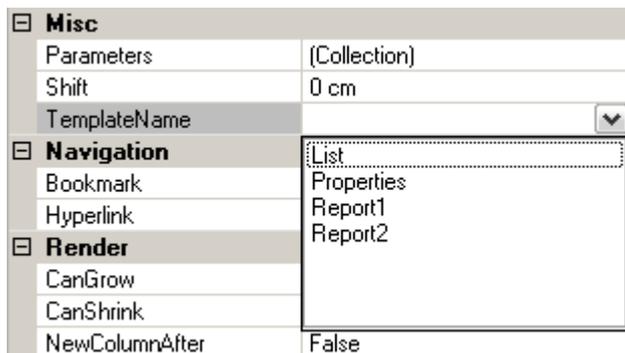


「To logo」というテキストが設定された **TextBox** をクリックすると、ロゴの入ったレポート部分が開きます。前のレポート領域に戻るには、「**Back**」というハイパーリンクを設定して戻ることができます。

サブレポートの使用

複数のレポートをひとつにまとめなければならない場合にサブレポートの使用メカニズムが使われます。サブレポートはそのために使用され、テンプレートに入れるサブレポートとその位置を定義します。サブレポートのテンプレートは、現在のテンプレートが含まれている **ReportManager** に入れてください。

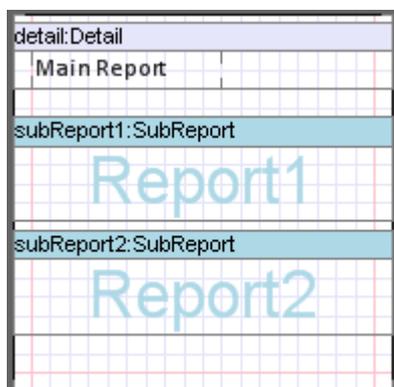
サブレポートのテンプレートを設定するには、サブレポートの **TemplateName** プロパティを使用します。このプロパティのコンボボックスには、現在の **ReportManager** に含まれているレポート名が表示されます（**ReportManager** に **ReportSlot** の **ReportName** プロパティが設定されていない場合、テンプレート名はリストには表示されません）。



(DataBand、Detail などの) バンドに格納されたオブジェクトだけが最終レポートに含まれます。サブレポートのオブジェクトにスタイルが設定されていない場合、マスターテンプレートまたはサブレポートコントロールのスタイルが適用されます。

Report1 の左側の余白を移動させるには、サブレポートの **Shift** プロパティを使用します。

レポートテンプレート：



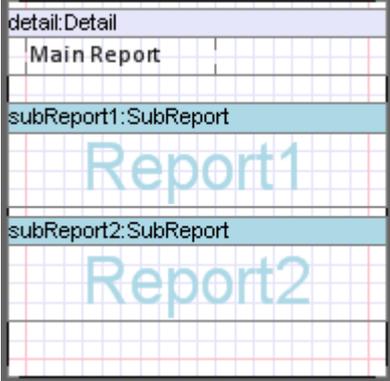
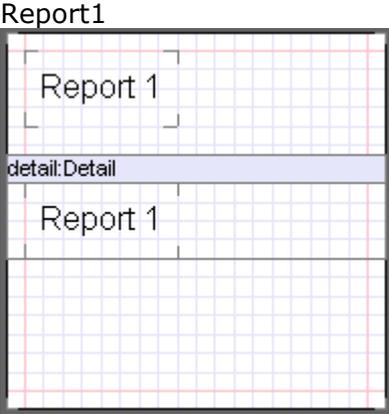
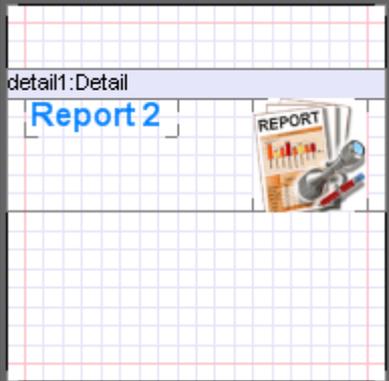


プロパティ	レポート										
<table border="1"><tr><td colspan="2"><input type="checkbox"/> Misc</td></tr><tr><td>Parameters</td><td>(Collection)</td></tr><tr><td>Shift</td><td>0 cm</td></tr><tr><td>TemplateName</td><td>Report1</td></tr></table>	<input type="checkbox"/> Misc		Parameters	(Collection)	Shift	0 cm	TemplateName	Report1	<table border="1"><tr><td>Main Report</td></tr><tr><td>Report 1</td></tr></table>	Main Report	Report 1
<input type="checkbox"/> Misc											
Parameters	(Collection)										
Shift	0 cm										
TemplateName	Report1										
Main Report											
Report 1											
<table border="1"><tr><td colspan="2"><input type="checkbox"/> Misc</td></tr><tr><td>Parameters</td><td>(Collection)</td></tr><tr><td>Shift</td><td>2 cm</td></tr><tr><td>TemplateName</td><td>Report1</td></tr></table>	<input type="checkbox"/> Misc		Parameters	(Collection)	Shift	2 cm	TemplateName	Report1	<table border="1"><tr><td>Main Report</td></tr><tr><td>Report 1</td></tr></table>	Main Report	Report 1
<input type="checkbox"/> Misc											
Parameters	(Collection)										
Shift	2 cm										
TemplateName	Report1										
Main Report											
Report 1											



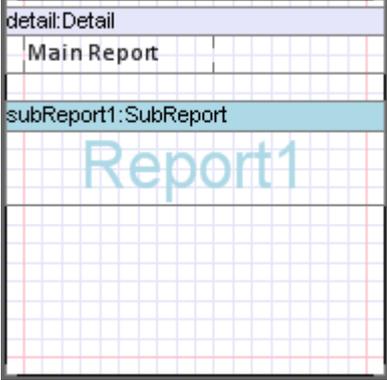
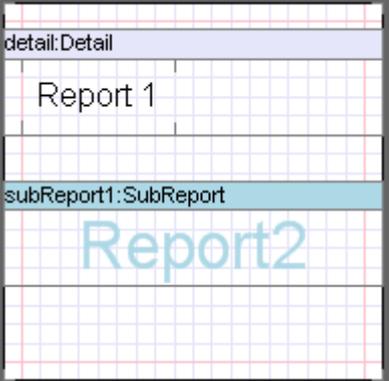
複雑なレポート

1つのレポートにサブレポートを好きなだけ追加できます。

マスターレポートテンプレート	サブレポートテンプレート	レポート
 <p>プロパティ: subReport1.TemplateName = Report1 subReport2.TemplateName = Report2</p>	 	

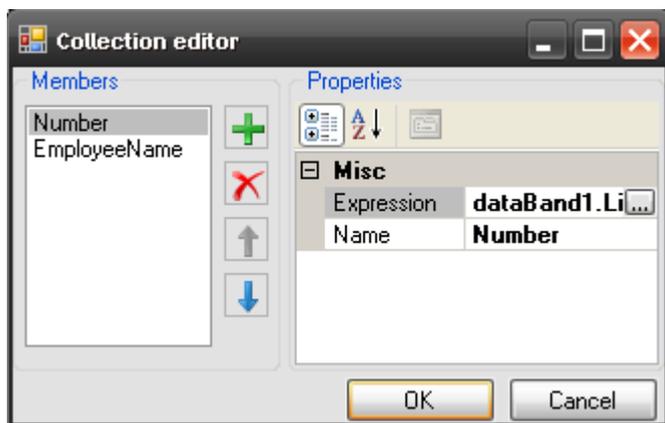


入れ子のレポートを使用できます。

マスターレポートテンプレート	サブレポートテンプレート	レポート
 <p>プロパティ： subReport1.TemplateName = Report1</p>	<p>Report1</p>  <p>プロパティ： subReport1.TemplateName = Report2</p> <p>Report2</p> 	

サブレポートにパラメータを渡す

サブレポートの **Parameters** プロパティを使用してマスターレポートからサブレポートにパラメータを渡すことができます。 [コレクションエディタ](#)はこのプロパティのエディタです。

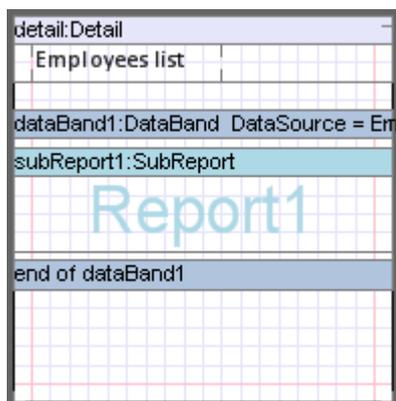


Expression プロパティには、計算結果をパラメータとして渡す式を設定します。**Name** プロパティはサブレポートのパラメータ値を表す名前を設定します。

サブレポートのパラメータ値を取得するには、式 : `GetParameter("<ParameterName>")` を使用します。

下図は社員一覧を表示するテンプレートの例です。名前と番号（連番）がサブレポートに表示されます。

マスターレポートテンプレート :

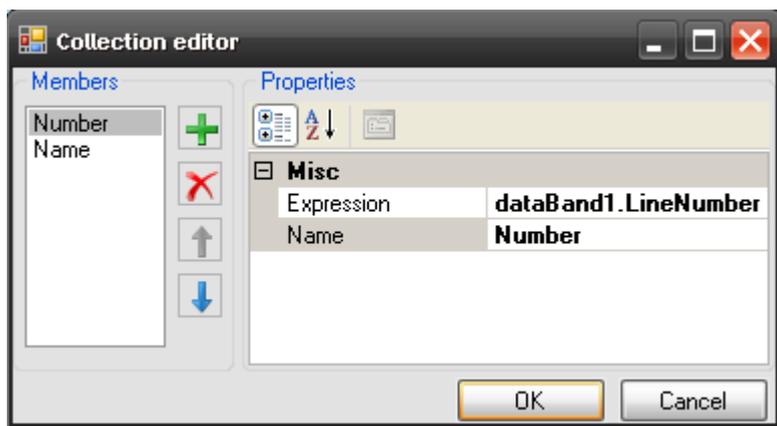


プロパティ : `subReport1.TemplateName = Report1`

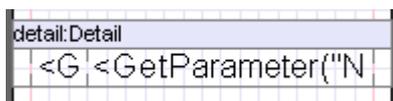
`subReport1.Parameters` プロパティのコレクションにパラメータが 2 つ追加されています。

1 つ目のパラメータ : `Expression = dataBand1.LineNumber, Name = Number`

2 つ目のパラメータ : `Expression = dataBand1["EmployeeName"], Name = Name`



サブレポートテンプレート :



```
textBox1.Value = GetParameter("Number");
```

```
textBox2.Value = GetParameter("Name")
```

レポート :

Employees list	
1	Nancy Davolio
2	Andrew Fuller
3	Anne Dodsworth
4	Steven Buchana
5	Laura Callahan
6	Anne Yorke

Zip コード

Zip コードを表示するには、ZipCode コンポーネントを使用します。コードは Code プロパティに設定します。

Appearance	
Angle	0
Border	
Code	22550
Color	Black

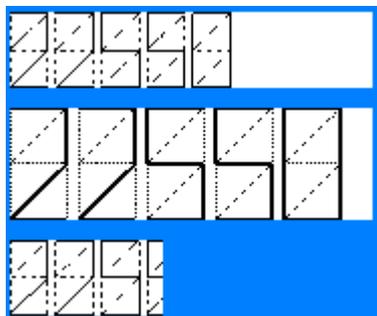
コードの色は Color プロパティに設定します。

Appearance	
Angle	0
Border	
Code	22550
Color	DodgerBlue
Fill	[None]

テンプレートの Zip コード :



ZipCode コンポーネントのサイズは Size プロパティで設定します。Zip コードの割合が一定であることを考慮する必要があります。Zip コードのラベルの高さは ZipCode コンポーネントの高さに依存します。ラベルが ZipCode コンポーネントの幅に収まらない場合、Zip コードは途中で切れてしまいます。



マスターレポート

マスターレポートを使用できます。マスターレポートを使用してドキュメントを生成する場合、最終ドキュメントにはマスターテンプレートとドキュメントテンプレートの生成結果が含まれます。これにより、均一のレポートを作成できます。

マスターレポートを設定するには、**Document.MasterReport** プロパティにマスターレポート名を設定する必要があります。

[-] Appearance	
[+] GraphicsSettings	PerpetuumSoft.Reporting.Doc
MasterReport	Master
ShowObjectBounds	True

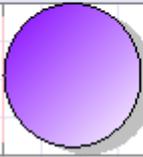
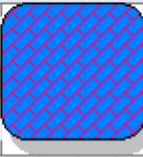
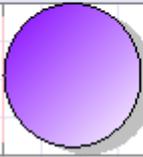
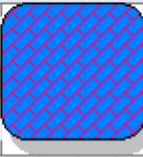
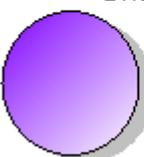
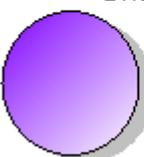
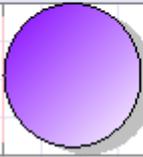
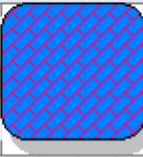
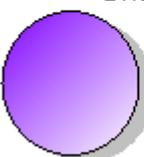
指名されたテンプレートは生成時に **IResolveSubReport** インターフェイスを介して取得されます。例えば、指名されたマスターテンプレートを、最初のテンプレートが追加されているのと同じ **ReportManager** に追加できます。

マスターとして使用するテンプレートを作成する場合、そのテンプレートに **Content** オブジェクトを追加する必要があります。

マスターレポートテンプレート：

detail1:Detail
Master Report
content1:Content

マスターテンプレートを使用したドキュメントの生成は次のように行われます。生成されたレポートにマスターテンプレートの生成結果が入れられ、**Content** オブジェクトは最初のレポート結果に置き換えられます。

レポートテンプレート	レポート							
<table border="1"><tr><td>title:Detail</td></tr><tr><td>Shapes</td></tr><tr><td>detail1:Detail</td></tr><tr><td> </td></tr></table>	title:Detail	Shapes	detail1:Detail	 	<table border="1"><tr><td>Master Report</td></tr><tr><td>Shapes</td></tr><tr><td> </td></tr></table>	Master Report	Shapes	 
title:Detail								
Shapes								
detail1:Detail								
 								
Master Report								
Shapes								
 								

ウィザードを使ったレポートの作成

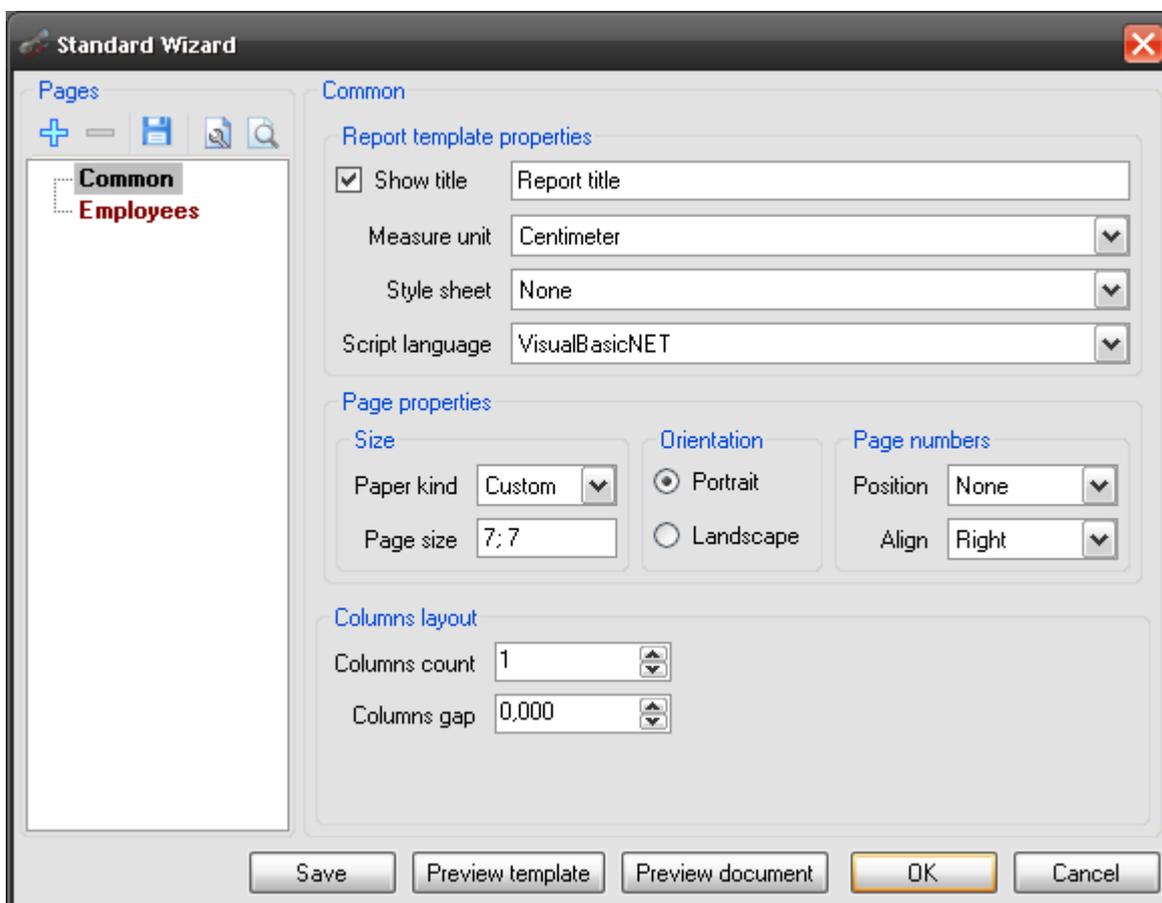
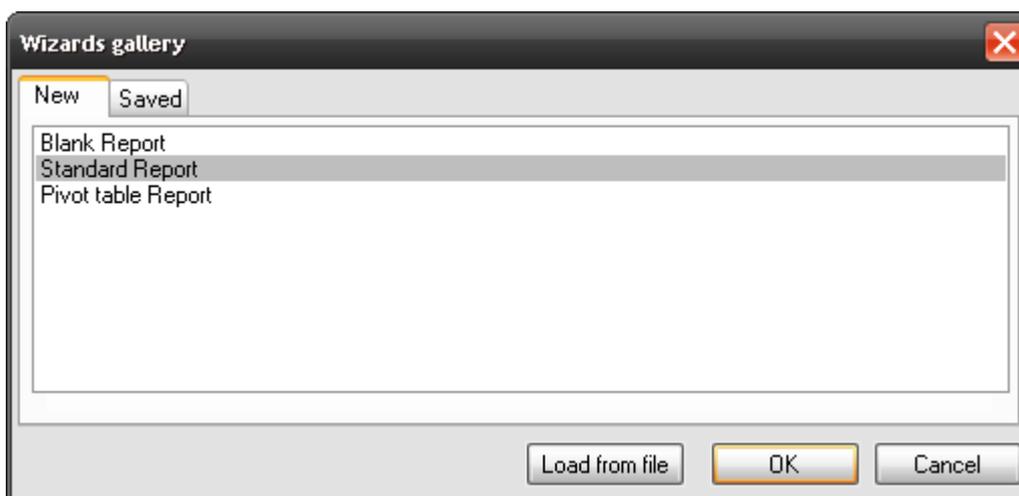
シンプルなレポートテンプレートを作成する簡単な方法は、「ウィザード」を使うことです。見た目やデータソースなどのレポートパラメータをウィザードで設定できます。そして、自動的にパラメータを設定してレポートテンプレートを作成できます。

ウィザードの設定はすべて xml 形式で .rsw ファイルに保存できます。

シンプルレポートの作成 (スタンダードウィザード)

スタンダードウィザードを使用してレポートテンプレートを作成できます。スタンダードウィザードでデータソースのデータをリストまたはカードとして出力するかを定義します。

[ウィザードギャラリー](#)ダイアログから [スタンダードウィザード](#)を開くことができます。



スタンダードウィザードのレポートのプロパティ

スタンダードウィザードの「共通」セクションを使って、レポートの見た目を定義するテンプレートに共通するプロパティを設定できます。

(Document.Title プロパティを使用して「タイトル」フィールドに設定した) レポート名はレポートヘッダーに表示されます。

タイトル	レポートテンプレート	レポート				
<p>Report template properties</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Show title Employees</p> <p>Measure unit Centimeter</p>		<p>Employees</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Phone</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Nancy</td> <td>(206)555</td> </tr> </tbody> </table>	Name	Phone	Nancy	(206)555
Name	Phone					
Nancy	(206)555					

レポートの計測単位は、「計測単位」フィールド (Document.MetricUnit プロパティ) で設定します。

レポートのスタイルは、「スタイルシート」フィールド (Document.StyleSheet プロパティ) で設定できます。

スタイルシート	プロパティ	レポート														
<p>measure unit Centimeter</p> <p>Style sheet Modern1</p> <p>Script language VisualBasicNET</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> Render</p> <p>StyleSheet Modern1</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Script</p>	<p>Employees</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Phone</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Nancy Davolio</td> <td>(206)555-9857</td> </tr> <tr> <td>Andrew Fuller</td> <td>(206) 555-9482</td> </tr> <tr> <td>Anne Dodsworth</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Steven Buchana</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Laura Callahan</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Anne Yorke</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> </tbody> </table>	Name	Phone	Nancy Davolio	(206)555-9857	Andrew Fuller	(206) 555-9482	Anne Dodsworth	(71) 555-4444	Steven Buchana	(71) 555-4444	Laura Callahan	(71) 555-4444	Anne Yorke	(71) 555-4444
Name	Phone															
Nancy Davolio	(206)555-9857															
Andrew Fuller	(206) 555-9482															
Anne Dodsworth	(71) 555-4444															
Steven Buchana	(71) 555-4444															
Laura Callahan	(71) 555-4444															
Anne Yorke	(71) 555-4444															
<p>Measure unit Centimeter</p> <p>Style sheet Modern</p> <p>Script language VisualBasicNET</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> Render</p> <p>StyleSheet Modern</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Script</p>	<p>Employees</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Phone</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Nancy Davolio</td> <td>(206)555-9857</td> </tr> <tr> <td>Andrew Fuller</td> <td>(206) 555-9482</td> </tr> <tr> <td>Anne Dodsworth</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Steven Buchana</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Laura Callahan</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Anne Yorke</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> </tbody> </table>	Name	Phone	Nancy Davolio	(206)555-9857	Andrew Fuller	(206) 555-9482	Anne Dodsworth	(71) 555-4444	Steven Buchana	(71) 555-4444	Laura Callahan	(71) 555-4444	Anne Yorke	(71) 555-4444
Name	Phone															
Nancy Davolio	(206)555-9857															
Andrew Fuller	(206) 555-9482															
Anne Dodsworth	(71) 555-4444															
Steven Buchana	(71) 555-4444															
Laura Callahan	(71) 555-4444															
Anne Yorke	(71) 555-4444															

「スクリプト言語」フィールドでスクリプト言語を選択できます。スクリプト言語は Document.ScriptLanguage プロパティを使用して設定されます。

スタンダードウィザードのページのプロパティ

スタンダードウィザードのページのプロパティはページのプロパティを設定できます。「用紙サイズ」のリストから用紙サイズが選択され、Page.PaperKind プロパティで設定されます。カスタムな用紙サイズを設定するには、「用紙サイズ」コンボボックスから「ユーザー定義用紙」を選択し、「ページサイズ」フィールドに値を設定してください。

Size

Paper kind Custom ▼

Page size 7;7

用紙の向き (縦または横) は「向き」のセクションで設定できます。

Orientation

Portrait

Landscape

ページ番号を出力するには見出しを使用します。「ページ番号」セクションで見出しの表示モードやテキストの位置合わせを設定できます。

Page numbers

Position

Align

レポート :

Employees	
Name	Phone
Nancy Davolio	(206)555-9857
Andrew Fuller	(206) 555-9482
Anne Dodsworth	(71) 555-4444
Steven Buchana	(71) 555-4444
Laura Callahan	(71) 555-4444

スタンダードウィザードを使用して段組レポートを作成できます。それには、「列のレイアウト」を設定します。「列数」は列の数 (`DataBand.ColumnsCount` プロパティ) を定義し、「列の間隔」は列の間隔 (`DataBand.ColumnsGap` プロパティ) を定義します。

Columns layout

Columns count

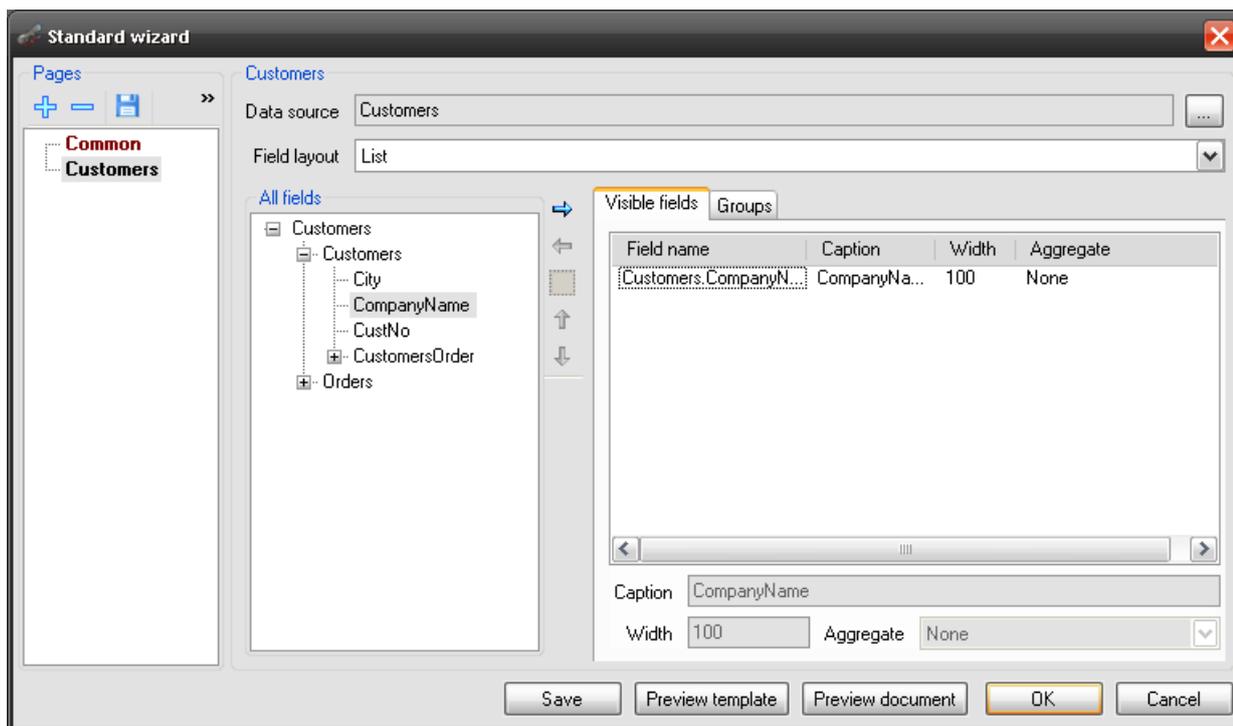
Columns gap

レポート :

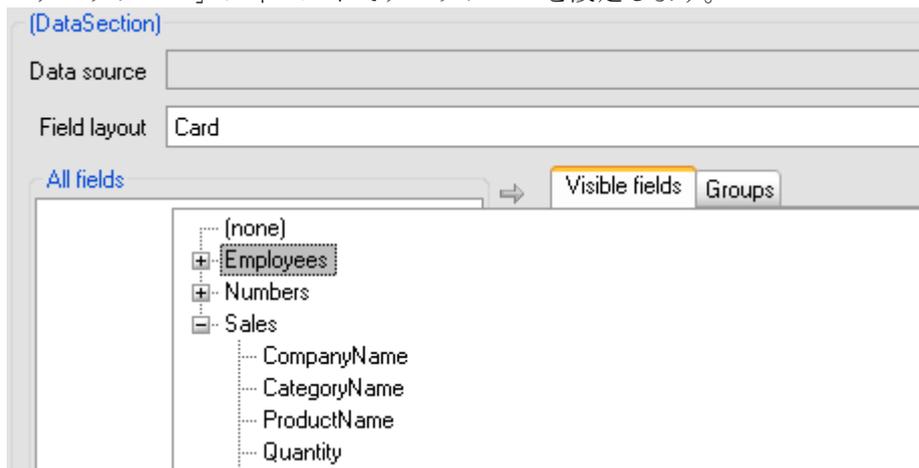
Employees	
Nancy Davolio	Laura Callahan
Andrew Fuller	Anne Yorke
Anne Dodsworth	
Steven Buchana	

シンプルリストのレポートデータ

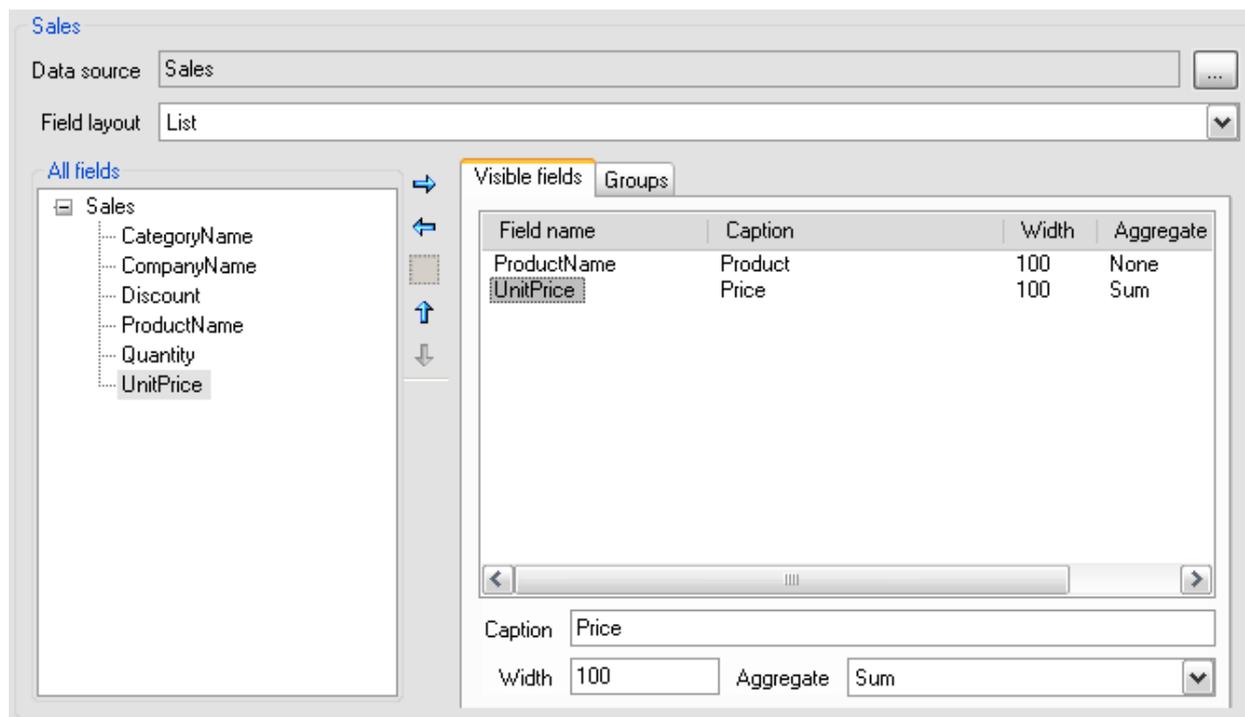
レポートを作成するためのデータは、レポートデザイナーを呼び出すアプリケーションで用意してください。データを追加するには、「データの追加」ボタンを押してください。この後、テンプレートのツリー構造に新しいレコードが表示され、データソースを設定したりデータを表示するためのセクションが開きます。



「データソース」フィールドでデータソースを設定します。



「全フィールド」の一覧に、「データソース」フィールドで選択したデータソースフィールドが表示されます。コントロールボタンを使用して「全フィールド」から「表示フィールド」にフィールドを追加できます。各フィールドにタイトルや幅の編集、集計関数の設定が行えます。



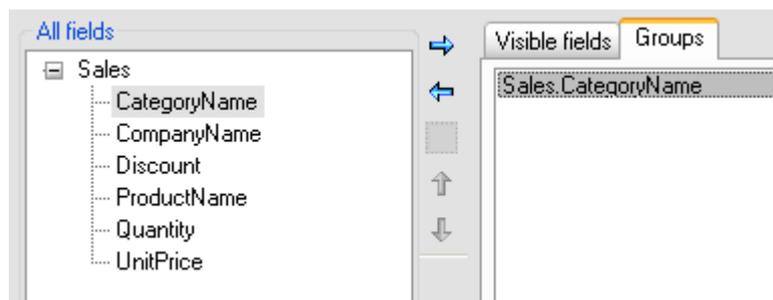
レポートテンプレート	レポート																								
<pre>dataBand1:DataBand DataSource = Sales header1:Header Product Price detail1:Detail <GetData <GetData ["Sales.ProductName"]> ["Sales.UnitPrice"] footer1:Footer <GetTotal ["Sales.UnitPrice"] end of dataBand1</pre>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Product</th> <th>Price</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Chai</td><td>35,5</td></tr> <tr><td>Stout</td><td>105</td></tr> <tr><td>Maxilaku</td><td>2,6</td></tr> <tr><td>Geitost</td><td>15,8</td></tr> <tr><td>Flotemysost</td><td>240</td></tr> <tr><td>Courdavault</td><td>62,5</td></tr> <tr><td>Chai</td><td>35,5</td></tr> <tr><td>Ipoh Coffee</td><td>50,5</td></tr> <tr><td>Filo Mix</td><td>14</td></tr> <tr><td>Filo Mix</td><td>14</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: right;">575,4</td></tr> </tbody> </table>	Product	Price	Chai	35,5	Stout	105	Maxilaku	2,6	Geitost	15,8	Flotemysost	240	Courdavault	62,5	Chai	35,5	Ipoh Coffee	50,5	Filo Mix	14	Filo Mix	14	575,4	
Product	Price																								
Chai	35,5																								
Stout	105																								
Maxilaku	2,6																								
Geitost	15,8																								
Flotemysost	240																								
Courdavault	62,5																								
Chai	35,5																								
Ipoh Coffee	50,5																								
Filo Mix	14																								
Filo Mix	14																								
575,4																									

「フィールドのレイアウト」でレポートのデータ表示（リストまたはカード）を選択できます。

フィールドのレイアウト	レポートテンプレート	レポート																				
リスト : Field layout List	<pre>dataBand1:DataBand DataSource = Employees header1:Header Employee Phone detail1:Detail <GetData <GetData ["Employees.EmployeeName"]> ["Employees.HomePhone"] end of dataBand1</pre>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Employee</th> <th>Phone</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Nancy Davolio</td><td>(206)555-9857</td></tr> <tr><td>Andrew Fuller</td><td>(206) 555-9482</td></tr> <tr><td>Anne Dodsworth</td><td>(71) 555-4444</td></tr> <tr><td>Steven Buchana</td><td>(71) 555-4444</td></tr> <tr><td>Laura Callahan</td><td>(71) 555-4444</td></tr> <tr><td>Anne Yorke</td><td>(71) 555-4444</td></tr> </tbody> </table>	Employee	Phone	Nancy Davolio	(206)555-9857	Andrew Fuller	(206) 555-9482	Anne Dodsworth	(71) 555-4444	Steven Buchana	(71) 555-4444	Laura Callahan	(71) 555-4444	Anne Yorke	(71) 555-4444						
Employee	Phone																					
Nancy Davolio	(206)555-9857																					
Andrew Fuller	(206) 555-9482																					
Anne Dodsworth	(71) 555-4444																					
Steven Buchana	(71) 555-4444																					
Laura Callahan	(71) 555-4444																					
Anne Yorke	(71) 555-4444																					
カード : Field layout Card	<pre>dataBand1:DataBand DataSource = Employees detail1_Employees_EmployeeName:Detail Employee <GetData ["Employees.EmployeeName"] detail1_Employees_HomePhone:Detail Phone <GetData ["Employees.HomePhone"] end of dataBand1</pre>	<table border="1"> <tbody> <tr><td>Employee</td><td>Nancy Davolio</td></tr> <tr><td>Phone</td><td>(206)555-9857</td></tr> <tr><td>Employee</td><td>Andrew Fuller</td></tr> <tr><td>Phone</td><td>(206) 555-9482</td></tr> <tr><td>Employee</td><td>Anne Dodsworth</td></tr> <tr><td>Phone</td><td>(71) 555-4444</td></tr> <tr><td>Employee</td><td>Steven Buchana</td></tr> <tr><td>Phone</td><td>(71) 555-4444</td></tr> <tr><td>Employee</td><td>Laura Callahan</td></tr> <tr><td>Phone</td><td>(71) 555-4444</td></tr> </tbody> </table>	Employee	Nancy Davolio	Phone	(206)555-9857	Employee	Andrew Fuller	Phone	(206) 555-9482	Employee	Anne Dodsworth	Phone	(71) 555-4444	Employee	Steven Buchana	Phone	(71) 555-4444	Employee	Laura Callahan	Phone	(71) 555-4444
Employee	Nancy Davolio																					
Phone	(206)555-9857																					
Employee	Andrew Fuller																					
Phone	(206) 555-9482																					
Employee	Anne Dodsworth																					
Phone	(71) 555-4444																					
Employee	Steven Buchana																					
Phone	(71) 555-4444																					
Employee	Laura Callahan																					
Phone	(71) 555-4444																					

データのグループ化

レポートをグループ化して作成するには、グループ化するフィールドを「全フィールド」のツリーから「グループ」タブのテーブルに移動します。



レポートテンプレート	レポート																																								
<pre>dataBand1:DataBand DataSource = Sales header1:Header Product Price groupBand1:GroupBand Group = GetData("Sales.CategoryName") header11:Header <GetData("Sales.CategoryName")> detail1:Detail <GetData("Sales.ProductName")> <GetData("Sales.UnitPrice")> footer1:Footer <GetTotal("Sales.UnitPrice")> end of groupBand1 footer11:Footer <GetTotal("Sales.UnitPrice")> end of dataBand1</pre>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Product</th> <th>Price</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">Beverages</td> </tr> <tr> <td>Chai</td> <td>35,5</td> </tr> <tr> <td>Stout</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>Chai</td> <td>35,5</td> </tr> <tr> <td>Ipoh Coffee</td> <td>50,5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>226,5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Confections</td> </tr> <tr> <td>Maxilaku</td> <td>2,6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Dairy Products</td> </tr> <tr> <td>Geitost</td> <td>15,8</td> </tr> <tr> <td>Flotemysost</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>Courdavault</td> <td>62,5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>318,3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Grains/Cereals</td> </tr> <tr> <td>Filo Mix</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>Filo Mix</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td></td> <td>28</td> </tr> <tr> <td></td> <td>575,4</td> </tr> </tbody> </table>	Product	Price	Beverages		Chai	35,5	Stout	105	Chai	35,5	Ipoh Coffee	50,5		226,5	Confections		Maxilaku	2,6		2,6	Dairy Products		Geitost	15,8	Flotemysost	240	Courdavault	62,5		318,3	Grains/Cereals		Filo Mix	14	Filo Mix	14		28		575,4
Product	Price																																								
Beverages																																									
Chai	35,5																																								
Stout	105																																								
Chai	35,5																																								
Ipoh Coffee	50,5																																								
	226,5																																								
Confections																																									
Maxilaku	2,6																																								
	2,6																																								
Dairy Products																																									
Geitost	15,8																																								
Flotemysost	240																																								
Courdavault	62,5																																								
	318,3																																								
Grains/Cereals																																									
Filo Mix	14																																								
Filo Mix	14																																								
	28																																								
	575,4																																								

複数のデータソース

複数のデータソースのデータをレポートに続けて出力できます。これを行うには、テンプレートのツリー構造にデータソースを追加し、必要なフィールドを「表示フィールド」に移動してください。

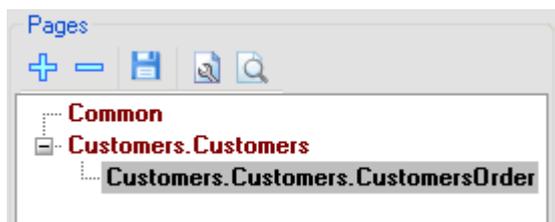


レポートテンプレート	レポート																								
<pre>dataBand1:DataBand DataSource = Employees header1:Header Employee Phone detail1:Detail <GetData("Employees.EmployeeID")> <GetData("Employees.HomePhone")> end of dataBand1 dataBand2:DataBand DataSource = Sales header2:Header Company Product detail2:Detail <GetData("Sales.CompanyName")> <GetData("Sales.ProductName")> end of dataBand2</pre>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Employee</th> <th>Phone</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Nancy Davolio</td> <td>(206)555-9857</td> </tr> <tr> <td>Andrew Fuller</td> <td>(206) 555-9482</td> </tr> <tr> <td>Anne Dodsworth</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Steven Buchana</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Laura Callahan</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td>Anne Yorke</td> <td>(71) 555-4444</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Company Product</td> </tr> <tr> <td>Futterkiste</td> <td>Chai</td> </tr> <tr> <td>Futterkiste</td> <td>Stout</td> </tr> <tr> <td>Futterkiste</td> <td>Maxilaku</td> </tr> <tr> <td>Futterkiste</td> <td>Geitost</td> </tr> </tbody> </table>	Employee	Phone	Nancy Davolio	(206)555-9857	Andrew Fuller	(206) 555-9482	Anne Dodsworth	(71) 555-4444	Steven Buchana	(71) 555-4444	Laura Callahan	(71) 555-4444	Anne Yorke	(71) 555-4444	Company Product		Futterkiste	Chai	Futterkiste	Stout	Futterkiste	Maxilaku	Futterkiste	Geitost
Employee	Phone																								
Nancy Davolio	(206)555-9857																								
Andrew Fuller	(206) 555-9482																								
Anne Dodsworth	(71) 555-4444																								
Steven Buchana	(71) 555-4444																								
Laura Callahan	(71) 555-4444																								
Anne Yorke	(71) 555-4444																								
Company Product																									
Futterkiste	Chai																								
Futterkiste	Stout																								
Futterkiste	Maxilaku																								
Futterkiste	Geitost																								



マスター詳細レポート

マスター詳細レポートを作成するには、テンプレートのツリー構造にあるデータソースにもう 1 つデータソースと詳細を追加します。

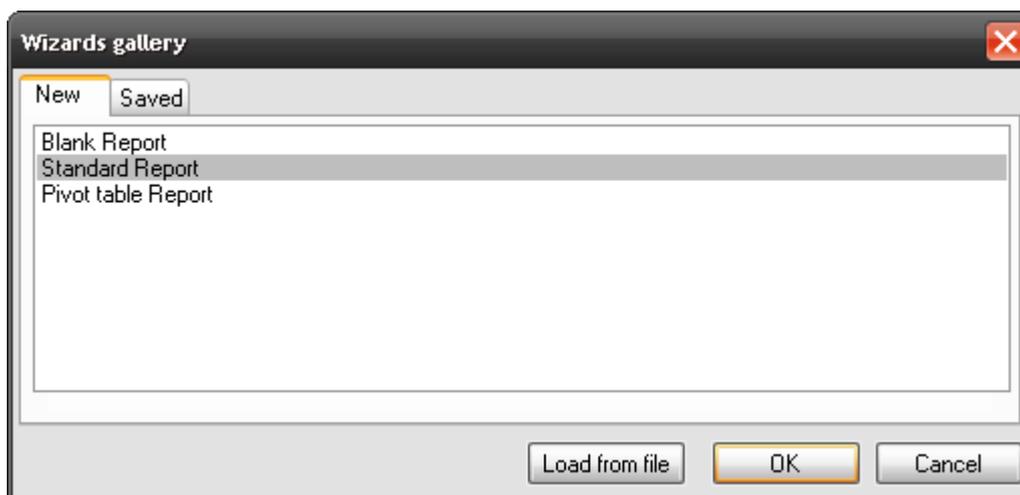


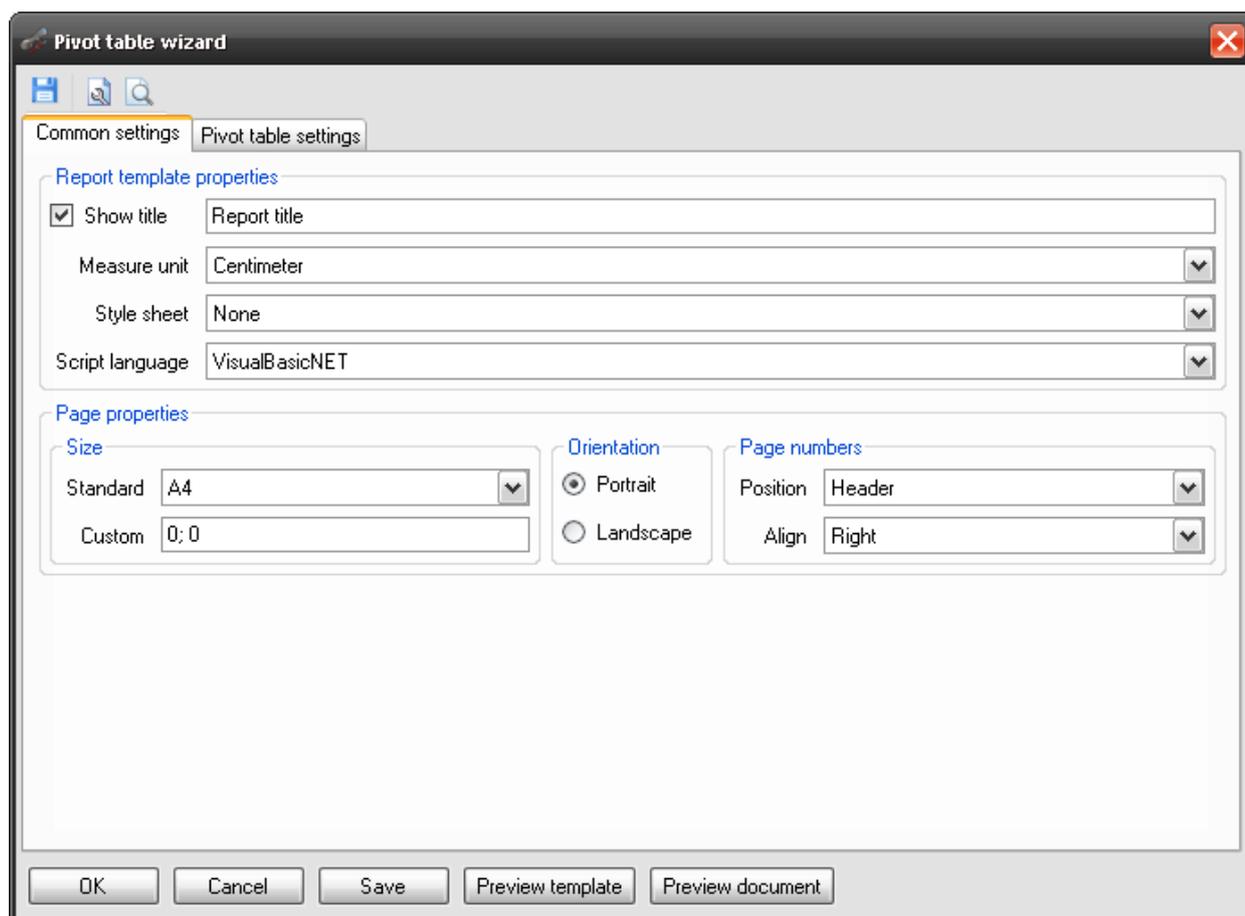
レポートテンプレート	レポート
dataBand1:DataBand DataSource = Customers.Customers	Company Bon App'
detail1_Customers_Customers_CompanyName:Detail	Date Sum
Company <<GetData <<GetData	21.03.10 50.00
!('Customers.Custome	15.02.10 14.50
dataBand1_1:DataBand DataSource = Customers.Customers.Customers	64,5
header1_1:Header	Company Chop-suey Chinese
Date Sum	Date Sum
detail1_1:Detail	03.04.10 134.00
<<GetData <<GetData	15.01.10 45.45
!('Customers.C !('Customers.Custome	01.02.10 500.00
footer1_1:Footer	30.12.09 6.03
<<Get total	685,48
!('Customers.Custome	Company Maison Dewey
end of dataBand1_1	Date Sum
end of dataBand1	06.06.10 66.66
	66,66

ピボットテーブル (ピボットテーブルウィザード) を使ったレポートの作成

ピボットテーブルウィザードは、データソースのデータをピボットテーブルに出力するレポートテンプレートを作成できます。

[ウィザードギャラリー](#) ダイアログから [ピボットテーブルウィザード](#) を開くことができます。





ピボットテーブルウィザードのレポートのプロパティ

ピボットテーブルウィザードの「共通」タブで、レポートの見た目を定義するテンプレートに共通するプロパティを設定できます。

Document.Title プロパティを使って「タイトル」フィールドに設定したレポート名が、レポートヘッダーに表示されます。

タイトル	レポートテンプレート	レポート
Report template properties <input checked="" type="checkbox"/> Show title Sales Measure unit Centimeter	reportTitle:Detail <Document.Title>	Sales

レポートの計測単位は、「計測単位」フィールド (Document.MetricUnit プロパティ) で設定します。

レポートのスタイルは、「スタイル」フィールドで設定できます。

スタイルシート	レポートテンプレート	レポート																																																																																						
Style sheet Modern1	reportTitle:Detail <Document.Title> pivotTable1:PivotTable <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">Company</th> </tr> <tr> <th></th> <th>Item</th> <th>Unit</th> <th>Total</th> </tr> <tr> <th>Category</th> <th>Product</th> <th>Unit</th> <th>Unit</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">Group</td> <td>Item 1</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>Item 2</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>Total</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Total</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>			Company			Item	Unit	Total	Category	Product	Unit	Unit	Group	Item 1	0.0	0.0	Item 2	0.0	0.0	Total	0.0	0.0	Total		0.0	0.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">Sales</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">Company</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>Futterkiste</th> <th>Karkki Oy</th> <th>Shopy</th> </tr> <tr> <th>Category</th> <th>Product</th> <th>Unit</th> <th>Unit</th> <th>Unit</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">Beverages</td> <td>Chai</td> <td>35.5</td> <td>35.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ipoh Coffee</td> <td></td> <td>50.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Total</td> <td>105</td> <td>86</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">Confections</td> <td>Maxilaku</td> <td>2.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Total</td> <td>2.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">Dairy Products</td> <td>Courdavault</td> <td>62.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Flotemyssot</td> <td>240</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Geitosi</td> <td>15.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">Total</td> <td>318.3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			Sales					Company					Futterkiste	Karkki Oy	Shopy	Category	Product	Unit	Unit	Unit	Beverages	Chai	35.5	35.5		Ipoh Coffee		50.5		Total	105	86		Confections	Maxilaku	2.6			Total	2.6			Dairy Products	Courdavault	62.5			Flotemyssot	240			Geitosi	15.8			Total		318.3		
		Company																																																																																						
	Item	Unit	Total																																																																																					
Category	Product	Unit	Unit																																																																																					
Group	Item 1	0.0	0.0																																																																																					
	Item 2	0.0	0.0																																																																																					
	Total	0.0	0.0																																																																																					
Total		0.0	0.0																																																																																					
		Sales																																																																																						
		Company																																																																																						
		Futterkiste	Karkki Oy	Shopy																																																																																				
Category	Product	Unit	Unit	Unit																																																																																				
Beverages	Chai	35.5	35.5																																																																																					
	Ipoh Coffee		50.5																																																																																					
	Total	105	86																																																																																					
Confections	Maxilaku	2.6																																																																																						
	Total	2.6																																																																																						
Dairy Products	Courdavault	62.5																																																																																						
	Flotemyssot	240																																																																																						
	Geitosi	15.8																																																																																						
Total		318.3																																																																																						

「スクリプト言語」フィールドは、Document.ScriptLanguage プロパティを使用してスクリプト言語を選択できます。

ピボットテーブルウィザードのページのプロパティ

ピボットテーブルウィザードのページのプロパティで、ページのプロパティを設定できます。「用紙サイズ」の一覧から用紙サイズが選択され、Page.PaperKind プロパティで設定されます。カスタムサイズを設定するには、「用紙サイズ」コンボボックスから「ユーザー定義用紙」を選択し、「ページサイズ」フィールドに値を設定してください。

Size

Paper kind A4

Page size 0:0

ページの向きは「向き」セクションで縦または横に設定できます。

Orientation

Portrait

Landscape

ページ番号を出力するには見出しを使用します。「ページ番号」セクションで見出しの表示モードやテキストの位置合わせを設定できます。

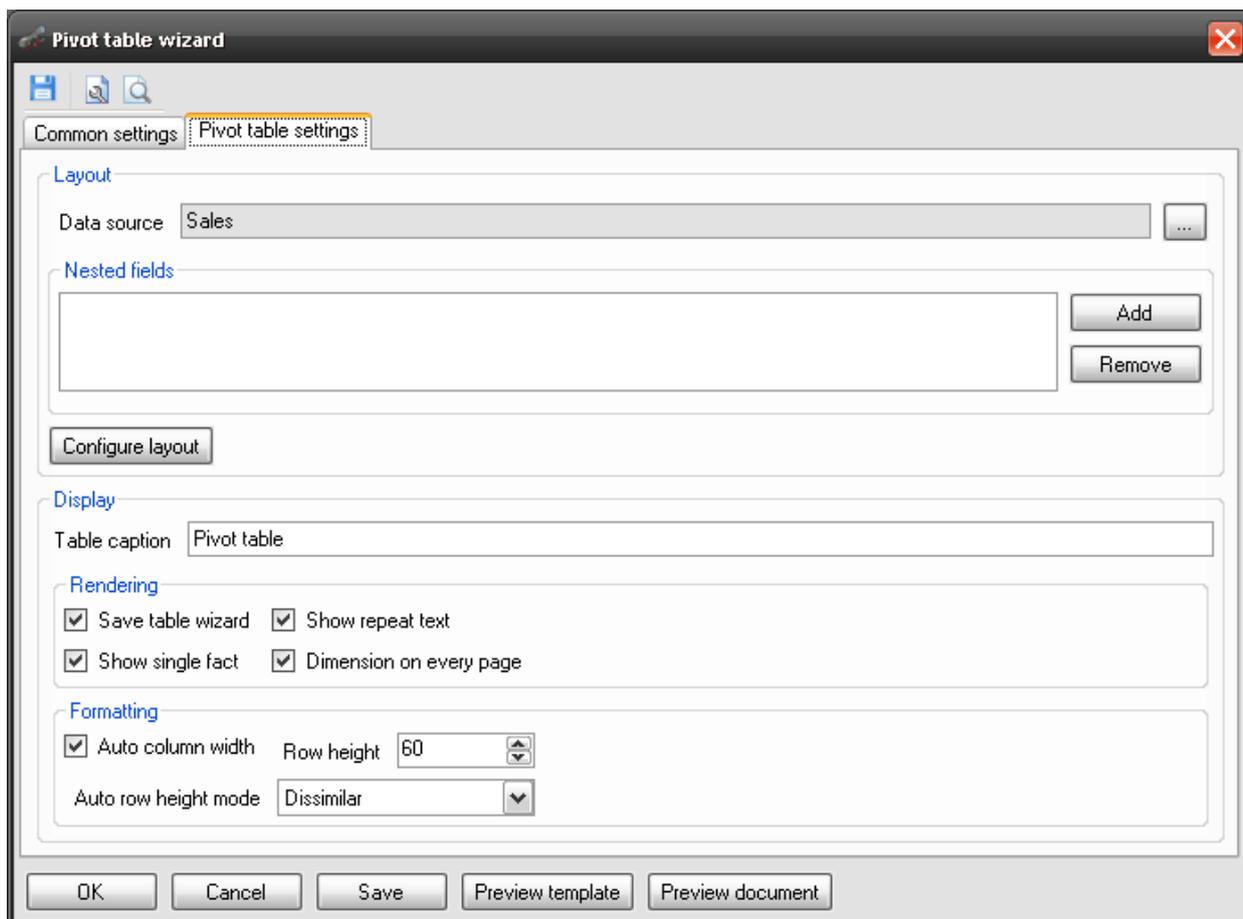
Page numbers

Position Header

Align Right

ピボットテーブルのデータ

ピボットテーブルのデータや表の見目は、「ピボットテーブル設定」タブの設定で定義されます。



「データソース」フィールドでデータソースを設定します。ピボットテーブルのセルを調節するには、「レイアウトの構成」ボタンで [ソースフィールド](#) エディタを開いてください（参照：[ピボットテーブルのデータ](#)）。

「テーブルのタイトル」フィールドでピボットテーブルのタイトルを設定できます。



Company Sales					
		Company			
		Futterkiste	Karkki Oy	Shopy	Total
Category	Product	Price	Price	Price	Price
Beverages	Chai	35.5	35.5		71
	Ipoh Coffee		50.5		50.5
	Stout	105			105
	Total	140.5	86		226.5
Confections	Maxilaku	2.6			2.6
	Total	2.6			2.6
Dairy Products	Courdavault	62.5			62.5
	Flotemysost	240			240
	Geitost	15.8			15.8
	Total	318.3			318.3

「生成」のプロパティ群で、ピボットテーブルのプロパティ（ShowRepeatText、ShowSingleFact、DementionOnEveryPage プロパティ）を設定できます。



Rendering

- Save table wizard
- Show repeat text
- Show single fact
- Dimension on every page

ピボットテーブルのセルサイズは、「形式」セクションで `PivotTable.AutoColumnWidth`、`PivotTable.RowHeight`、`PivotTable.AutoRowHeight` プロパティを設定できます。

Formatting

- Auto column width
- Row height
- Auto row height mode

(参照 : [ピボットテーブル](#))

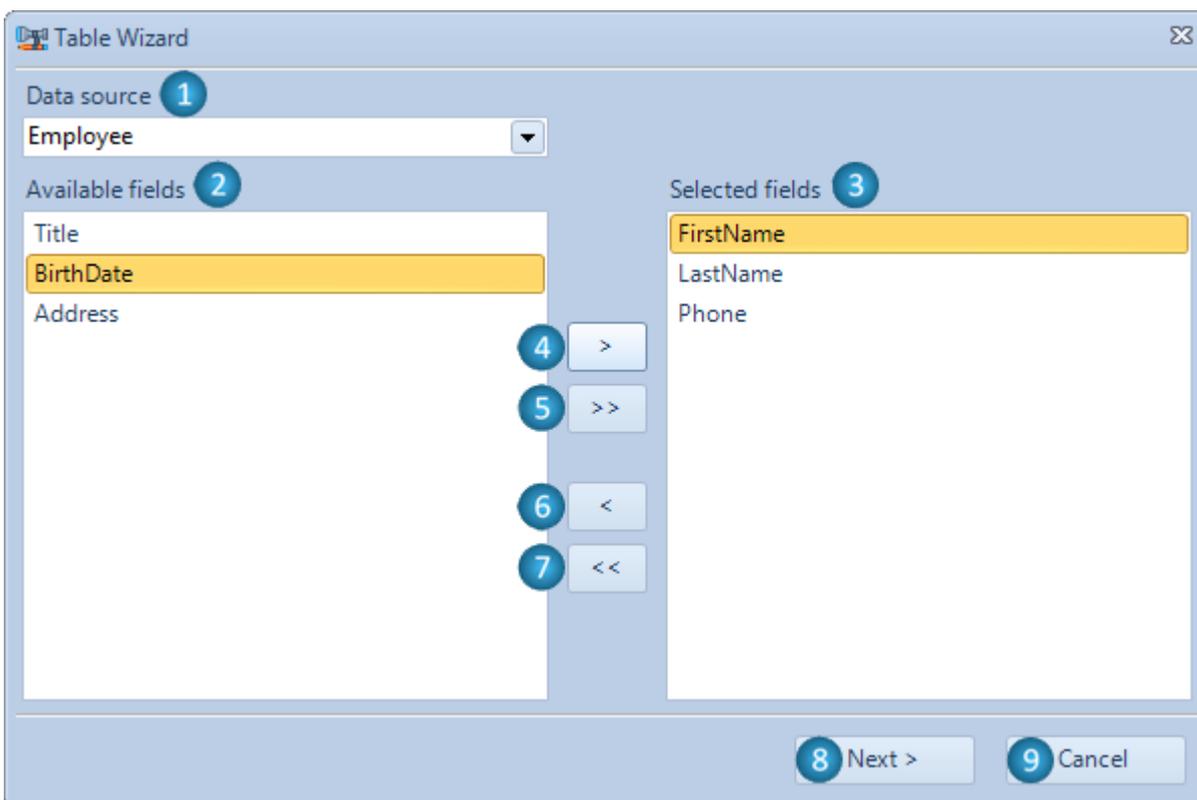
テーブルウィザードを使ったレポートの作成

テーブルウィザードで何度かクリックするだけで色々な表を作成できます。

レポートテンプレートを開いて、[挿入]タブの [Tables Container] にある「Table」ボタンを押します。

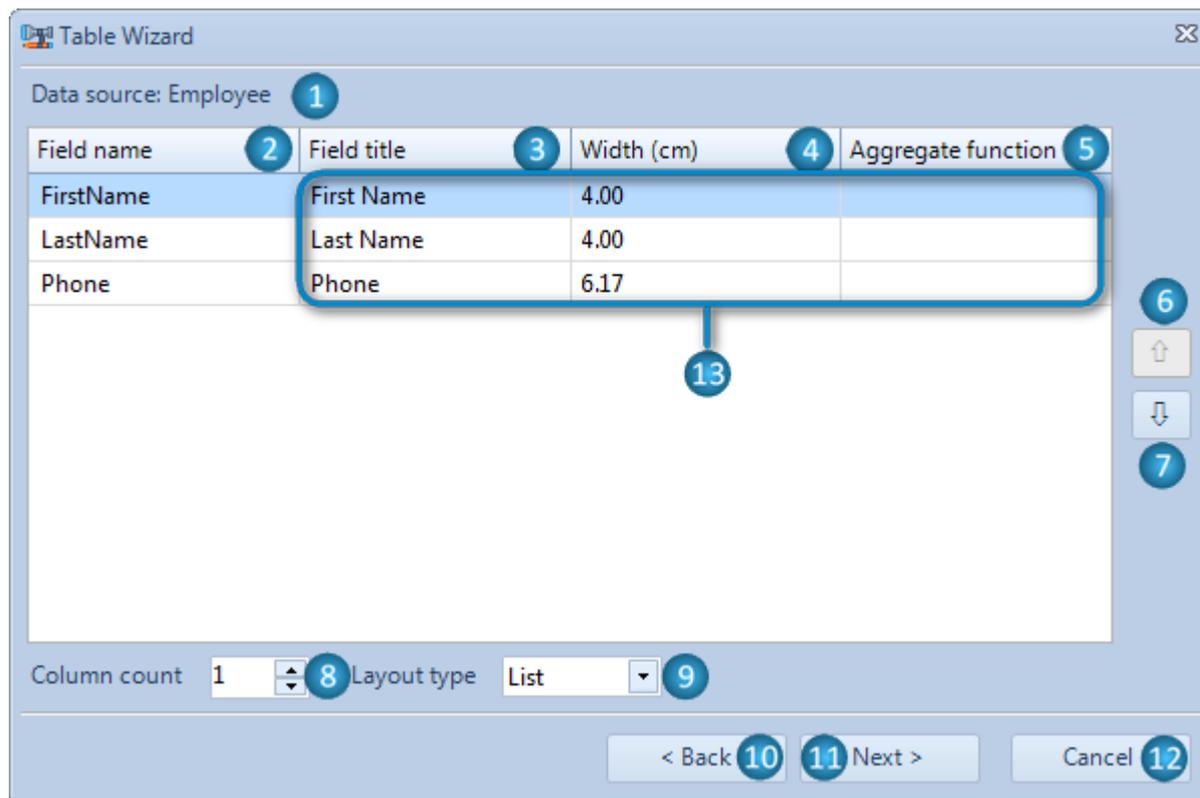


テーブルウィザードでフィールドを選択



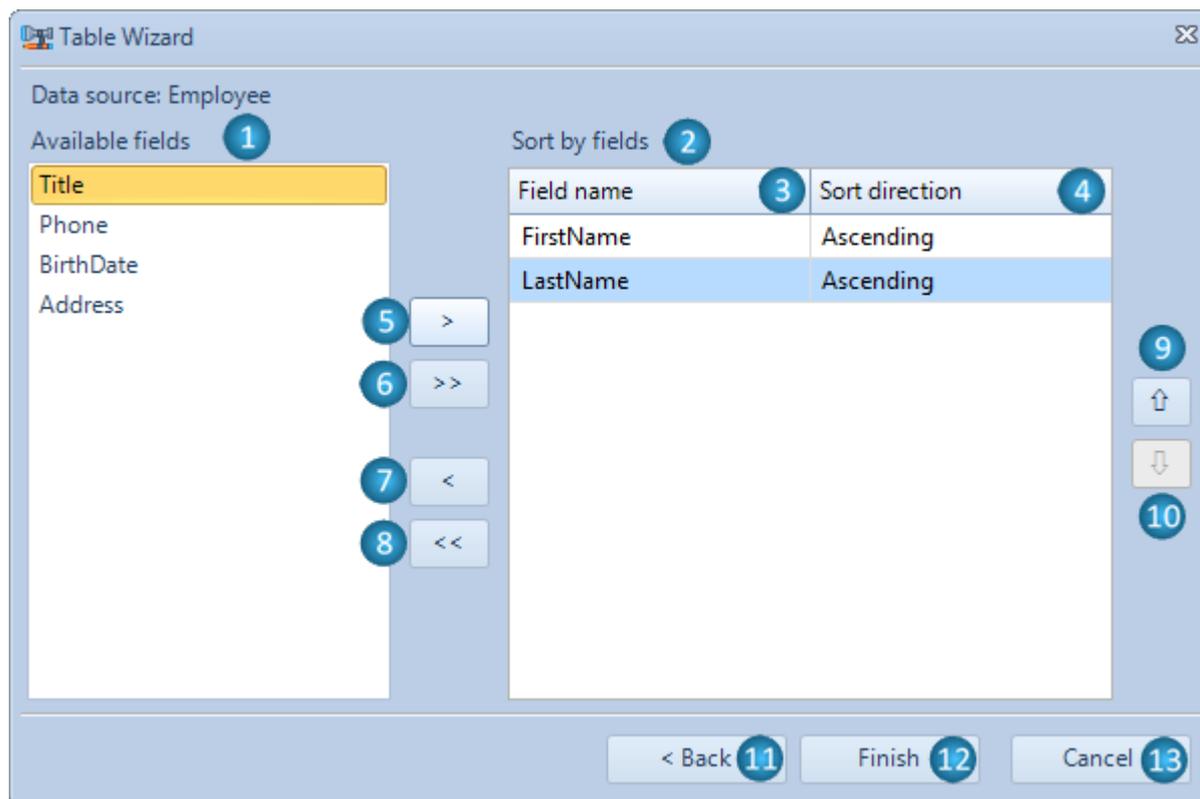
- 1 - **Data source** : ドキュメントで利用可能なデータソース一覧を含んでいます。
- 2 - **Available fields** : 選択したデータソースのフィールド一覧を含んでいます。
- 3 - **Selected fields** : 選択したデータソースから選択したデータソースの一覧を含んでいます。
- 4 - **">"** : 選択したフィールドを「Selected fields」一覧に追加します。
- 5 - **">>"** : すべての「Available fields」を「Selected fields」一覧に追加します。
- 6 - **"<"** : 選択したフィールドを「Selected fields」から削除します。
- 7 - **"<<"** : 「Selected fields」から利用可能なすべてのフィールドを削除します。
- 8 - **"Next >"** : テーブルウィザードの次のウィンドウを開きます。
- 9 - **"Cancel"** : テーブルウィザードを閉じて、新しい表の追加をキャンセルします。

テーブルウィザードで選択したフィールドのプロパティ



- 1 - **Data Source** : 前のテーブルウィザードで選択したすべてのフィールドを表示するグリッド。
- 2 - **Field name** - データソースのフィールド名
- 3 - **Field title** - レポートに表示されるフィールドのタイトル
- 4 - **Width** - ドキュメントで使われている計測単位でのフィールドの幅
- 5 - **Aggregate function** - レポートジェネレータは内蔵された 12 の [集計関数](#) をサポートしています。
- 6 - **Move row up** - 選択した行を表示されているフィールド順で上に移動します。
- 7 - **Move row down** - 選択した行を表示されているフィールド順で下に移動します。
- 8 - **Column count** - 新しい表の列数を設定します。
- 9 - **Layout type** - レポートのデータ表示（リストまたはカード）を設定します。（参照：[スタンダードウィザードのページのプロパティ](#)）
- 10 - **"< Back"** : 現在のウィンドウでの変更はそのまま、前のウィンドウに戻ります。
- 11 - **"Next >"** : テーブルウィザードの次のウィンドウを開きます。
- 12 - **"Cancel"** : テーブルウィザードを閉じて、新しい表の追加をキャンセルします。
- 13 - **Editable area** - このセル領域をダブルクリックするか、セルの内容をシングルクリックして、フィールドのプロパティを変更できます。

テーブルウィザードでの並べ替え



- 1 - Available fields** : 選択したデータソースのフィールド一覧を含んでいます。
- 2 - Sort by fields** : このフィールド一覧で表を並べ替えます。
- 3 - Field name** - データソースから選択したフィールドの名前
- 4 - Sort direction** - ソート順（昇順または降順）を定義します。
- 5 - ">"** : 選択したフィールドをソート一覧に追加します。
- 6 - ">>"** : 利用可能なすべてのフィールドをソート一覧に追加します。
- 7 - "<"** : 選択したフィールドをソート一覧から削除します。
- 8 - "<<"** : 利用可能なすべてのフィールドをソート一覧から削除します。
- 9 - Move row up** - 選択した行をそのソート順で上に移動します。
- 10 - Move row down** - 選択した行をそのソート順で下に移動します。
- 11 - "< Back"** : 現在のウィンドウでの変更はそのまま、テーブルウィザードの前のウィンドウに戻ります。
- 12 - "Finish"** : テーブルウィザードを閉じて、生成された表をレポートに追加します。
- 13 - "Cancel"** : テーブルウィザードを閉じて、新しい表の追加をキャンセルします。

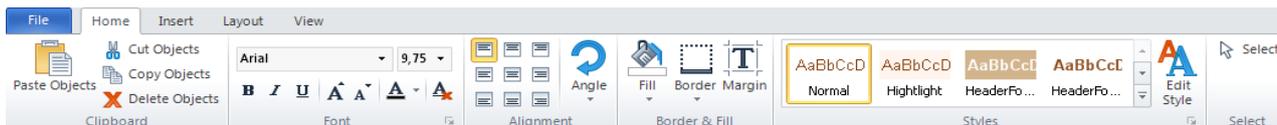
インターフェイス

この章では、リボン レポートデザイナー インターフェイスについて説明します。

タブ

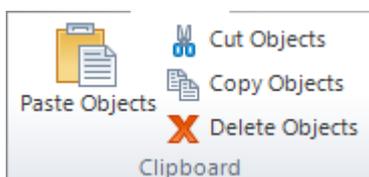
ホームタブ

このタブには、一番よく使われるコマンドが含まれています。



クリップボード

クリップボードで使われるボタンが含まれています。



[オブジェクトの貼り付け] ボタン：クリップボードの内容を選択領域に貼り付けます。

[オブジェクトの切り取り] ボタン：選択したオブジェクトを切り取って、クリップボードに貼り付けます。

[オブジェクトのコピー] ボタン：選択したオブジェクトをコピーし、クリップボードに貼り付けます。

[オブジェクトの削除] ボタン：選択したオブジェクトを削除します。

フォント

[Font プロパティ](#)で使われる制御が含まれています。



[フォント名] 一覧：利用可能なスタイルが格納されています (`Font.FamilyName` プロパティを設定します)。

[フォントサイズ] 一覧：フォントサイズを格納し、任意のサイズを設定できます (`Font.Size` プロパティを設定します)。

[太字] ボタン：テキストに太字を設定します (`Font.Bold` プロパティを設定します)。

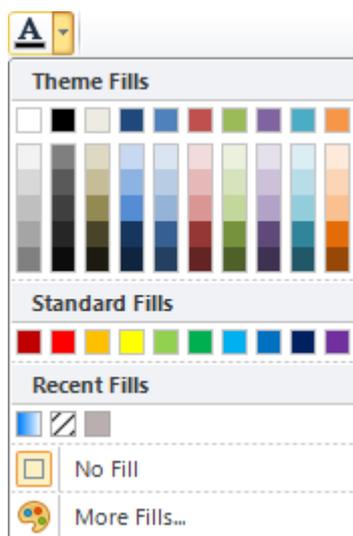
[斜体] ボタン：テキストに斜体を設定します (`Font.Italic` プロパティを設定します)。

[下線] ボタン：テキストに下線を設定します (`Font.Underline` プロパティを設定します)。

[フォントを大きくする] ボタン：フォントサイズを大きくします (`Font.Size` プロパティを設定します)。

[フォントを小さくする] ボタン：フォントサイズを小さくします (`Font.Size` プロパティを設定します)。

[塗りつぶし] ボタン：テキストの色と塗りつぶしを設定します（選択したオブジェクトの **TextFill** プロパティを設定します）。



[主な塗りつぶし] と [標準の塗りつぶし]：カラーパレットが格納されています。

[最近使った塗りつぶし]：最近使った塗りつぶしが格納されます。

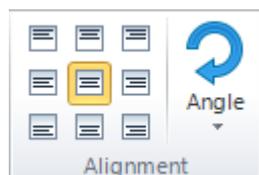
[塗りつぶしなし]：すべての塗りつぶし設定をキャンセルし、**TextFill** プロパティを **[None]** に設定します。

[その他の塗りつぶし...]: カスタムな塗りつぶしを作成するために、「塗りつぶしエディタ」を開きます。

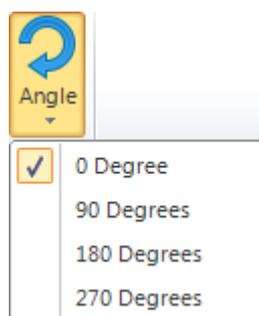
[スタイルのみ使用] ボタン：スタイル設定を行います。これらの設定は選択したスタイルと一致し、変更をすべて削除します。

位置合わせ

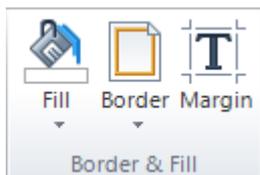
《位置合わせ》にある表を使って、[TextAlign](#) プロパティや [ImageAlign](#) プロパティを設定できます。



[角度] ボタン：プロパティの値リストを開いて [Angle](#) プロパティを設定します。



枠と塗りつぶし



[塗りつぶし] ボタン：背景の色と塗りつぶしを設定します ([Fill プロパティ](#)を設定します)。



[主な塗りつぶし] と [標準のぬりつぶし]：カラーパレットを格納しています。

[最近使った塗りつぶし]：最近使った塗りつぶしが格納されます。

[塗りつぶしなし]：すべての塗りつぶし設定をキャンセルし、[Fill プロパティ](#)を [None] に設定します。

[その他の塗りつぶし...]：カスタムな塗りつぶしを作成するために、「塗りつぶしエディタ」を開きます。

[枠] ボタン：枠を設定します ([Border プロパティ](#)を設定します)。



1 - 枠線の位置を設定します。

2 - 枠線のスタイルや色を設定します。[線の色] のサブメニューにはカラーパレットが格納されています。[線スタイル] のサブメニューには、線の種類が格納されています。

3 - [その他の枠...]：「枠エディタ」を開きます。

[余白] ボタン：[Margins プロパティ](#)を設定する「余白エディタ」を開きます。



スタイル



「スタイルギャラリー」に、テンプレートのスタイルがプレビューされます。スタイルのプレビューをクリックすると、選択したオブジェクトにそのスタイルを適用します ([StyleName プロパティ](#)を設定します)。

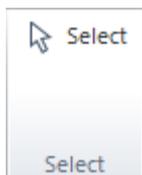


[選択したスタイルを新規スタイルとして保存]: 新しいスタイル名を設定するために「書式から新しいスタイルを作成」ダイアログを開き、選択したオブジェクトのスタイルを保存します。

[スタイルの編集] ボタン: 「スタイルシートエディタ」を開きます。

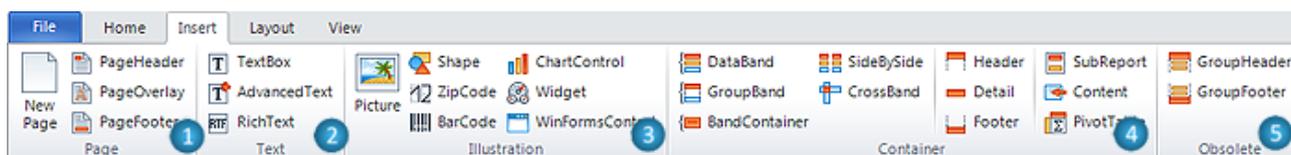
選択

[選択] ボタン: 選択モードを切り替えます。



挿入タブ

このタブを使って、テンプレートにオブジェクトを追加できます。ボタンはグループごとに分けられています。



1 - 《ページ》には、新規ページ、PageHeader、Page Overlay、PageFooter バンドを追加するボタンが格納されています。

2 - 《テキスト》には、テキスト出力オブジェクト : TextBox、AdvancedText、RichText の追加ボタンが格納されています。

3 - 《図表》には、さまざまなビジュアルオブジェクト : Picture、Shape、ZipCode、BarCode、ChartControl、Widget、WinFormsControl を追加するボタンが格納されています。

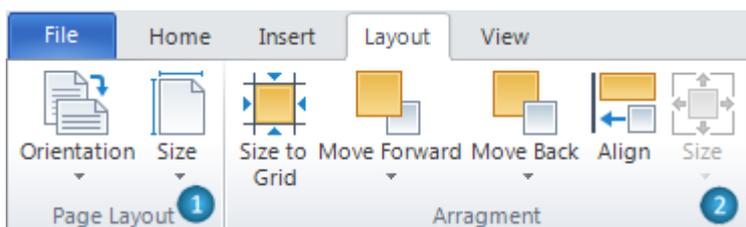
4 - 《コンテナ》には、さまざまなバンド : DataBand、GroupBand、BandContainer、SideBySide、CrossBand、Header、Detail、Footer、SubReport、Content、PivotTable を追加するボタンが格納されています。

5 - 《旧式》には、旧式で旧バージョンとの互換性に必要なバンド : GroupHeader、GroupFooter を追加するボタンが格納されています。これらのコンポーネントを使用して新規レポートを作成することはお勧めしていません。GroupBand に Header や Footers を使用してください。

(参照 : [テンプレートのオブジェクト](#))

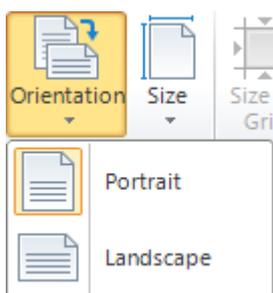
レイアウトタブ

このタブには、ページレイアウト、オブジェクトの間隔や位置に作用する制御が含まれています。

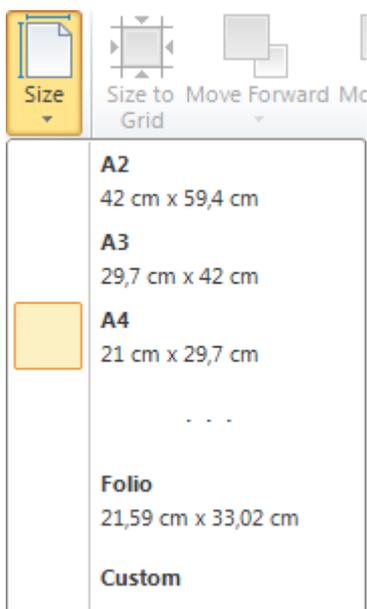


1 - «ページレイアウト»には、[ページのプロパティ](#)を設定するボタンが格納されています。

[向き] ボタン : Page.Orientation プロパティの値を設定するために値リストを開きます。



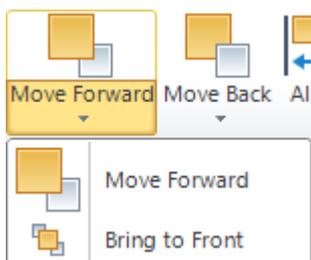
[サイズ] ボタン : Page.PaperKind プロパティの値を設定するために値リストを開きます。[ユーザー定義] はユーザー定義の用紙サイズを設定するための「用紙サイズエディタ」を開きます。



2 - «順序»を使用して、オブジェクトのサイズや位置を操作できます。

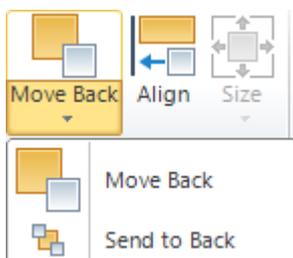
[グリッドのサイズに合わせる] ボタン : 選択したオブジェクトのサイズをグリッドに合わせます。

[整列] ボタン : オブジェクトの整列を設定するための「整列」エディタを開きます。



[前面に移動]：現在のコンテナの他のオブジェクトの背面に隠れているオブジェクトを前面に移動します。

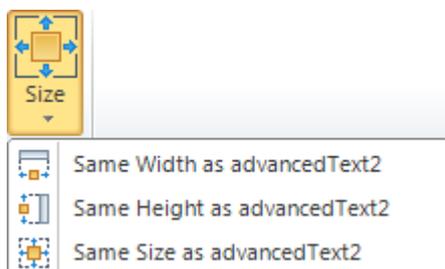
[先頭に移動]：現在のコンテナの他のオブジェクトの背面に隠れているオブジェクトを先頭に移動します。



[背面に移動]：現在のコンテナで選択したオブジェクトを他のオブジェクトの背面に移動します。

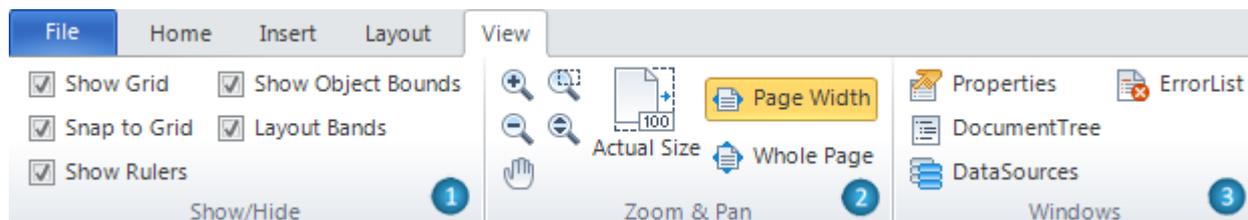
[末尾に移動]：現在のコンテナで選択したオブジェクトを末尾に移動します。

[サイズ] ボタン：選択したオブジェクトのサイズを変更します。選択した主要オブジェクトのようにパラメータを設定します。



表示タブ

このタブには、テンプレートの表示（表示モード、表示/非表示オプション、ズーム、ウィンドウ操作）に作用する制御が含まれています。



1 - «表示/非表示»では、デザイナの表示を設定できます。

[グリッドを表示]：グリッドの表示/非表示を定義します（[Document.ShowGrid プロパティ](#)を設定します）。

[グリッドに合わせる]：グリッドに合わせるか定義します（[Document.SnapToGrid プロパティ](#)を設定します）。

[ルーラの表示]：ルーラの表示/非表示を定義します。

[オブジェクトの境界を表示]：オブジェクトの境界を表示/非表示にします（[Document.ShowObjectBounds プロパティ](#)を設定します）。

[バンドのレイアウト]：バンドの自動レイアウトオプションを切り替えます。

2 - «ズーム & パン»では、ズームやパンモードを設定できます。

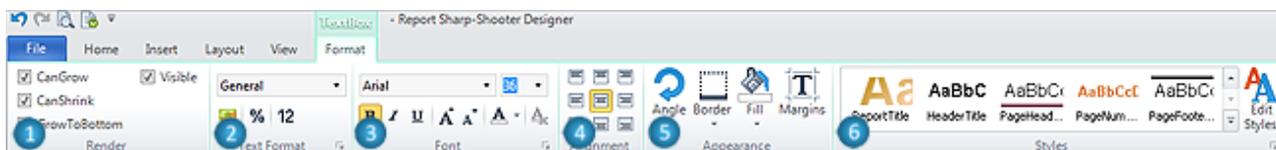
3 - «ウィンドウ»には、「プロパティ」ウィンドウ、「ドキュメントツリー」ウィンドウ、「データソース」ウィンドウ、「エラー一覧」ウィンドウを開くボタンが格納されています。

コンテキストタブ

コンテキストタブは、特定のオブジェクトを選択した時にだけ関係のあるコマンドのコレクションを表示するために使用します。

TextBox タブセット

[TextBox](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



TextBox の「形式」タブには次のグループが含まれています。

- 1 - «生成»には、生成に関するプロパティ：**CanGrow**、**CanShrink**、**GrowToBottom**、**Visible** を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - «テキスト形式»は **TextFormat** プロパティを設定します。このリストには、**TextFormat** プロパティの利用可能な値が格納されています。ボタンで瞬時に「通貨」、「パーセント」、「数値」を設定できます。
- 3 - «フォント»では、**Font** プロパティを設定できます。
- 4 - «位置合わせ»では、**TextAlign** プロパティを設定できます。
- 5 - «外観»には、見た目に関するプロパティ：**Angle**、**Border**、**Fill**、**Margins** の設定ボタンが含まれています。
- 6 - «スタイル»では、**StyleName** プロパティを設定できます。

AdvancedText タブセット

[AdvancedText](#) タブセットに「形式」タブが含まれています。

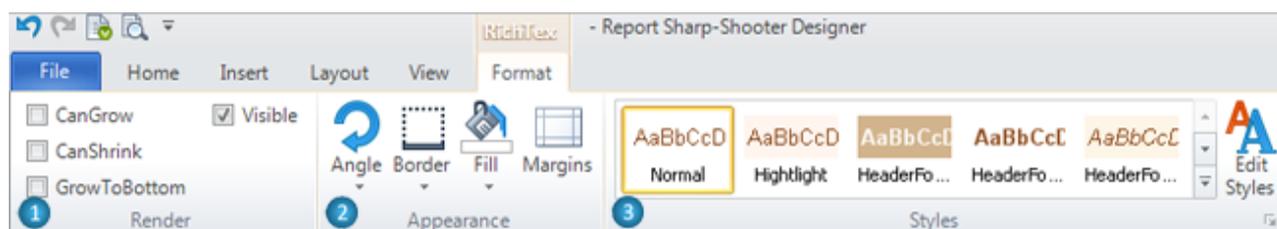


AdvancedText の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - «生成»には、生成に関するプロパティ：**CanBreak**、**CanGrow**、**CanShrink**、**GrowToBottom**、**Visible** を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - «テキスト形式»は **TextFormat** プロパティを設定します。このリストには、**TextFormat** プロパティの利用可能な値が格納されています。ボタンで瞬時に「通貨」、「パーセント」、「数値」を設定できます。
- 3 - «フォント»では、**Font** プロパティを設定できます。
- 4 - «位置合わせ»では、**TextAlign** プロパティを設定できます。
- 5 - «外観»には、見た目に関するプロパティ：**Angle**、**Border**、**Fill**、**Margins** を設定するためのボタンが含まれています。
- 6 - «スタイル»では、**StyleName** プロパティを設定できます。

RichText タブセット

[RichText](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

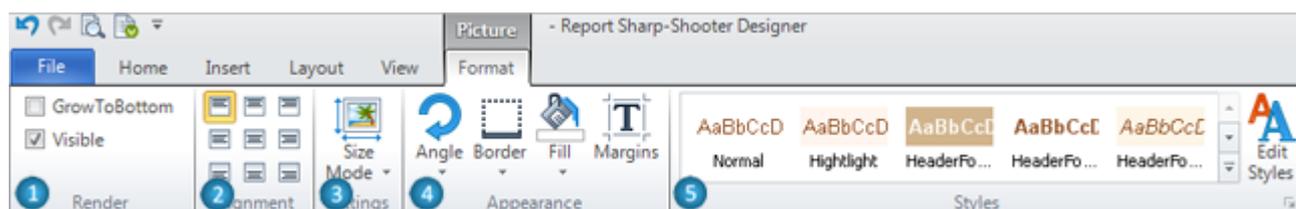


RichText の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：**CanGrow**、**CanShrink**、**GrowToBottom**、**Visible** を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - 《外観》には、見た目に関するプロパティ：**Angle**、**Border**、**Fill**、**Margins** を設定するためのボタンが含まれています。
- 3 - 《スタイル》では、**StyleName** プロパティを設定できます。

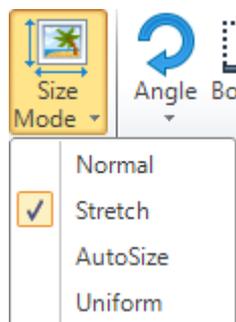
Picture タブセット

[Picture](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



Picture の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

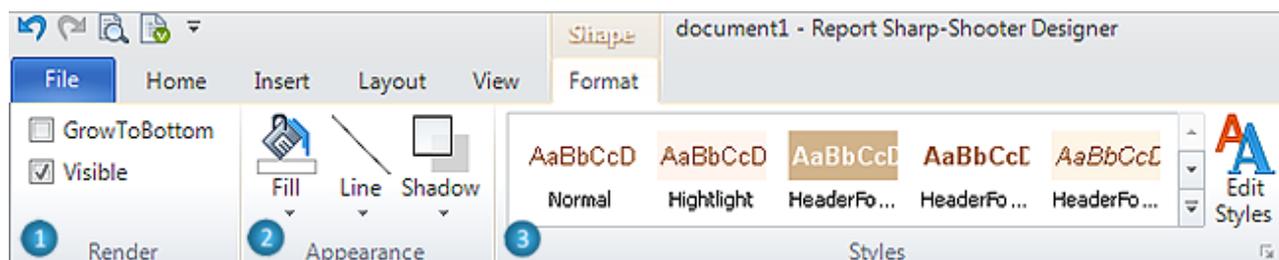
- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：**GrowToBottom**、**Visible** を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - 《位置合わせ》では、**ImageAlign** プロパティを設定できます。
- 3 - 《設定》には、**SizeMode** プロパティの値リストを開いて設定するための [サイズモード] ボタンが格納されています。



- 4 - 《外観》には、見た目に関するプロパティ：**Angle**、**Border**、**Fill**、**Margins** を設定するボタンが含まれています。
- 5 - 《スタイル》では、**StyleName** プロパティを設定できます。

Shape タブセット

Shape タブセットには「形式」タブが含まれています。

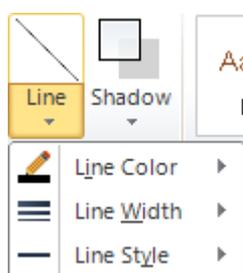


Shape の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

1 - «生成»には、生成に関するプロパティ：**GrowToBottom**、**Visible** を設定するためのチェックボックスが格納されています。

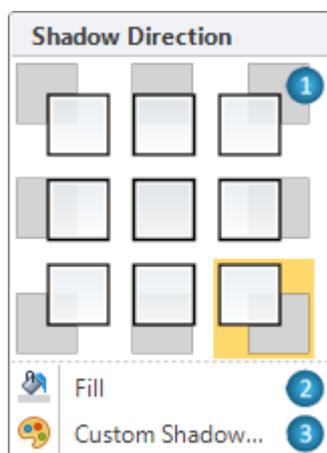
2 - «外観»には、見た目に関するプロパティ：**Fill**、**Line**、**Shadow** を設定するボタンが含まれています。

[線] ボタン：**Shape** の線（線の色、線幅、線スタイル）を設定できます。



[線の色] のサブメニューにはカラーパレットが格納されています。[線スタイル] のサブメニューには線の種類が格納されています。

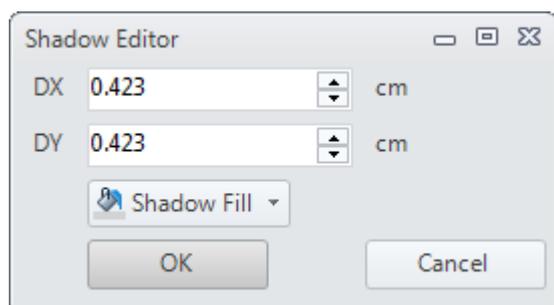
[影] ボタン：**Shape** の影を設定します。



2.1 - 影の位置を設定する領域

2.2 - [塗りつぶし] のサブメニュー：影の塗りつぶしを設定するカラーパレットを開きます。

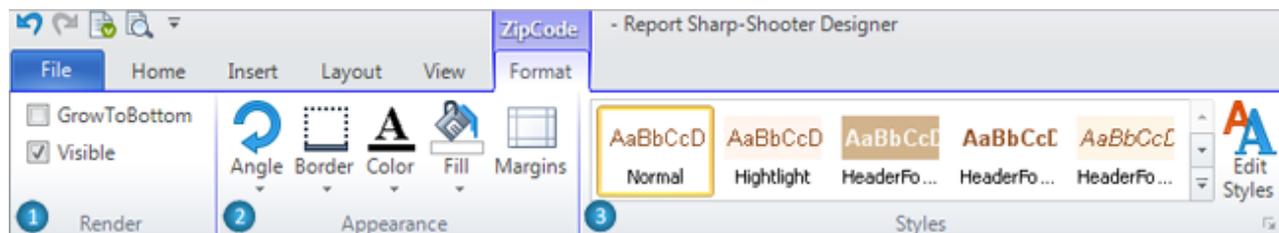
2.3 - [カスタムな影]：影のプロパティを設定する「影エディタ」を開きます。



3 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

ZipCode タブセット

[ZipCode](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



ZipCode の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

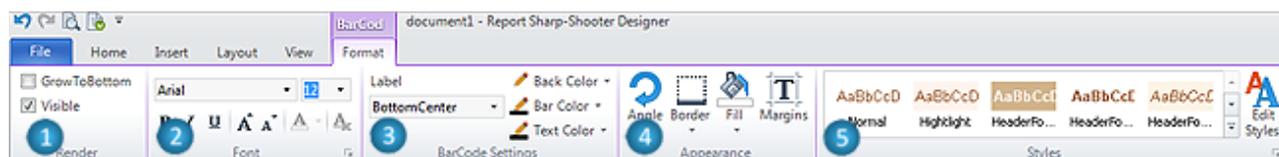
1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：GrowToBottom、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

2 - 《外観》には、見た目に関するプロパティ：Angle、Border、Fill、Margins と Color（ZipCode.Color プロパティを設定します）を設定するボタンが含まれています。

3 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

BarCode タブセット

[BarCode](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



BarCode の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

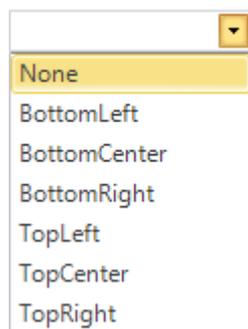
1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：GrowToBottom、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

2 - 《フォント》では、Font のプロパティを設定できます。

3 - 《バーコード設定》は、バーコード特有のプロパティを設定します。

[ラベルの位置]：リストには LabelPosition プロパティの値が格納されています。[なし] を選択すると ShowLabel プロパティが False に設定されます。

Label



[背景色]、[Bar 色]、[テキストの色] ボタンは、それぞれ BackColor、BarColor、TextColor プロパティを設定します。

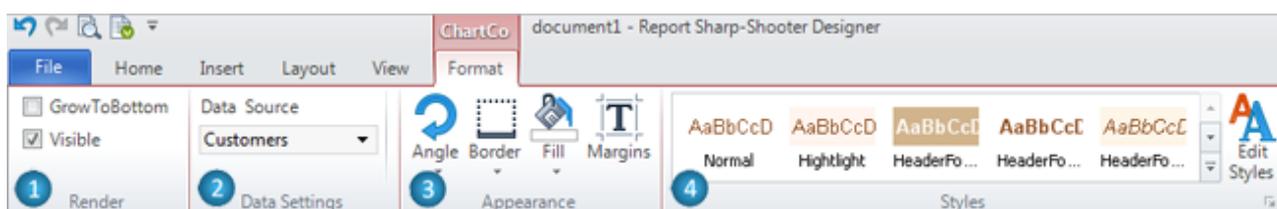


4 - 《外観》には、見た目に関するプロパティ : Angle、Border、Fill、Margins を設定するボタンが含まれています。

5 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

ChartControl タブセット

ChartControl タブセットには「形式」タブが含まれています。



ChartControl の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ : GrowToBottom、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

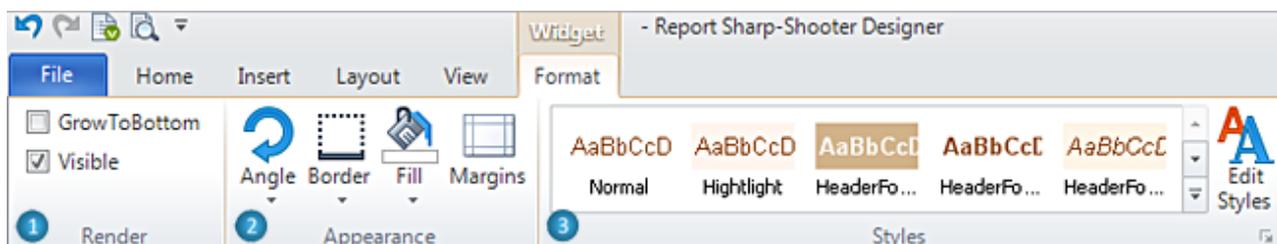
2 - 《データ設定》には、DataSource プロパティを設定するための制御が含まれています。

3 - 《外観》のグループには、見た目に関するプロパティ : Angle、Border、Fill、Margins を設定するボタンが含まれています。

5 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

Widget タブセット

Widget タブセットには「形式」タブが含まれています。



Widget の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

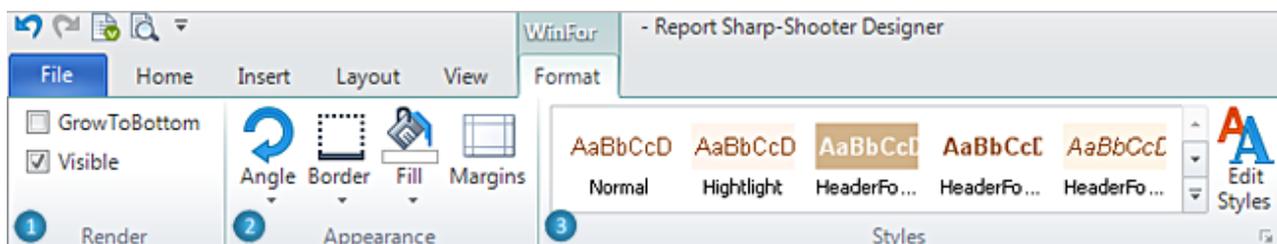
1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ : GrowToBottom、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

2 - 《外観》には、見た目に関するプロパティ : Angle、Border、Fill、Margins を設定するボタンが含まれています。

3 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

WinFormsControl タブセット

[WinFormsControl](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



WinFormsControl の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

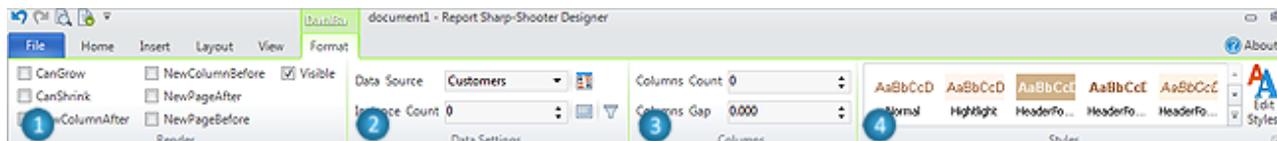
1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ : GrowToBottom、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

2 - 《外観》には、見た目に関するプロパティ : Angle、Border、Fill、Margins を設定するボタンが含まれています。

3 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

DataBand タブセット

[DataBand](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



DataBand の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ : CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

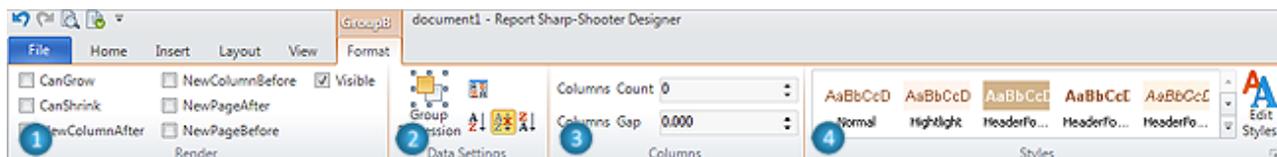
2 - 《データ設定》には、DataSource、InstanceCount、Sort、Totals、FilterExpression プロパティを設定するための制御が含まれています。

3 - 《列》には、ColumnsCount と ColumnsGap プロパティを設定するための制御が含まれています。

4 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

GroupBand タブセット

[GroupBand](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

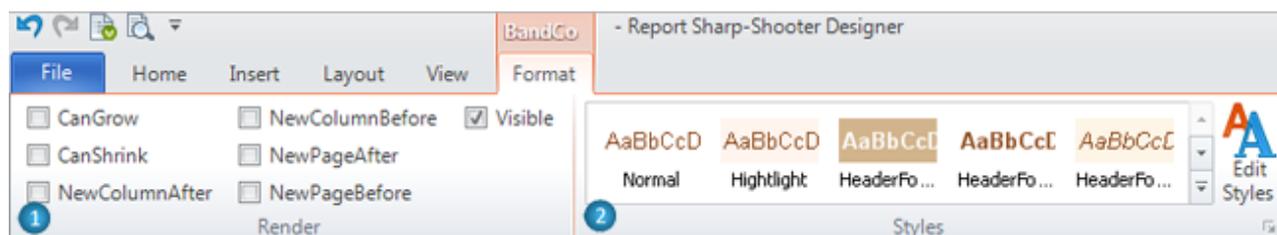


GroupBand の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - 《データ設定》には、GroupExpression、SortExpression、Order プロパティを設定するための制御が含まれています。
- 3 - 《列》には、ColumnsCount と ColumnsGap プロパティを設定するための制御が含まれています。
- 4 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

BandContainer タブセット

[BandContainer](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

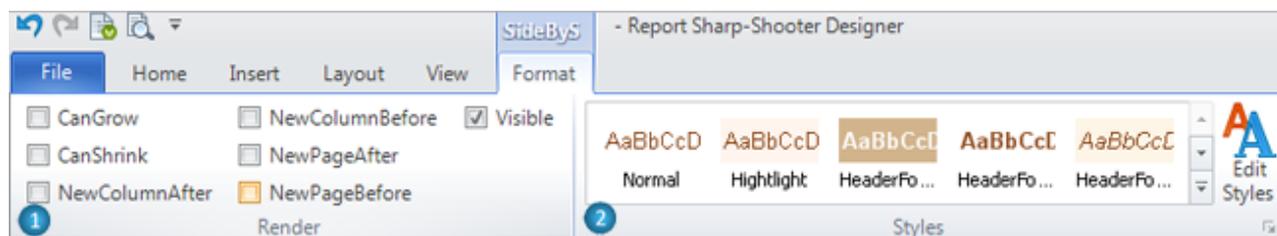


BandContainer の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

SideBySide タブセット

SideBySide タブセットには「形式」タブが含まれています。

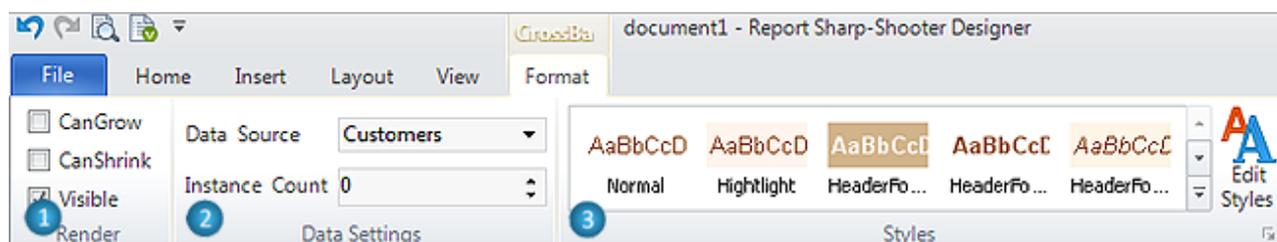


SideBySide の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

CrossBand タブセット

[CrossBand](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

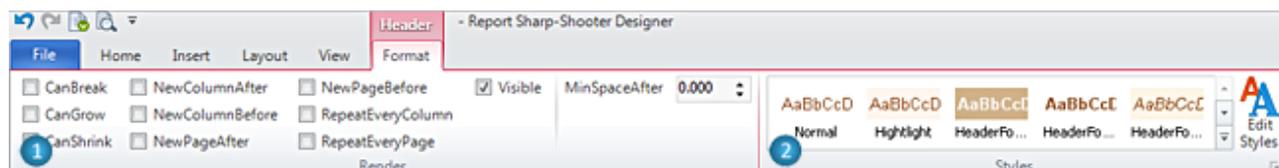


CrossBand の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - 《データ設定》には、DataSource と InstanceCount プロパティを設定するための制御が含まれています。
- 3 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

Header タブセット

[Header](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

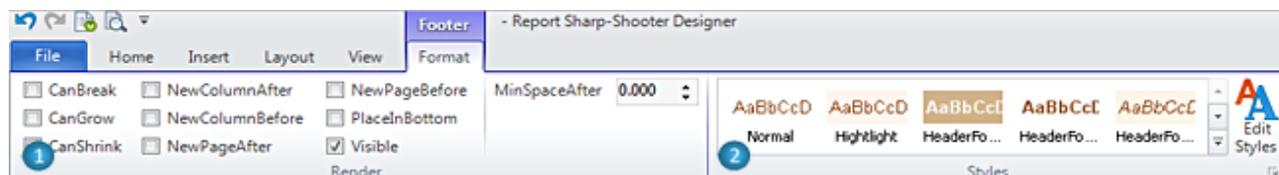


Header の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanBreak、CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、RepeatEveryColumn、RepeatEveryPage、Visible を設定するためのチェックボックスと、MinSpaceAfter プロパティを設定するためのカウンタ：MinSpaceAfter が格納されています。
- 2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

Footer タブセット

[Footer](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

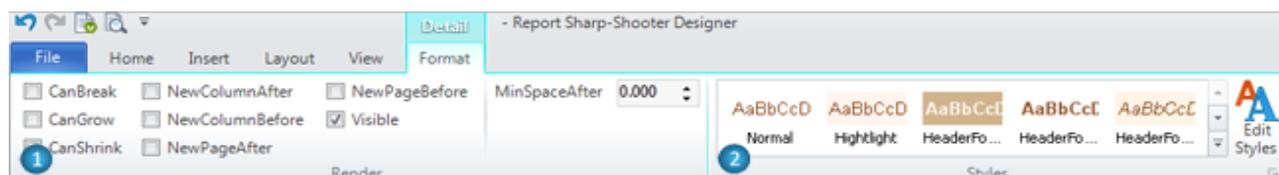


Footer の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanBreak、CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、PlaceInBottom、Visible を設定するためのチェックボックスと、MinSpaceAfter プロパティを設定するためのカウンタ：MinSpaceAfter が格納されています。
- 2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

Detail タブセット

[Detail](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



Detail の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

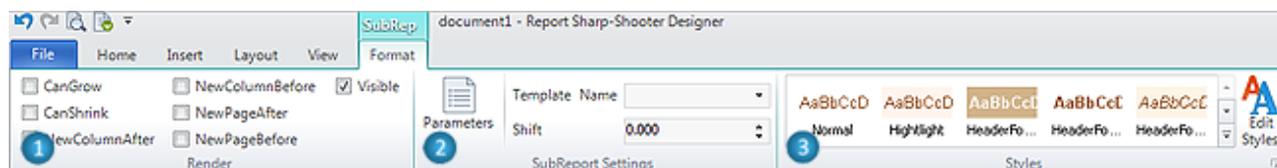


1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanBreak、CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスと、MinSpaceAfter プロパティを設定するためのカウンタ：MinSpaceAfter が格納されています。

2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

SubReport タブセット

[SubReport](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



SubReport の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

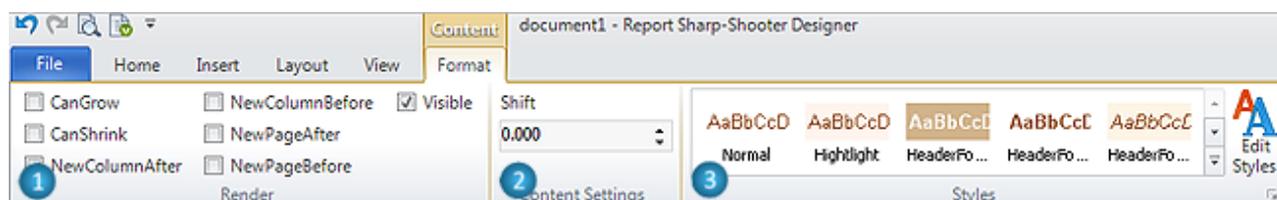
1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

2 - 《サブレポート設定》には、Parameters、TemplateName、Shift プロパティを設定するための制御が含まれています。

3 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

Content タブセット

[Content](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



Content の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

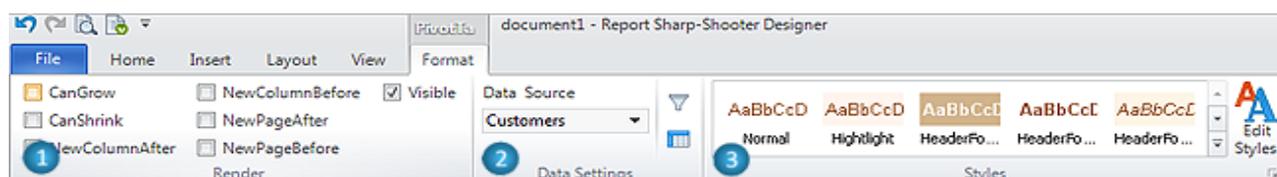
1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。

2 - 《コンテンツ設定》には Shift プロパティの制御が含まれています。

3 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

PivotTable タブセット

[PivotTable](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



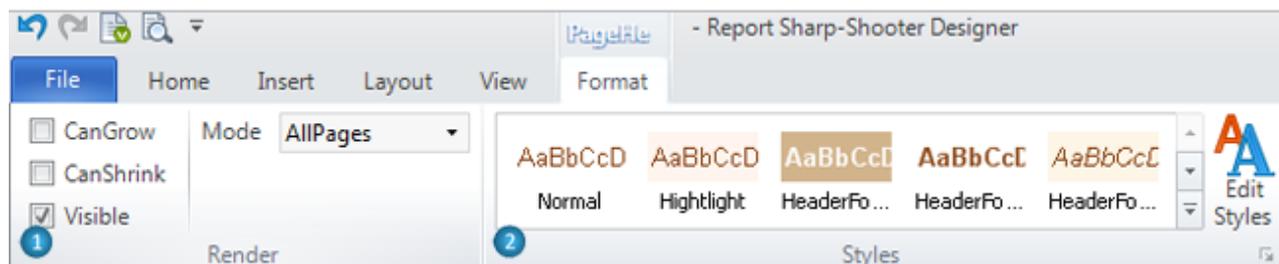
PivotTable の「形式」タブには、次のグループが含まれています。



- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、NewColumnAfter、NewColumnBefore、NewPageAfter、NewPageBefore、Visible を設定するためのチェックボックスが格納されています。
- 2 - 《データ設定》には、DataSource、FilterExpression、Layout プロパティを設定するための制御が含まれています。
- 3 - 《スタイルは》では、StyleName プロパティを設定できます。

PageHeader タブセット

[PageHeader](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

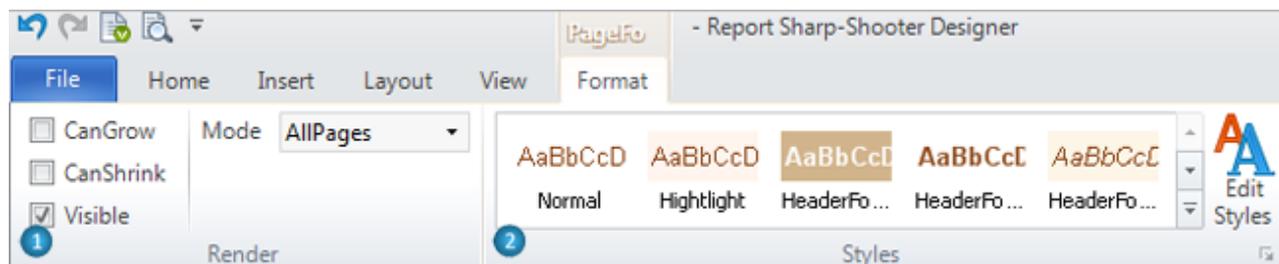


PageHeader の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、Visible を設定するためのチェックボックスと、Mode プロパティの値を含んでいる Mode 一覧が格納されています。
- 2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

PageFooter タブセット

[PageFooter](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。

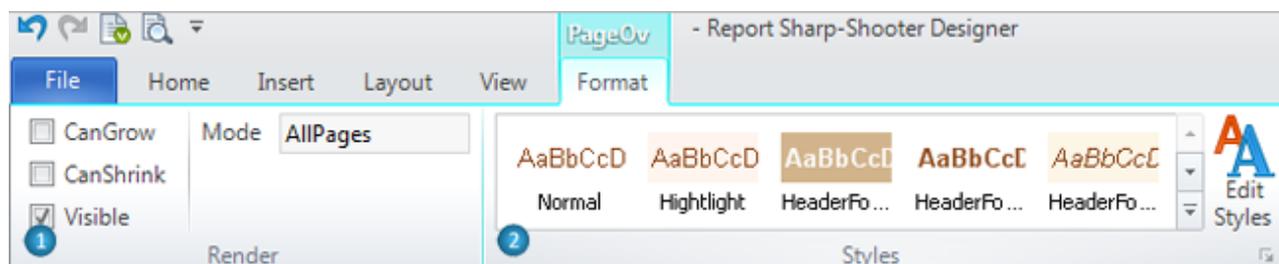


PageFooter の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、Visible を設定するためのチェックボックスと、Mode プロパティの値を含んでいる Mode 一覧が格納されています。
- 2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

PageOverlay タブセット

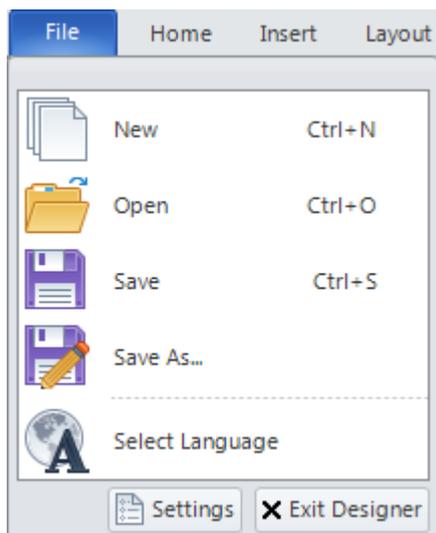
[PageOverlay](#) タブセットには「形式」タブが含まれています。



PageOverlay の「形式」タブには、次のグループが含まれています。

- 1 - 《生成》には、生成に関するプロパティ：CanGrow、CanShrink、Visible を設定するためのチェックボックスと、Mode プロパティの値を含んでいる Mode 一覧が格納されています。
- 2 - 《スタイル》では、StyleName プロパティを設定できます。

アプリケーションメニュー



[新規] : 新しいテンプレートを作成するウィザードギャラリーを開きます。

[開く] : テンプレート/ドキュメントを開く「テンプレートを開く」ウィンドウを開きます。

[保存] : 編集したテンプレート/ドキュメントの変更を保存します。テンプレート/ドキュメントが保存されない場合は、保存先のフォルダやファイル名を選択する「テンプレートの保存」ウィンドウを開きます。

[名前を付けて保存...] : レポート/ドキュメントを保存するフォルダやファイル名を選択する「テンプレートの保存」ウィンドウを開きます。

[言語設定] : ローカライゼーション言語を選択する「言語設定」ウィンドウを開きます。

[設定] ボタン : デザイナのテーマや色スキーマを選択する「パレット設定」ウィンドウを開きます。

[デザイナを閉じる] ボタン : レポートデザイナを閉じます。

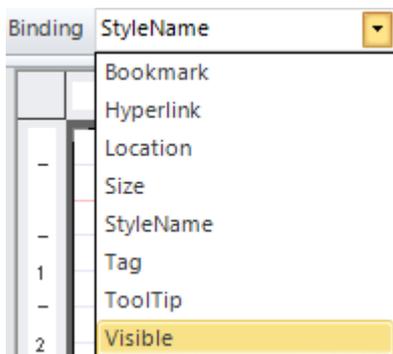


バインドバー

バインドバーを使用すれば、瞬時にオブジェクトのプロパティをバインドできます。



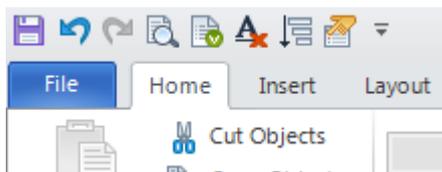
- 1 - [名称] - 選択したオブジェクトの名前を設定します。
- 2 - [バインド] - 選択したオブジェクトの動的なプロパティ一覧で、値を設定するプロパティを選択できます。



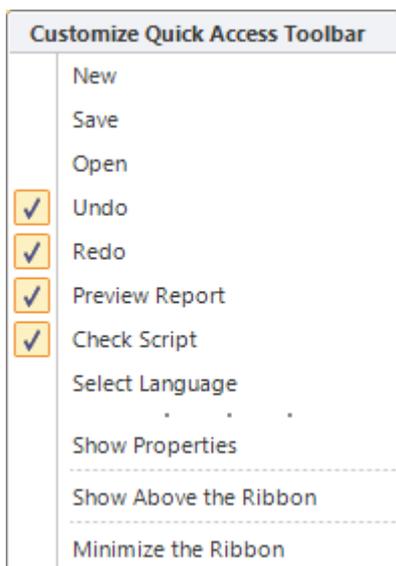
- 3 - [スクリプトエディタ] ボタン - 選択したオブジェクトの式を設定する [スクリプトエディタ](#) を開きます。
- 4 - [F(x)] - 選択したオブジェクトに動的なプロパティを設定するための式を設定します。

クイック アクセス ツールバー

クイック アクセス ツールバーは、よく使うコマンドにアクセスします。



カスタマイズすることで、必要なコマンドを追加できます。



クイック アクセス ツールバーに次のコマンドを追加できます。

ボタン	動作
新規ドキュメント	新しいテンプレートを作成します
保存	テンプレートの変更を保存します
開く	テンプレート/ドキュメントをファイルから読み込みます
言語設定	「言語設定」ダイアログを開きます
Font	「フォント」ダイアログを開きます
スタイルのみ使用	スタイル設定を設定します
Fill	Fill プロパティを設定する「塗りつぶしエディタ」を開きます
Text Fill	TextFill プロパティを設定する「塗りつぶしエディタ」を開きます
Border	「枠エディタ」を開きます
Margins	「余白エディタ」を開きます
Text Format	「フォーマットエディタ」を開きます
スタイルシートエディタ	「スタイルシートエディタ」を開きます
整列	「整列」ダイアログを開きます
実サイズ	100% ズームを設定します
ページの幅	ページの幅に合わせます
ページ全体	ページ全体に合わせます
プロパティ	「プロパティ」ウィンドウを開きます
ドキュメントツリー	「ドキュメントツリー」ウィンドウを開きます
データソース	「データソース」ウィンドウを開きます
エラー一覧	「エラー一覧」ウィンドウを開きます
グリッドを表示	グリッドを表示/非表示にします



グリッドに合わせる	「グリッドに合わせる」オプションをオン/オフにします
ルーラの表示	ルーラを表示/非表示にします
オブジェクトの境界を表示	オブジェクトの境界を表示/非表示にします
バンドのレイアウト	「バンドの自動レイアウト」オプションをオン/オフにします
テンプレートのプロパティ	テンプレートのプロパティを開きます

コンテキストメニュー

コンテキストメニューには、一番よく使われるメニューが含まれています。メニュー一覧は、現在選択されているレポートオブジェクトによって決まります。

一般的な動作



1 [オブジェクトの切り取り] - 選択したオブジェクトを切り取って、クリップボードに貼り付けます。

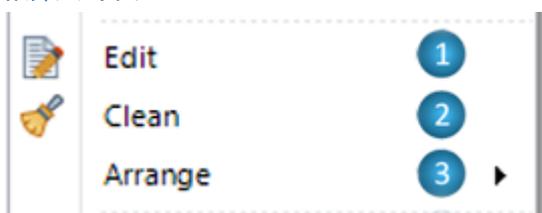
2 [オブジェクトのコピー] - 選択したオブジェクトをコピーして、クリップボードに貼り付けます。

3 [オブジェクトの貼り付け] - 選択した領域にクリップボードの内容を貼り付けます。

4 [オブジェクトの削除] - 選択したオブジェクトを削除しま

す。

編集や順序



1 [編集] - このメニューはエディタを開きます。

- TextBox.Text プロパティを設定する、TextBox オブジェクトの「テキストエディタ」
- AdvancedText element to set AdvancedText.Text プロパティを設定する、AdvancedText オブジェクトの「書式付きテキストエディタ」
- RichText.RTFtext プロパティを設定する、RichText オブジェクトの「RichText エディタ」
- イメージを選択し、Picture.Image プロパティを設定する「ファイルを開く」ダイアログを開きます。
- BarCode.Code プロパティを設定する、BarCode オブジェクトの「テキストエディタ」
- ChartControl.Chart プロパティを設定する、ChartControl オブジェクトの SharpShooter Charts デザイナ
- Widget.Instrument プロパティを設定する、Widget オブジェクトの Instrument デザイナ
- PivotTable.Layout プロパティを設定する、PivotTable の「ソースフィールド」

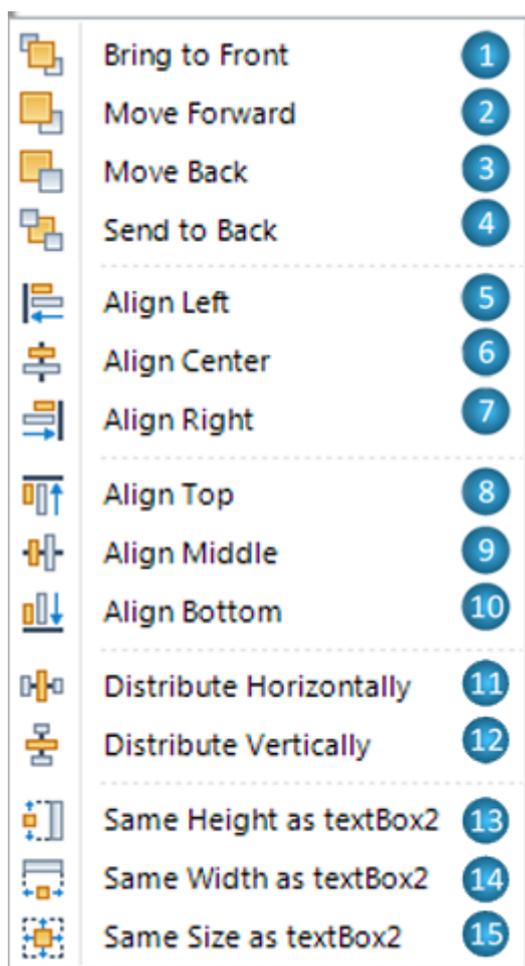
2 [クリーン] - このメニューは内容をきれいにします。

- TextBox オブジェクトの TextBox.Text プロパティ
- AdvancedText オブジェクトの AdvancedText.Text プロパティ
- RichText オブジェクトの RichText.RTFtext プロパティ
- Picture オブジェクトの Picture.Image プロパティ
- BarCode オブジェクトの BarCode.Code プロパティ
- ChartControl の ChartControl.Chart プロパティ



- Widget オブジェクトの `Widget.Instrument` プロパティ

3 [順序] - このサブメニューには、オブジェクトの順序、位置、サイズを操作するためのメニューが含まれています。



3.1 [先頭に移動] - 現在のコンテナの他のオブジェクトで隠されないように、選択したオブジェクトを先頭に移動します。

3.2 [前面に移動] - 現在のコンテナの一部のオブジェクトで隠れるように、選択したオブジェクトを前面に移動します。

3.3 [背面に移動] - 現在のコンテナで他のいくつかのオブジェクトで隠れるように、選択したオブジェクトを背面に移動します。

3.4 [末尾に移動] - 選択したオブジェクトを現在のコンテナのオブジェクトの最後尾に移動します。

次のメニューは、複数のオブジェクトを選択した場合のみ利用できます。

3.5 [左揃え] - 選択したオブジェクトの左側を最左端のオブジェクトの左枠に揃えます。

3.6 [中央揃え] - 選択したオブジェクトの中心を最左端と最右端のオブジェクトの中心に揃えます。

3.7 [右揃え] - 選択したオブジェクトの右側を最右端のオブジェクトの右枠に揃えます。

3.8 [上揃え] - 選択したオブジェクトの上部を最上部のオブジェクトの上枠に合わせます。

3.9 [中間揃え] - 選択したオブジェクトの中央を最上部と最下部のオブジェクトの中間に揃えます。

3.10 [下揃え] - 選択したオブジェクトの下部を最下部のオブジェクトの下枠に揃えます。

3.11 [左右に整列] - 選択したオブジェクトを左右に等間隔で整列します。

3.12 [上下に整列] - 選択したオブジェクトを上下に等間隔で整列します。

3.13 [<選択したメインのオブジェクト*>と同じ高さ] - 選択したすべてのオブジェクトの高さを選択したメインのオブジェクトの高さと同じにします。

3.14 [<選択したメインのオブジェクト>と等幅] - 選択したすべてのオブジェクトの幅を選択したメインのオブジェクトと等幅にします。

3.15 [<選択したメインのオブジェクト>と同サイズ] - 選択したすべてのオブジェクトを選択したメインのオブジェクトと同サイズにします。

* 選択したメインのオブジェクト - 現在選択したオブジェクトで最後に選択されたオブジェクト。濃い青色で示されます。

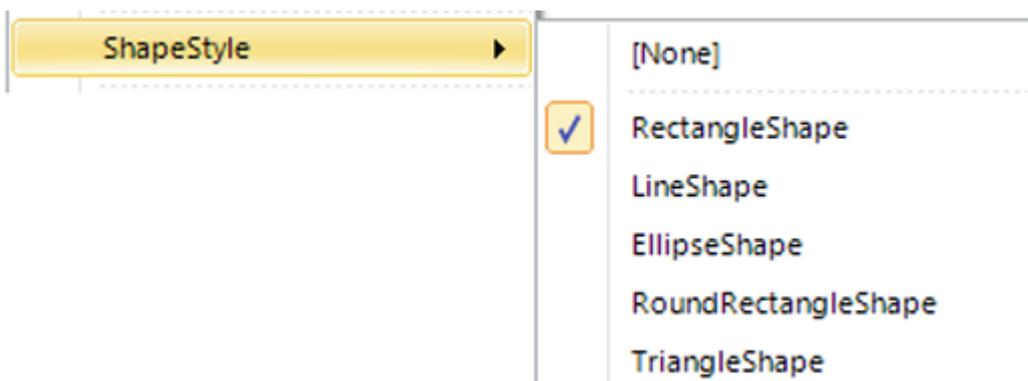
オブジェクトに依存するメニュー

オブジェクト固有のプロパティを設定するメニューは以下の通りです。

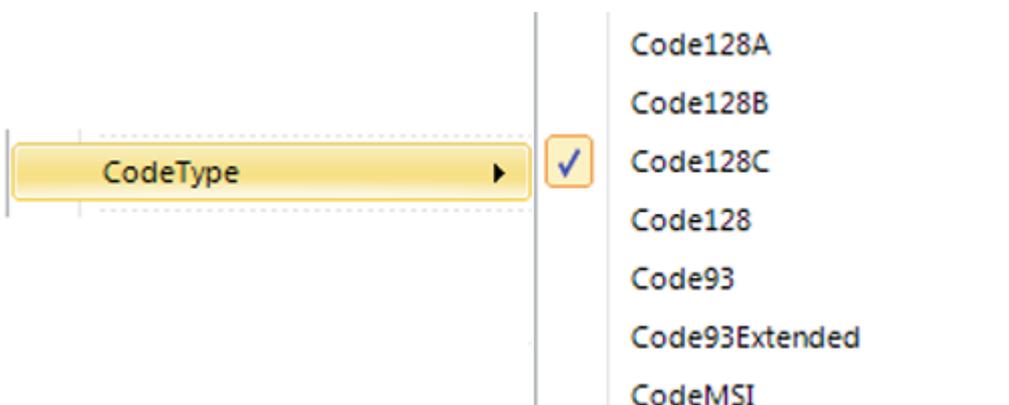
SizeMode - Picture.SizeMode プロパティを設定します。このサブメニューには、**SizeMode** プロパティの値リストが表示されます。



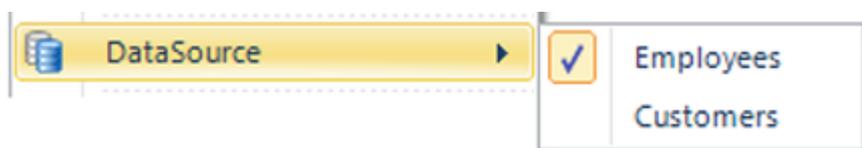
ShapeStyle – Shape.ShapeStyle プロパティを設定します。このサブメニューには、ShapeStyle プロパティの値リストが表示されます。



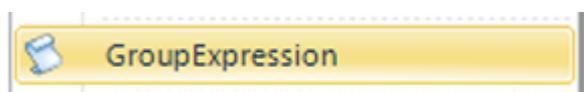
CodeType – BarCode.CodeType プロパティを設定します。このサブメニューには、CodeType プロパティの値リストが表示されます。



DataSource – DataSource property of DataBand、PivotTable、CrossBand の DataSource プロパティを設定します。このサブメニューには、テンプレートのデータソースの一覧が表示されます。



GroupExpression – GroupBand.GroupExpression プロパティを設定する「スクリプトエディタ」を開きます。



SubReport – SubReport.TemplateName プロパティを設定します。このサブメニューには、現在のレポートマネージャのレポート名の一覧が表示されます。



オブジェクトのスタイル編集



1 [StyleName] - オブジェクトの **StyleName** プロパティを設定します。このサブメニューには、テンプレートで定義したスタイル一覧が表示されます。

2 [Style] - このサブメニューには、次のメニューが表示されます。



2.1 [スタイルのみ使用] - オブジェクトの書式設定（例：フォント、枠など）をすべてクリアします。オブジェクトの見た目は現在適用されるスタイルで示されます。

2.2 [Font] - Font プロパティを設定する「フォント」ダイアログを開きます。

2.3 [TextFormat] - TextFormat プロパティを設定する「フォーマット」ダイアログを開きます。

2.4 [Border] - Border プロパティを設定する「枠エディタ」を開きます。

2.5 [Fill] - Fill プロパティを設定する「塗りつぶしエディタ」を開きます。

2.6 [TextFill] - TextFill プロパティを設定する「塗りつぶしエディタ」を開きます。

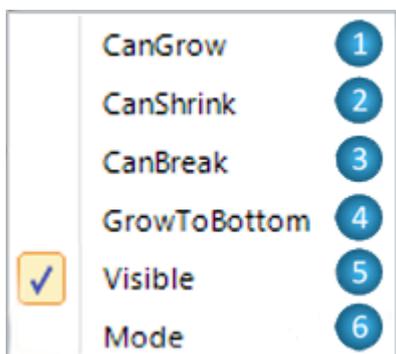
2.7 [Align] - TextAlign または ImageAlign プロパティを設定します。このサブメニューには、位置合わせのオプションが表示されます。

2.8 [Margins] - Margins プロパティを設定する「余白エディタ」を開きます。

2.9 [Angle] - Angle プロパティを設定します。Angle プロパティの値リストが表示されます。

生成のサブメニュー

このサブメニューは、オブジェクトの生成に関するプロパティを設定する機能を提供しています。



1 [CanGrow] - CanGrow プロパティを True / False に設定します。

2 [CanShrink] - CanShrink プロパティを True / False に設定します。

3 [CanBreak] - CanBreak プロパティを True / False に設定します。

4 [GrowToBottom] - GrowToBottom プロパティを True / False に設定します。

5 [Visible] - Visible プロパティを True / False に設定します。

6 [Mode] - Mode プロパティを設定します。このサブメニューには、

Mode プロパティの値リストが表示されます。

その他のメニュー



[プロパティを表示] - プロパティグリッドに選択したオブジェクトのプロパティを表示します。

グループ選択

複数のオブジェクトを選択すると、コンテキストメニューには選択されたすべてのオブジェクトに共通するメニューが表示されます。コマンドは選択した各オブジェクトに適用されます。

下図では、選択されたメインオブジェクトは **AdvancedText** オブジェクトになっています。

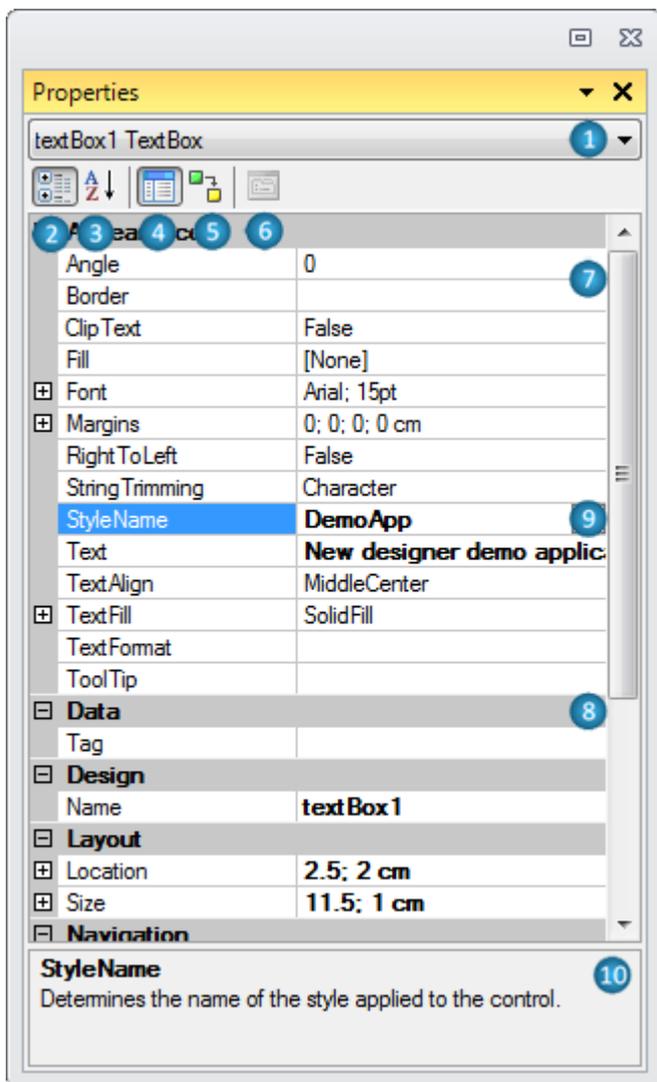


ドッキング

リボンインターフェイスを持つ新しいレポートデザイナーは、ウィンドウのドッキングをサポートしています。プロパティ、データソース、ドキュメントツリー、エラー一覧のウィンドウをドッキングできます。つまり、デザイナーウィンドウの脇にウィンドウをドッキングさせるか、独自の小さなウィンドウにフローティングさせることができます。

プロパティグリッド

プロパティグリッドは、選択したオブジェクトの**プロパティ**を表示/編集するためにあります。



1 - [オブジェクト一覧] - テンプレートのすべてのオブジェクトを表示する、テンプレートのオブジェクト一覧です。プロパティグリッドは、[オブジェクト一覧] で選択したオブジェクトのプロパティを表示します。最初の単語はオブジェクト名で、二番目の単語はオブジェクト型です。

2 - [項目別] - このボタンはプロパティを項目別で表示します。

3 - [アルファベット順] - このボタンはプロパティをアルファベット順で表示します。

4 - [プロパティ] - このボタンは静的なプロパティの表示に切り替えます。

5 - [バインド] - このボタンは動的なプロパティの表示に切り替えます。

6 - [プロパティ ページ] - このボタンは使われておりません。

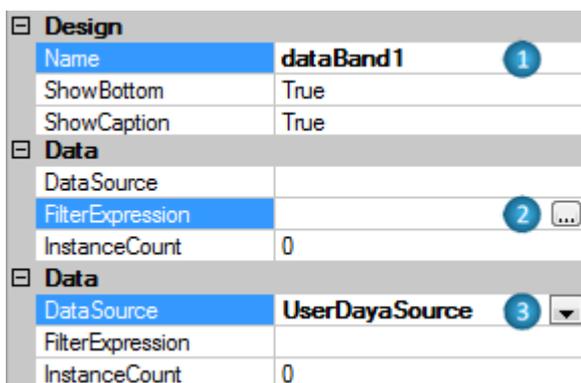
7 - [プロパティ グリッド] - オブジェクトのプロパティグリッド

8 - プロパティ群

9 - プロパティ名と値

10 - [説明] - 選択したプロパティの説明

プロパティの設定にさまざまな方法が使用されます。

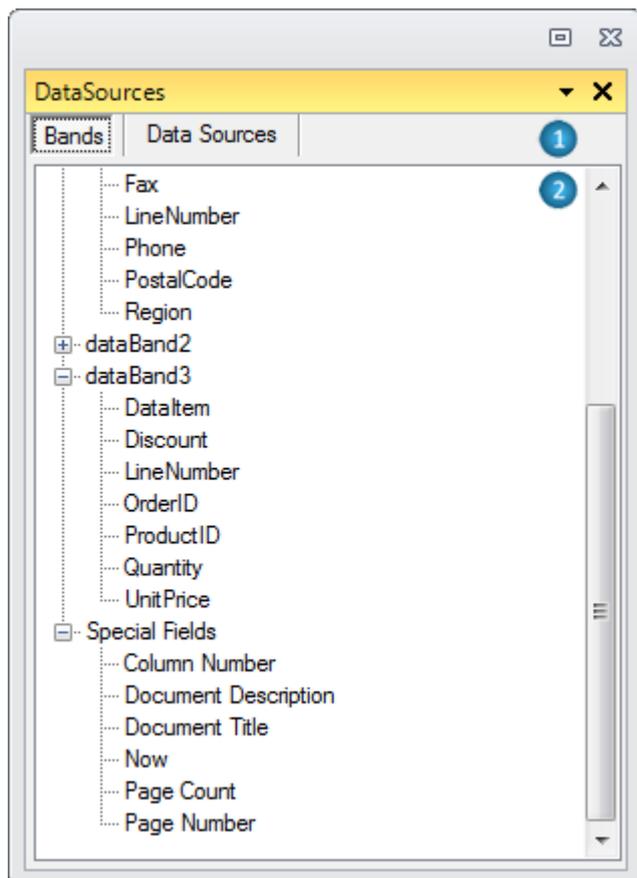


1 - テキストや数値を入力するフィールド

2 - このボタンは、プロパティのエディタを開きます。

3 - 値リスト

データソース

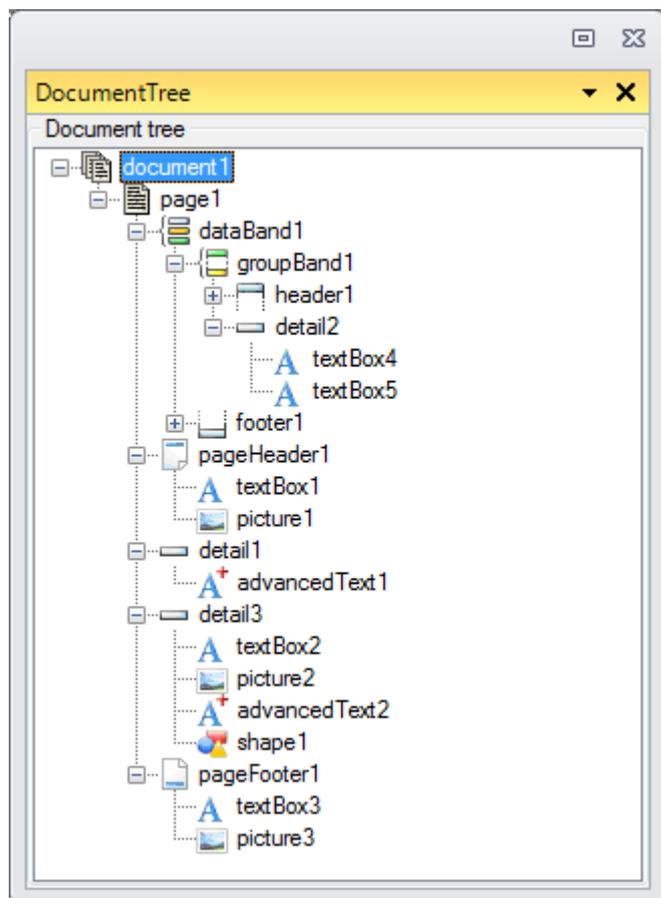


1 - 「バンド」タブと「データソース」タブを切り替えます。レポートバンドのデータや専用フィールドが「バンド」タブに表示されます。レポートのデータソースのデータが「データソース」タブに表示されます。

2 - データソースのフィールドツリーからフィールドをドラッグすることにより、**TextBox** オブジェクトを作成してそこにデータソースのデータを出力できます。

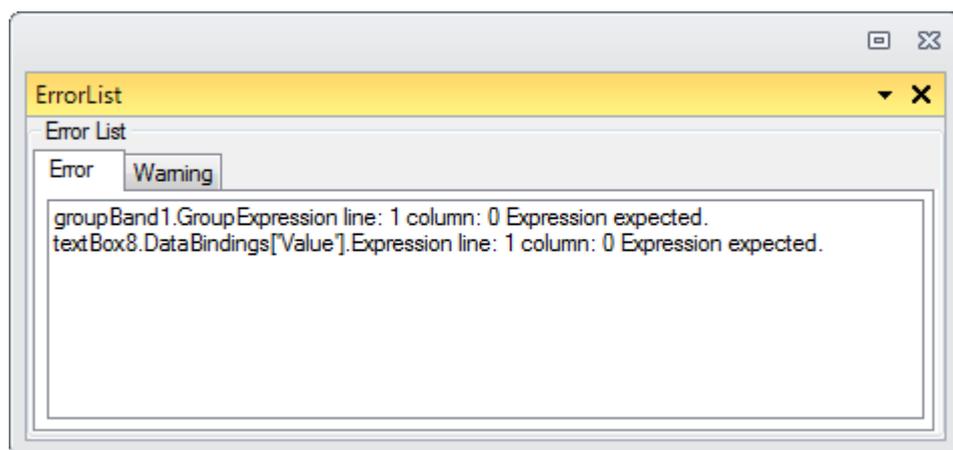
ドキュメントツリー

ドキュメントツリーはレポート構造順に並べられたオブジェクトのセットです。オブジェクトを選択して、プロパティを編集したり、オブジェクトを削除したり、テンプレート構造を変更したりすることができます。



エラー一覧

スクリプトのエラー一覧には、エラーの発生したバンド名やエラー内容も表示されます。左マウスボタンでダブルクリックして[スクリプトエディタ](#)を開き、式/スクリプトの編集を行えます。

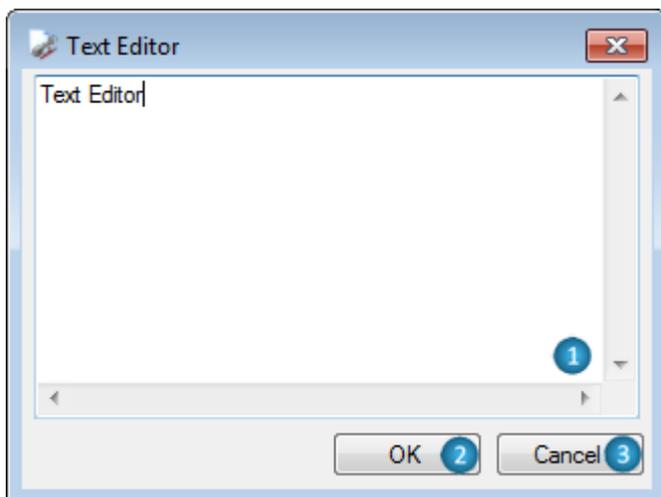


エディタ

テキストエディタ

このエディタはテキストの値を入力するためのもので、シンプルなテキストを入力できます。

このエディタは **TextBox** オブジェクトをダブルクリックするか、**TextBox** オブジェクトを選択した時にホットキー : **Ctrl + Enter** を入力するか、プロパティグリッドの **TextBox** プロパティのボタンで開きます。

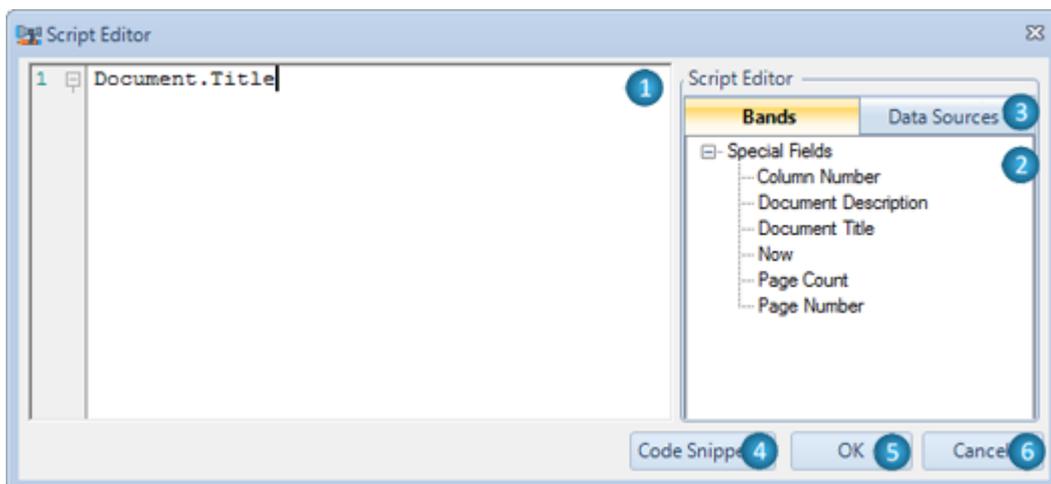


- 1 - テキストを入力する領域
- 2 - [OK] ボタン - 変更を適用し、エディタを閉じます。
- 3 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルし、エディタを閉じます。

スクリプトエディタ

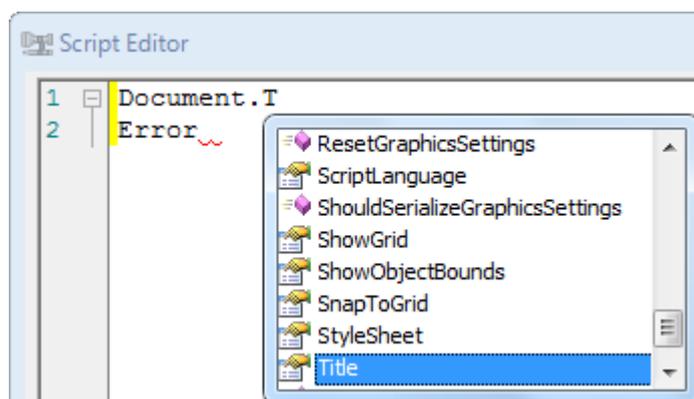
このエディタはスクリプトや式を入力するためのものです。

このエディタは、プロパティグリッドのプロパティのボタンを押すか、バインドバーの「スクリプトエディタ」ボタンを押して開きます。



- 1 - スクリプトを入力する領域

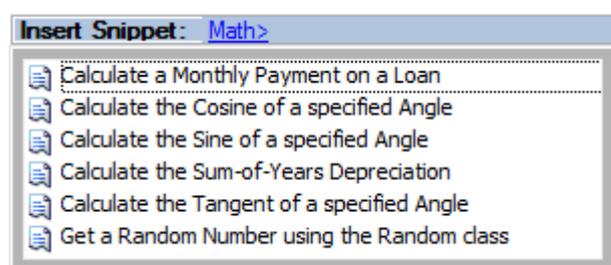
スクリプトエディタは、構文の強調表示、選択の変更、オートコンプリートコードを提供します。



2 - フィールドツリーはデータソースのフィールド（「データソース」タブのデータソースのフィールド部分）、バンドのフィールド（「バンド」タブのバンドのフィールド部分）、特別なフィールド（バンドタブの部分）を表示します。式を素早く入力するには、フィールドツリーのフィールドをスクリプトの入力領域にドラッグするか、フィールドツリーのフィールドをダブルクリックすると行えます。

3 - 「バンド」タブと「データソース」タブを切り替えます。

4 - [コードスニペット] ボタン - テンプレートで選択したオブジェクトに対してコードフラグメントを入力するためのリストを開きます。



5 - [OK] ボタン - 変更を適用し、エディタを閉じます。

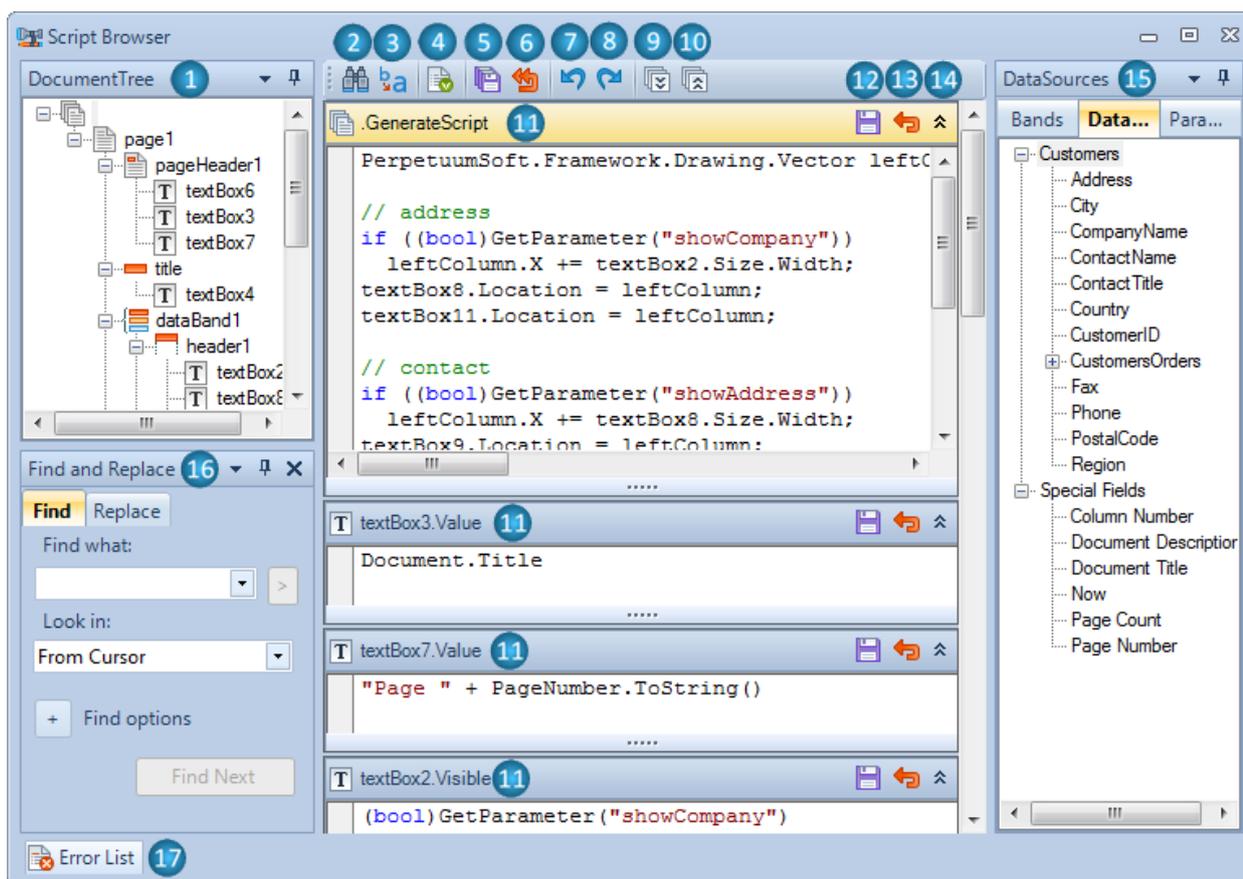
6 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルし、エディタを閉じます。



スクリプトブラウザ

スクリプトブラウザはスクリプトを簡単に操作できるようにレポートのすべてのスクリプトを表示します。

このブラウザは、リボンバーの「ホーム」タブの右側にあるボタンで開きます。



1 - ドキュメントツリー：ドキュメントのすべてのオブジェクト一覧が入っていて、その構造を示しています。ドキュメントツリーのオブジェクトのコンテキストメニューで、新しいスクリプトの作成または既存のスクリプトにナビゲートすることができます。

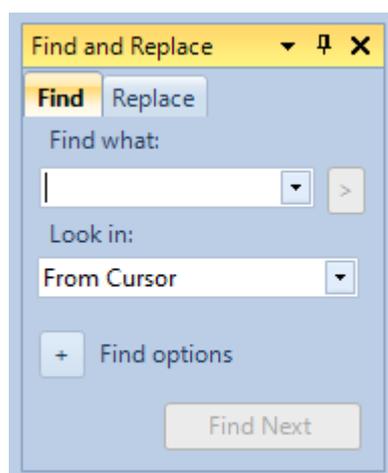


- 2 - 検索 - 「検索と置換」ウィンドウの「検索」タブをアクティブにして起動します。
- 3 - 置換 - 「検索と置換」ウィンドウの「置換」タブをアクティブにして起動します。
- 4 - スクリプトのチェック - ドキュメント全体のスクリプトをすべて確認します。
- 5 - すべて保存 - スクリプトの変更をすべて保存します。
- 6 - すべて取り消す - スクリプトの変更をすべて取り消します。
- 7 - 元に戻す - スクリプトを元に戻します。
- 8 - やり直し - 元に戻したものをやり直す、またはより最新状態に進めます。
- 9 - すべて開く - スクリプトの内容をすべて展開します。
- 10 - すべて閉じる - スクリプトの内容をすべて閉じます。
- 11 - (スクリプトを入力する) **スクリプト領域**
- 12 - 保存 - 選択したスクリプトの変更を保存します。
- 13 - 変更を取り消す - 選択したスクリプトの変更を取り消します。
- 14 - 開く/閉じる - 選択したスクリプトの内容を開く/閉じます。

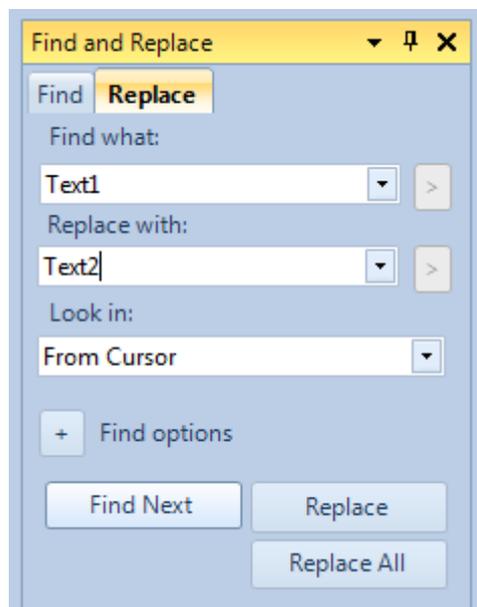
15 - データソースのフィールドツリー - フィールドツリーはデータソース（「データソース」タブ）やバンドのフィールドを表示し、特別なフィールド（「バンド」の部分）や「パラメータ」を表示します。式はフィールドツリーからスクリプトの入力領域にドラッグするか、ツリーのフィールドをダブルクリックすることで素早く入力することができます。

16 - 検索と置換

「検索」タブ: 「範囲」フィールドに指定した範囲で、「検索文字列」フィールドに指定した文字列が最初に検出される位置を示すことができます。

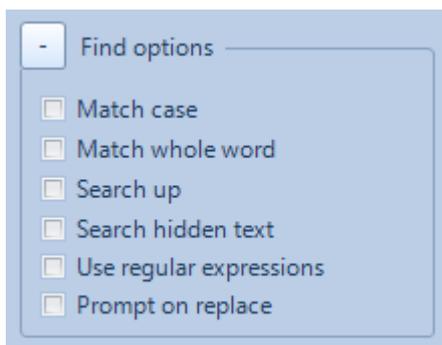


「置換」タブ: 「範囲:」フィールドに指定した範囲から検出された、「検索文字列:」フィールドに指定した文字列をすべて「新文字列:」フィールドの文字列に置換できます。



- 次を検索 - 検索を続行し、同じ条件と一致する次の文字列を見つけます。
- 置換 - 検出されたすべての文字列を別の文字列に置換します。
- すべて置換 - 指定した範囲から検出された文字列をすべて置換します。

検索オプション

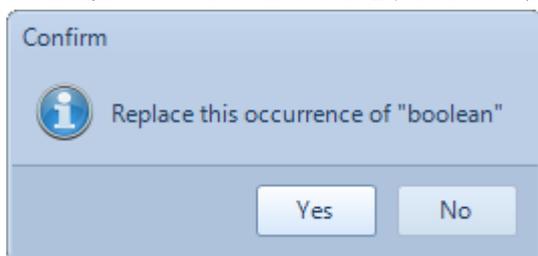


- 大文字/小文字を区別する - チェックを付けると、大文字と小文字を区別してテキストを検索します。
- 単語全体にマッチする - チェックを付けると、単語全体がマッチしたものだけを返します。
- 上方検索 - 検索方向を指定します。
- 非表示テキストの検索 - 非表示テキストを検索します。
- 正規表現を使用する - チェックを付けると、Expression Builder ボタンが有効になります。

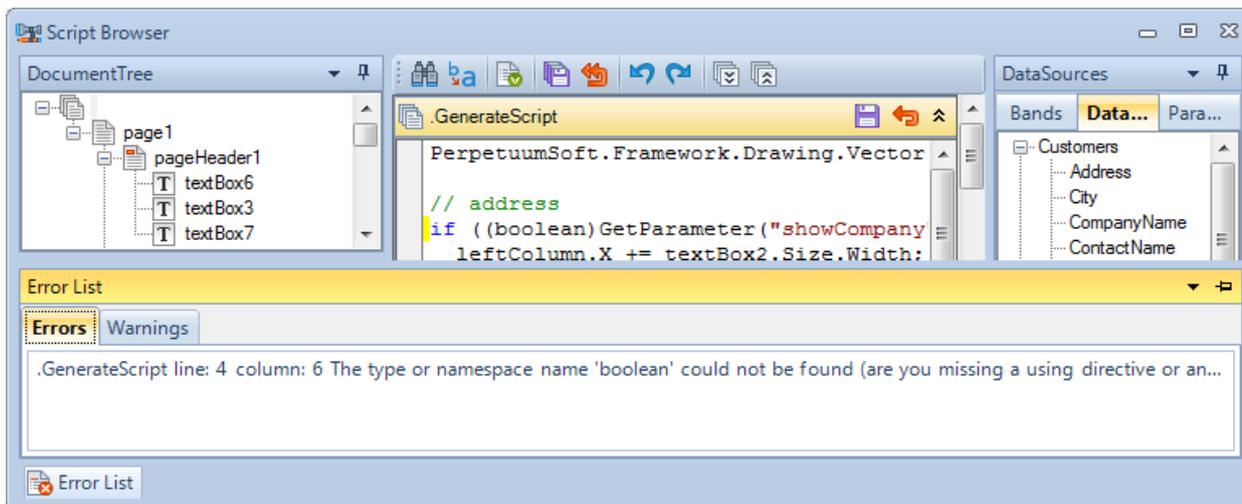


詳しくは、[Microsoft のライブラリ ページ](#)の Expression Builder の説明を参照してください。

- 入力支援 - チェックを付けると、文字列の置換を確認ウィンドウで確認します。



17 - エラー一覧 - 「エラー一覧」 ウィンドウを開きます。

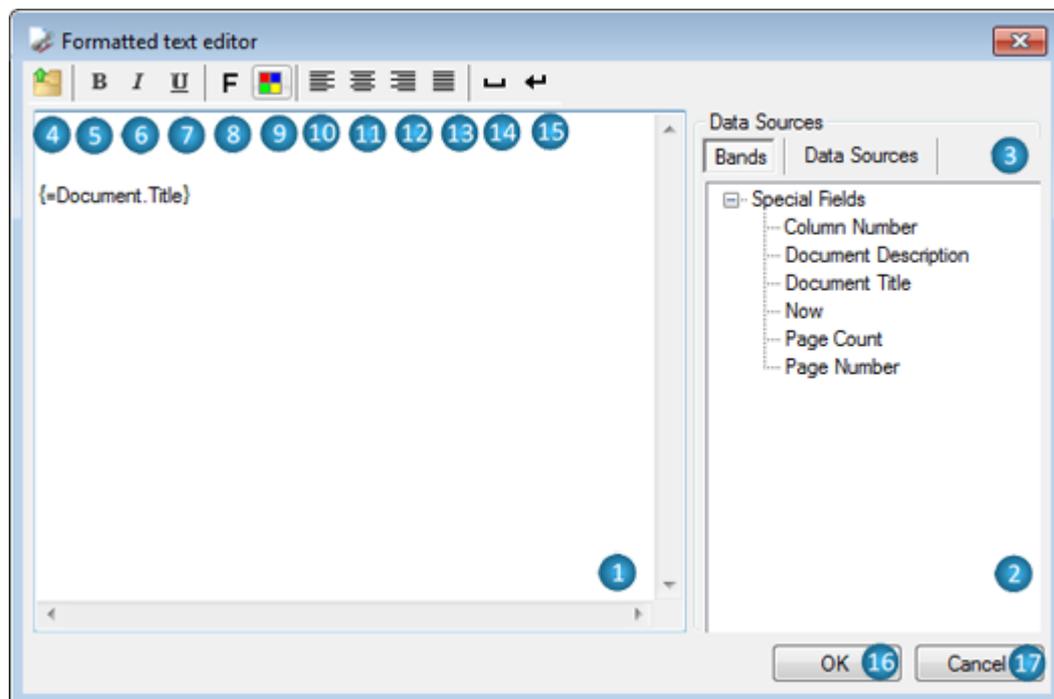


このデフォルトパレットの黄色は、現在のアクティブな要素を示します。

書式付きテキストエディタ

このエディタは HTML 形式の書式付きのテキスト、同様のマークアップ言語を入力したり RTF テキストを読み込んだりするためのエディタです。

このエディタは、AdvancedText オブジェクトをダブルクリックするか、AdvancedText オブジェクトを選択した時にホットキー：Ctrl + Enter を入力するか、プロパティグリッドの AdvancedText オブジェクトの Text プロパティのボタンで開きます。



1 - テキストを入力する領域

2 - フィールドツリーはデータソース（「データソース」タブ）やバンドのフィールドを表示したり、特別なフィールド（「バンド」の部分）を表示したりします。式はフィールドツリーからスクリプトの入力領域にドラッグするか、ツリーのフィールドをダブルクリックすることで素早く入力することができます。

3 - 「バンド」タブと「データソース」タブを切り替えます。

4 - [RTF ドキュメントを開く] ボタン - RTF ファイルを選択するための「開く」ダイアログを表示します。

5 - [太字] ボタン - 選択したテキストを太字にするために `` タグを挿入します。

6 - [斜体] ボタン - 選択したテキストを斜体にするために `<i></i>` タグを挿入します。

7 - [下線] ボタン - 選択したテキストに下線を付けるために `<u></u>` タグを挿入します。

8 - [フォント] ボタン - 選択したテキストにスタイルやフォントを設定するために「フォントエディタ」を開いて、テキストに `<font=>` タグを挿入します。

9 - [色] ボタン - 選択したテキストに色を設定するために「色の設定」エディタを開いて、テキストに `` タグを挿入します。

10 - [左揃え] ボタン - 選択したテキストを左揃えにするために、テキストに `<p></p>` タグを挿入します。

11 - [中央揃え] ボタン - 選択したテキストを中央揃えにするために、テキストに `<p align="center"></p>` タグを挿入します。

12 - [右揃え] ボタン - 選択したテキストを右揃えにするために、テキストに `<p align="right"></p>` タグを挿入します。

13 - [両端揃え] ボタン - 選択したテキストを両端揃えにするために、テキストに `<p align="justify"></p>` タグを挿入します。

14 - [スペースを挿入] ボタン - スペースを表示するために、テキストに ` ` タグを挿入します。

15 - [改行を挿入] ボタン - 改行するために、テキストに `
` タグを挿入します。

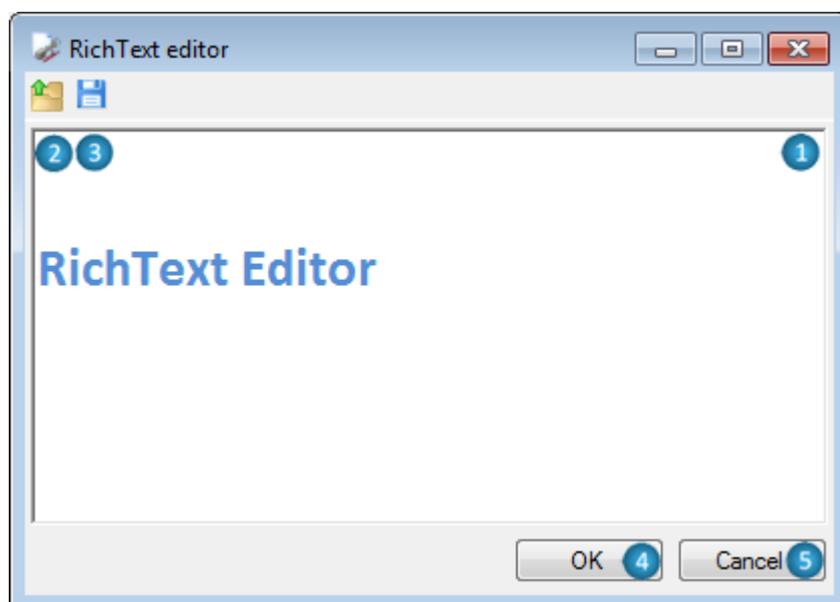
16 - [OK] ボタン - 変更を適用し、エディタを閉じます。

17 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルし、エディタを閉じます。

RichText エディタ

このエディタで RTF テキストを読み込んだり編集したりします。

このエディタは RichText オブジェクトをダブルクリックするか、RichText オブジェクトをを選択した時にホットキー : **Ctrl + Enter** を入力するか、プロパティグリッドの RichText オブジェクトの RTFText プロパティのボタンで開きます。



1 - テキストを入力する領域

2 - [ファイルを開く] ボタン - RTF ファイルを選択するために「開く」ダイアログを表示します。

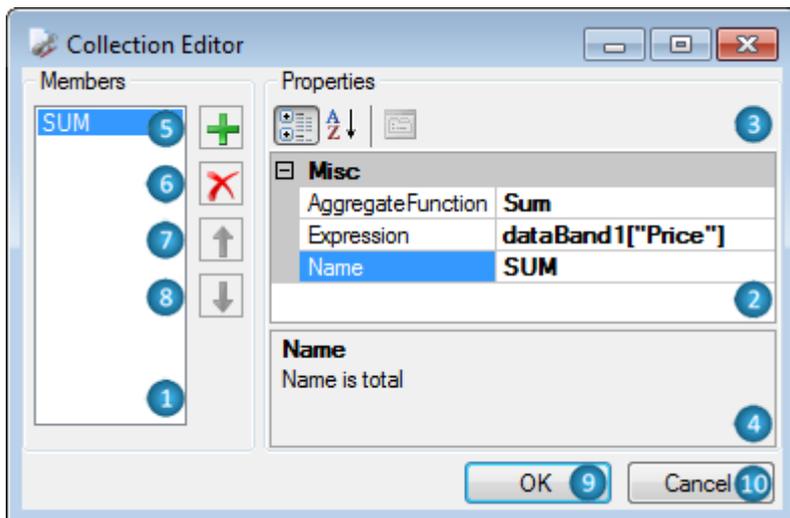
3 - [ファイルに保存] ボタン - テキストを RTF ファイルに保存するために「名前を付けて保存」ダイアログを表示します。

4 - [OK] ボタン - 変更を適用して、エディタを閉じます。

5 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルして、エディタを閉じます。

コレクションエディタ

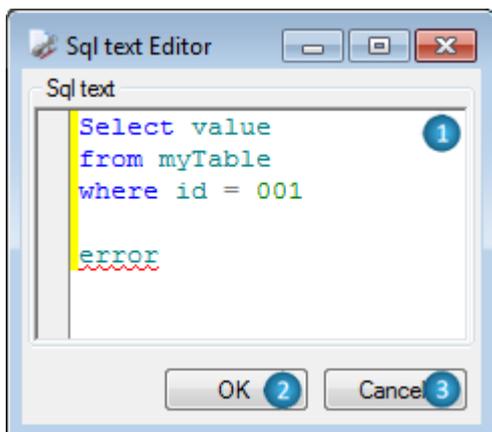
コレクションエディタは、コレクションにメンバーを入力したりそのプロパティを設定したりします。このエディタはプロパティグリッドのプロパティの「(コレクション)」の隣にあるボタンで呼び出されます。



- 1 - コレクションのメンバー一覧。Name プロパティがリストに表示されます。
- 2 - プロパティグリッド - コレクションのメンバーのプロパティの表。プロパティの編集が行えます。
- 3 - プロパティグリッドのプロパティの表示モードの切り替え
- 4 - この領域は、選択したテキストの説明を表示します。
- 5 - このボタンはコレクションに新しいメンバーを追加します。
- 6 - このボタンは選択したメンバーをコレクションから削除します。
- 7 - このボタンはリストのメンバーを上に移動します。
- 8 - このボタンはリストのメンバーを下に移動します。
- 9 - OK - このボタンは変更を適用してエディタを閉じます。
- 10 - キャンセル - このボタンは変更をキャンセルしてエディタを閉じます。

SQL テキストエディタ

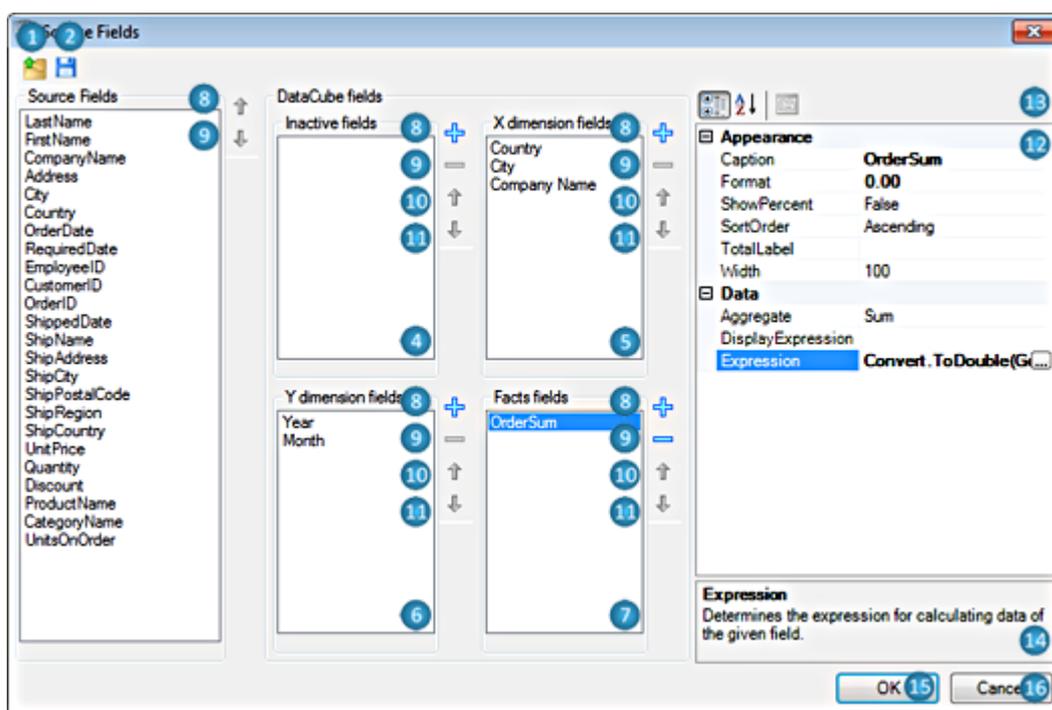
SQL コマンドを入力するためのエディタ。この SQL テキストエディタはデータソースを設定するためのもので、ドキュメントのデータソース エディタからボタンで開きます。このボタンは、プロパティグリッドの SelectQuery プロパティにあります。



- 1 - SQL コマンドの出力領域。SQL スクリプト コマンド エディタは構文を強調表示したり選択を変更したりします。
- 2 - OK - 変更を適用してエディタを閉じます。
- 3 - キャンセル - 変更をキャンセルしてエディタを閉じます。

ソース フィールド

ピボットテーブルのデータエディタは、データ形式やレイアウトを設定できます。このエディタは PivotTable の Layout プロパティのボタンか、ピボットテーブルウィザードの「レイアウトの構成」ボタンで開きます。

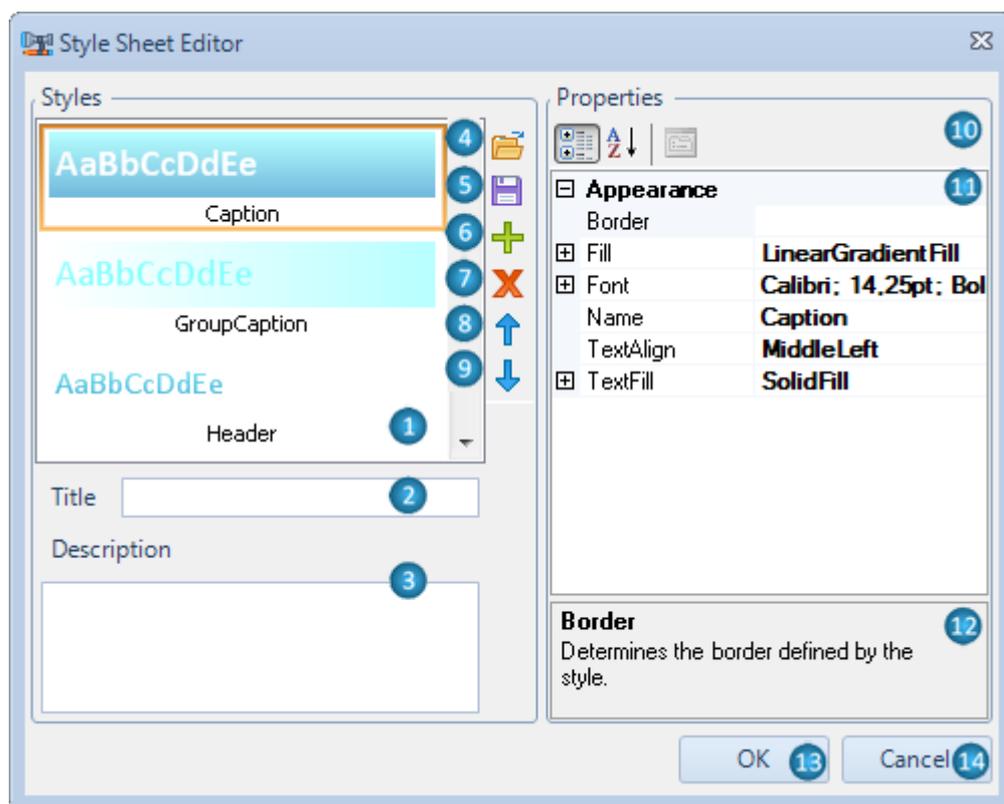


- 1 - [開く] ボタン - データ設定を読み込むために、「開く」ダイアログウィンドウを開いて Data cube layout ファイル (.dcl) を選択できます。
- 2 - [保存] ボタン - データ設定を保存するために「名前を付けて保存」ダイアログウィンドウを開きます。
- 3 - ソースフィールド - データソースのフィールド一覧
- 4 - 除外するフィールド - 除外するフィールド一覧
- 5 - X ディメンションフィールド - ピボットテーブルの水平方向の見出しのフィールド一覧
- 6 - Y ディメンションフィールド - ピボットテーブルの垂直平方向の見出しのフィールド一覧
- 7 - ファクトフィールド - ピボットテーブルのデータのフィールド一覧
- 8 - [新規フィールド] ボタン - 一覧に新規フィールドを追加します。
- 9 - [削除] ボタン - 選択したフィールドを一覧から削除します。
- 10 - [上] ボタン - 一覧のフィールドを上に移動します。
- 11 - [下] ボタン - 一覧のフィールドを 1 つ下に移動します。
- 12 - プロパティグリッド - プロパティの編集が行えるプロパティグリッドのフィールド
- 13 - プロパティグリッドのプロパティの表示モードを切り替えます。

- 14 - 説明 - 選択したプロパティの説明を表示する領域です。
- 15 - [OK] ボタン - 変更を適用してエディタを閉じます。
- 16 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルしてエディタを閉じます。

スタイルシート エディタ

スタイルシートエディタはテンプレートのスタイルを作成したり編集したりすることができます。このエディタは、「ホーム」リボンタブと（オブジェクトを選択すると表示される）「形式」リボンタブの [スタイルの編集] ボタンで開きます。



- 1 - スタイル - スタイルの一覧
- 2 - タイトル - 設定したスタイル名
- 3 - 説明 - 設定したスタイルの説明を表示します。
- 4 - [開く] ボタン - スタイルを読み込むために、「スタイルシートの読込」ダイアログウィンドウを開いて StyleSheet ファイル (.rss) を選択できます。
- 5 - [保存] ボタン - 設定したスタイルを保存するために、「スタイルシートの保存」ダイアログウィンドウを開きます。
- 6 - [スタイルの追加] ボタン - 新しいスタイルを追加します。
- 7 - [スタイルの削除] ボタン - 選択したスタイルを削除します。
- 8 - [スタイルを上に移動] ボタン - 一覧で選択したスタイルを上に移動します。
- 9 - [スタイルを下に移動] ボタン - 一覧で選択したスタイルを下に移動します。
- 10 - プロパティグリッドのプロパティの表示モードを切り替えます。

11 - プロパティグリッド - スタイルのプロパティグリッドで、**Border**、**Fill**、**Font**、**Name**、**TextAlign**、**TextFill** プロパティの編集が行えます。

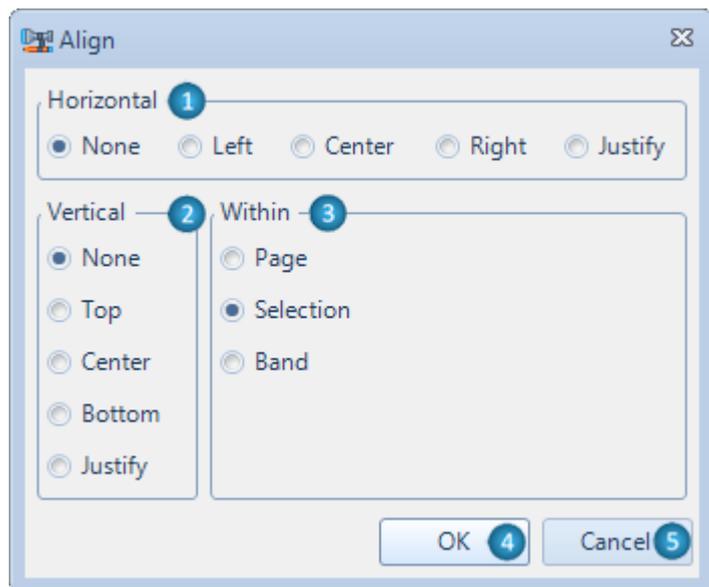
12 - 説明 - 選択したプロパティの説明を表示します。

13 - [OK] ボタン - 変更を適用してエディタを閉じます。

14 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルしてエディタを閉じます。

整列エディタ

このエディタはテンプレートのオブジェクトの位置を設定できます。このエディタは「レイアウト」リボンタブの [整列] ボタンで開きます。



1 - 水平 - 選択したオブジェクトの水平方向の位置やサイズを変更できます。

なし - 位置合わせなし

左 - 最左端のオブジェクトの左枠に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

中央 - オブジェクトを最右端と最左端の中央に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

右 - 最右端のオブジェクトの右枠に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

両端揃え - オブジェクトの幅を右側のオブジェクトから左側のオブジェクトまでの間隔で設定します (**Size** と **Location** プロパティを設定します)。

2 - 垂直 - 選択したオブジェクトの垂直方向の位置やサイズを変更できます。

なし - 位置合わせなし

上 - 最上端の上枠に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

中央 - オブジェクトを最上端と最下端の中央に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

下 - 最下端のオブジェクトの下枠に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

両端揃え - オブジェクトの高さを上端のオブジェクトから下端のオブジェクトまでの間隔で設定します (**Size** と **Location** プロパティを設定します)。

3 - 範囲 - 選択した要素の位置を中央に変更できます。



ページ - 選択したオブジェクトが貼り付けられているページの中央に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

選択 - 選択したオブジェクトの領域を中央に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

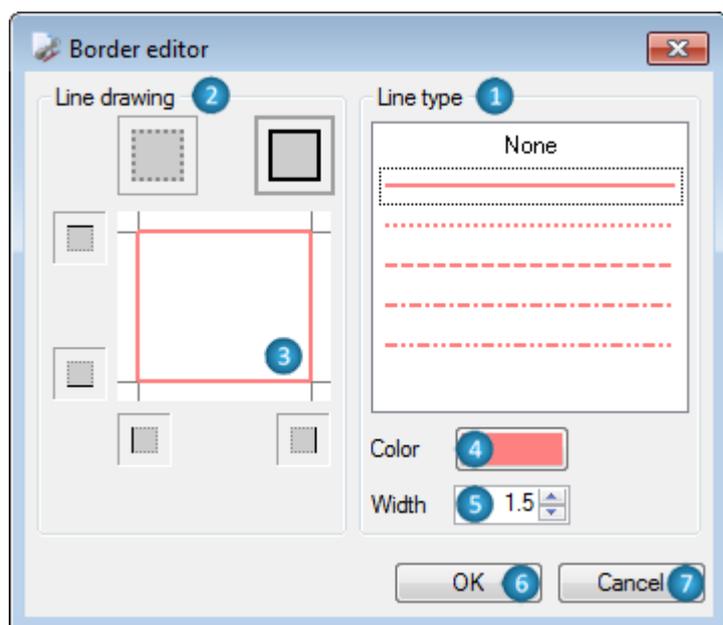
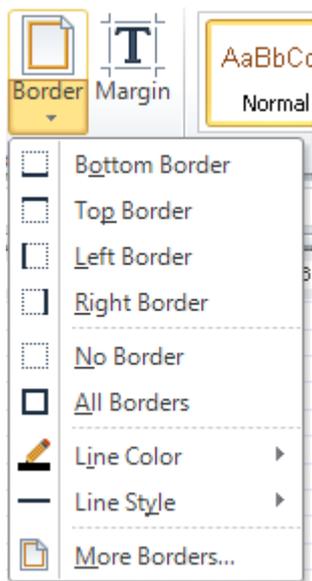
バンド - 選択したオブジェクトが貼り付けられているバンドコンテナの中央に揃えます (**Location** プロパティを設定します)。

4 - [適用] ボタン - 変更を適用します。

5 - [閉じる] ボタン - エディタを閉じます。

枠エディタ

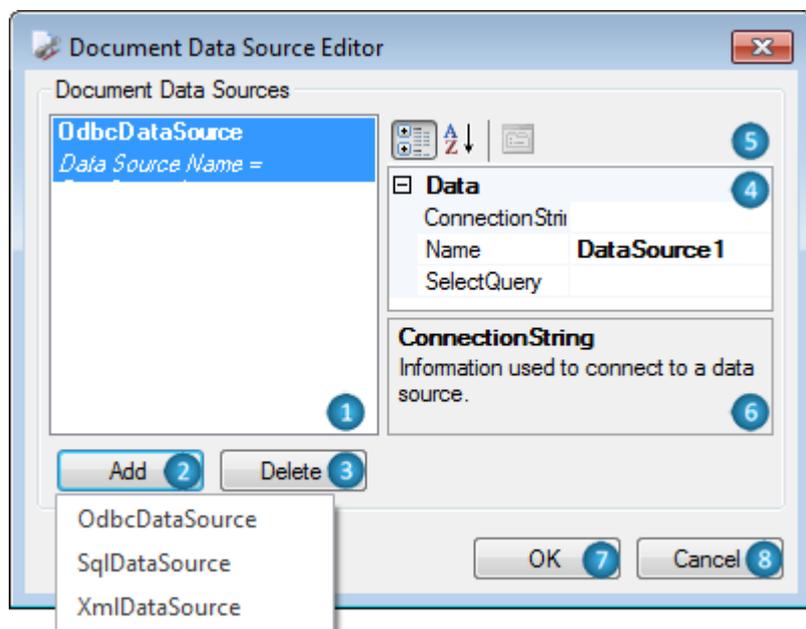
オブジェクトの枠を設定するエディタです。このエディタはプロパティグリッドの **Border** プロパティのボタンか、「ホーム」タブや一部のコンテキストタブの「枠」ボタンで開きます。



- 1 - 線の種類 - 線の種類の一覧で、枠線を選択できます。
- 2 - 描画する線- 枠線の位置を選択する領域
- 3 - 設定した枠を表示する領域
- 4 - [色] ボタン - 枠線の色を選択するために色エディタを開きます。
- 5 - 幅 - このカウンタは枠線の幅を設定します。
- 6 - [OK] ボタン - 変更を適用してエディタを閉じます。
- 7 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルしてエディタを閉じます。

ドキュメントのデータソース

データソースを組み込むためのコレクションエディタで、テンプレートにデータソース (Document.DataSources プロパティ) を設定できます。このエディタは、プロパティグリッドの Document オブジェクトの DataSource プロパティのボタンで開きます。



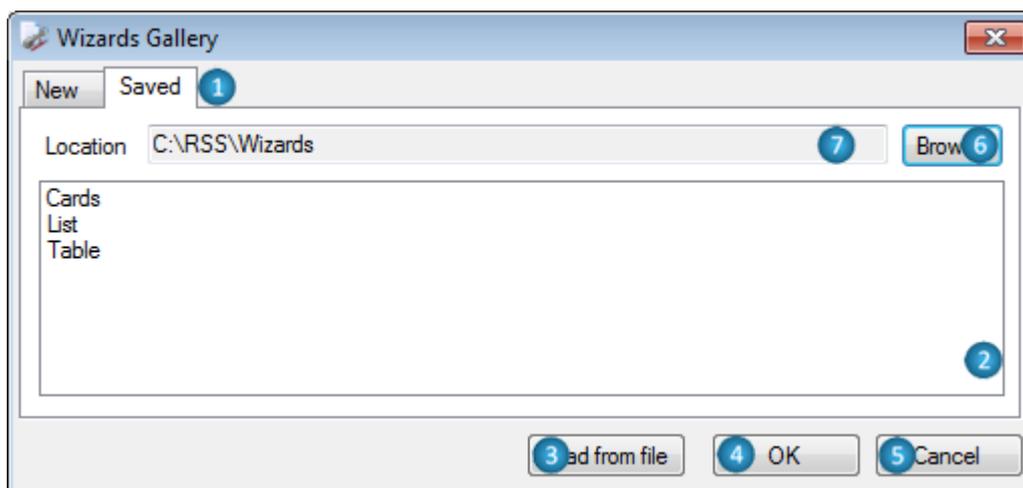
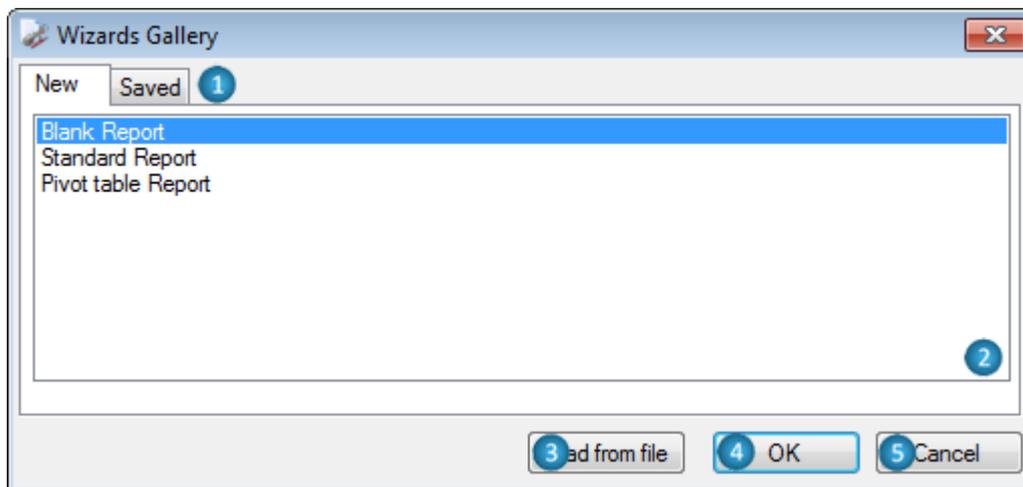
- 1 - ドキュメントのデータソース - ドキュメントのデータソースの一覧
- 2 - [追加] ボタン - テンプレートに追加するデータソース型 (SqlDataSource、OdbcDataSource、XmlDataSource) の一覧を開きます。
- 3 - [削除] ボタン - 選択したデータソースを削除します
- 4 - プロパティグリッド - データソースのプロパティグリッド。プロパティを編集できます。
- 5 - プロパティグリッドのプロパティの表示モードの切り替え
- 6 - 説明 - この領域は選択したテキストの説明を表示します。
- 7 - [OK] ボタン - 変更を適用してエディタを閉じます。
- 8 - [キャンセル] ボタン - 変更をキャンセルしてエディタを閉じます。

ウィザード

ウィザードは、シンプルレポートを素早く作成するために使用します。

ウィザードギャラリー

シンプルレポートの作成方法を選択できます。ウィザードギャラリーは[ファイル/新規]メニューまたはキーの組み合わせ (Ctrl + N) で呼び出されます。



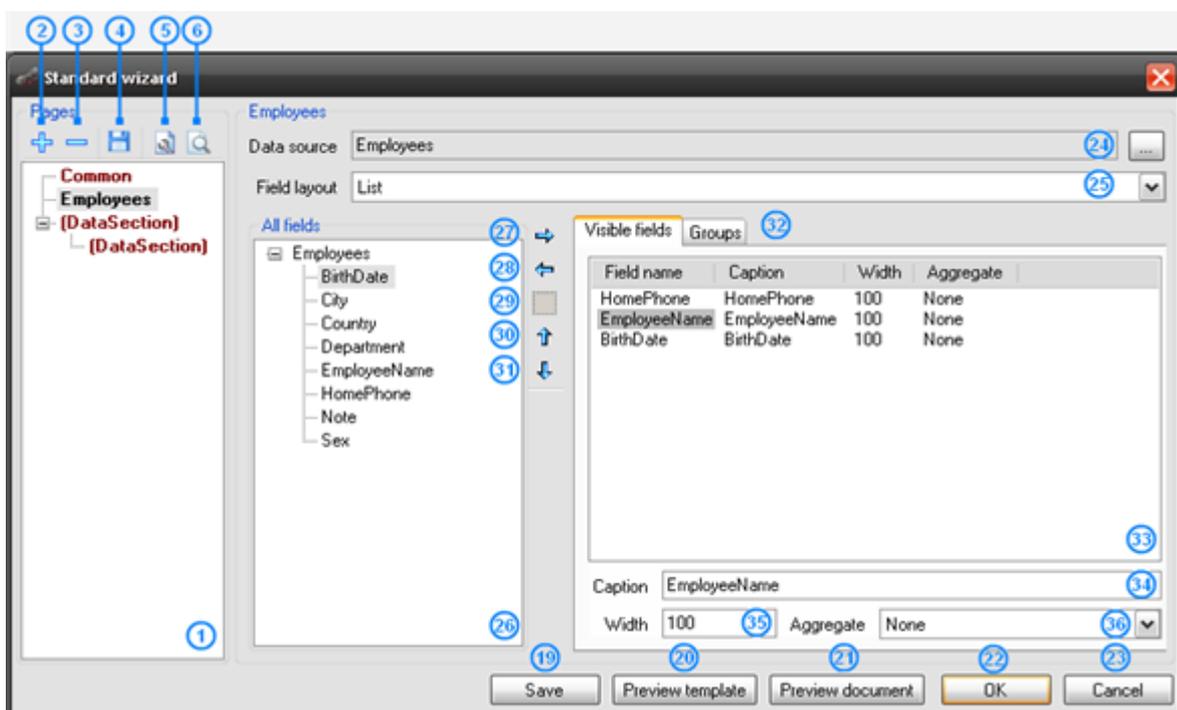
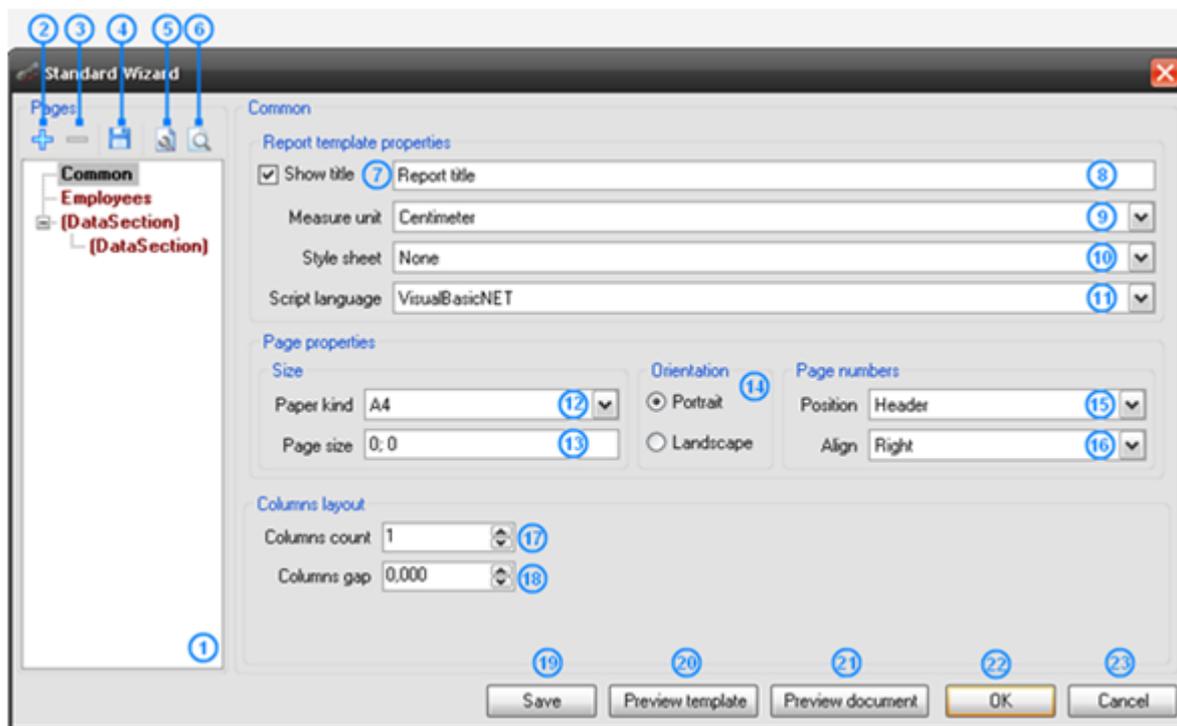
- 1 - 「新規」タブと「保存」タブを切り替えます。
- 2 - 新規レポートの作成方法のリスト：
 - 白紙 - 新しい白紙のレポートを作成します。
 - 標準のレポート - スタンダードウィザードを呼び出します。
 - ピボットテーブルレポート - ピボットテーブルウィザードを呼び出します。
- 3 - [ファイルから読み込] ボタン - 「ウィザードファイルを開く」ダイアログを開きます。
- 4 - [OK] ボタン - 新しい白紙のテンプレートを作成するか、選択したパラメータのウィザードを開きます。
- 5 - [キャンセル] ボタン - ウィザードギャラリーを閉じます。
- 6 - [参照] ボタン - 保存してあるウィザードファイルのフォルダを選択するために「フォルダの参照」ダイアログを呼び出します。
- 7 - 位置 - このフィールドは保存してあるウィザードファイルのフォルダのアドレスを表示/設定します。

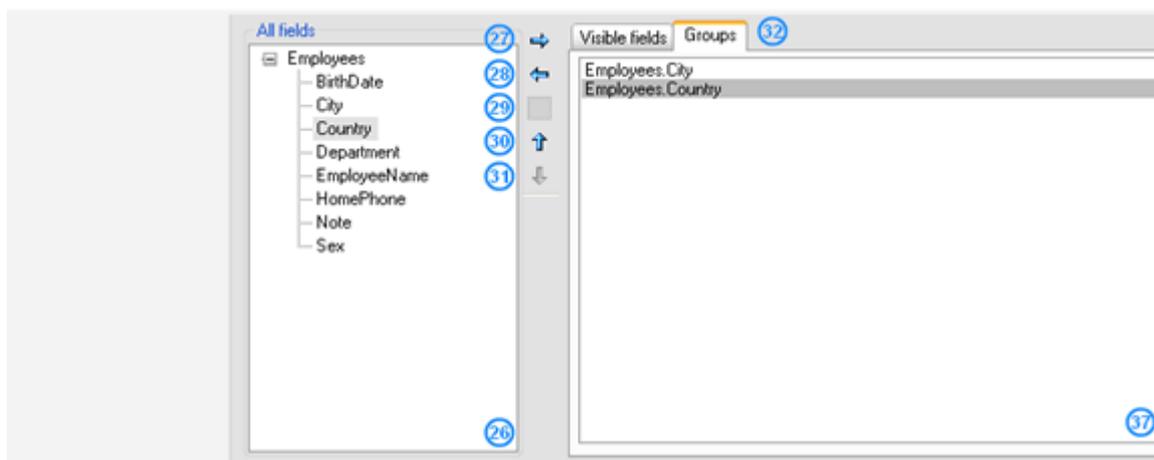


8 - 「位置」フィールドに指定したフォルダにあるウィザードファイルの一覧

スタンダードウィザード

スタンダードウィザードは標準のレポート（リストやグループを含む）を作成できます。スタンダードウィザードは、[ウィザードギャラリー](#)ダイアログから呼び出されます。





- 1 - このデータツリーはレポートの共通設定と追加したデータセクションを表示します。設定モードの切り替えが可能。
- 2 - [データの追加] ボタン - データセクションを追加します。
- 3 - [データの削除] ボタン - データセクションを削除します。
- 4, 19 - [ウィザードの保存] ボタン - ウィザードの設定を保存先フォルダやファイル名を選択するために、「Save Wizard File」ダイアログウィンドウを開きます。
- 5, 20 - [テンプレートのプレビュー] ボタン - 設定したパラメータでテンプレートを作成し、レポートデザイナーに表示します。
- 6, 21 - [ドキュメントのプレビュー] ボタン - 設定したパラメータでレポートを生成し、レポートビューアに最終ドキュメントを表示します。
- 7 - タイトルを表示 - レポートにタイトルを表示するかを設定します。
- 8 - レポートのタイトル - このフィールドはレポート名を設定します (Document.Title プロパティを設定します)。
- 9 - 計測単位 - 計測単位のリストで、テンプレートの計測単位を選択できます (Document.MetricUnit を設定します)。
- 10 - スタイルシート - スタイルの一覧で、レポートのスタイルを選択できます (Document.StyleSheet プロパティを設定します)。
- 11 - スクリプト言語 - サポートされているプログラミング言語の一覧で、レポートに記述するスクリプト言語を選択できます (Document.ScriptLanguage プロパティを設定します)。
- 12 - 用紙サイズ - レポートの用紙サイズのリスト (Page.PaperKind プロパティを設定します)。
- 13 - ページサイズ - このフィールドはレポートの用紙サイズを設定します (Page.CustomSize プロパティを設定します)。
- 14 - 向き - このラジオボタンはレポートの用紙の向きを設定します (Page.Orientation プロパティを設定します)。
- 15 - 位置 - 見出しの位置を選択する値リスト。テンプレートにページ番号を表示するための見出しの位置 (なし、ヘッダー、フッター、両方) を選択できます。
- 16 - 整列 - 見出しに表示するページ番号 (テキスト) の位置を選択するための値リスト (左、中央、右)。
- 17 - 列数 - レポートのリストの列数を設定するカウンタです (DataBand.ColumnsCount プロパティを設定します)。



18 - 列の間隔 - レポートのリストの列の間隔を設定するカウンタです (`DataBand.ColumnsCount` プロパティを設定します)。

22 - [OK] ボタン - ウィザードでの作業を終了し、選択したパラメータでテンプレートを作成し、レポートデザイナーに表示します。

23 - [キャンセル] ボタン - ウィザードの設定をキャンセルします。

24 - [データソース] ボタン - データソースを選択するデータソースツリーを開きます。フィールドには選択したデータソースの名前が表示されます。

25 - フィールドのレイアウト - このリストはデータの表示方法を選択できます。

26 - 全フィールド - データソースフィールドのツリー

27 - [右に移動] ボタン - データソースツリーから選択したフィールドを「表示フィールド」または「グループ」の一覧に追加します。これにより、**Caption**、**Width**、**Aggregate** プロパティの値は規定値に設定されません。

28 - [左に移動] ボタン - 「表示フィールド」または「グループ」から選択したフィールドを削除します。

29 - [Add Blank] ボタン - 「表示フィールド」にプロパティが設定されていないフィールドを追加します。

30 - [上に移動] ボタン - 「表示フィールド」または「グループ」で選択したフィールドを上に移動します。

31 - [下に移動] ボタン - 「表示フィールド」または「グループ」で選択したフィールドを下に移動します。

32 - 「表示フィールド」と「グループ」を切り替えます

33 - 表示フィールド - これはレポートを作成するためのフィールドの表で、追加したフィールドとそのプロパティを表示します。フィールドはデータソースから追加するか、新しいフィールドを追加できます。

FieldName プロパティはフィールド名を表示します。**Caption** プロパティは表示フィールドのタイトルを表示します。**Width** プロパティは列幅を設定します。**Aggregates** プロパティは集計関数を設定します。

34 - キャプション - このフィールドは「表示フィールド」のレコードの **Caption** プロパティを設定します。レポートに出力するフィールドタイトルを設定するためにオブジェクトの **Textbox.Text** プロパティを設定します。

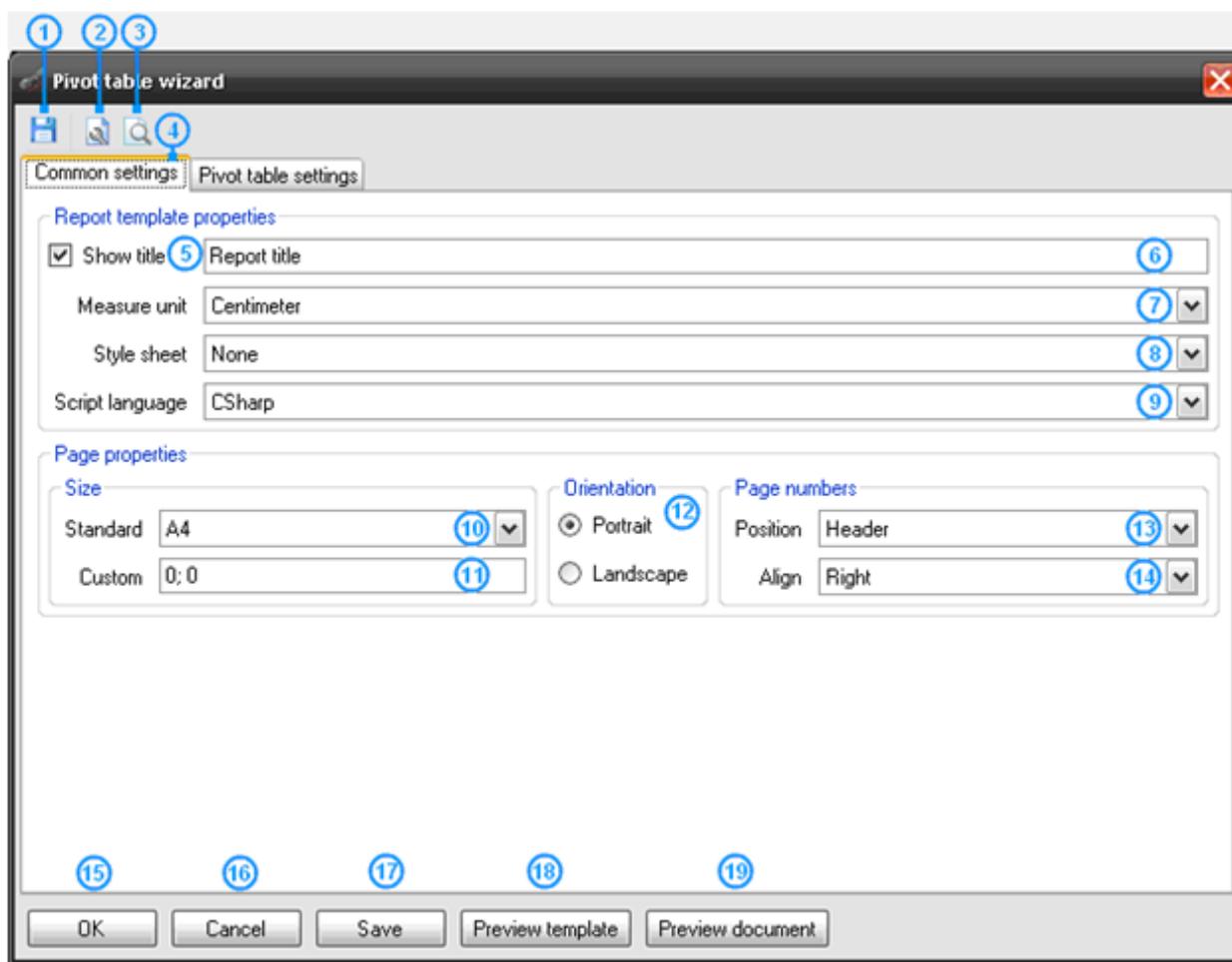
35 - 幅 - このフィールドは「表示フィールド」のレコードの **Width** プロパティを設定し、リストの列幅をパーセントで定義します。

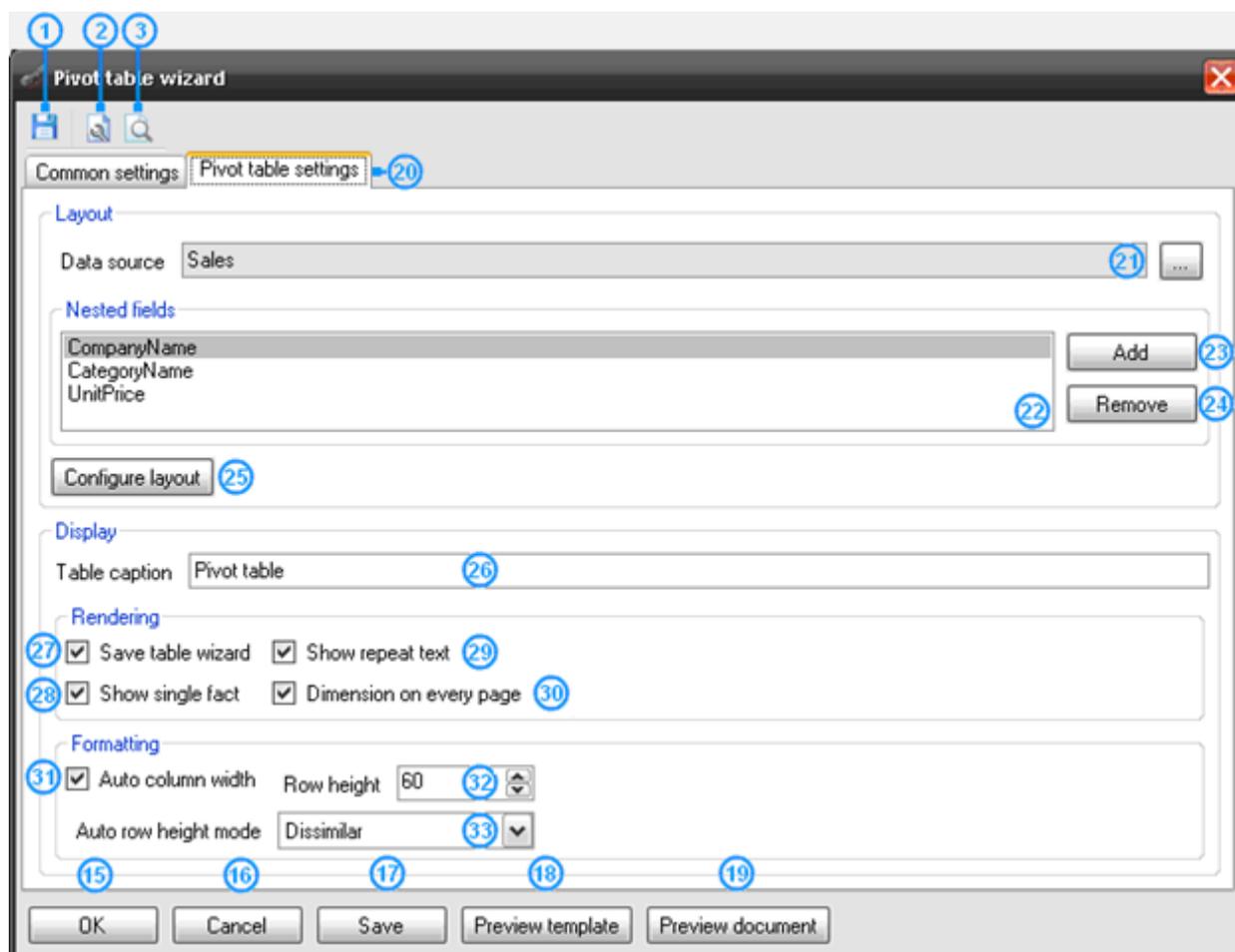
36 - 集計 - これは集計関数のリストで、フィールドごとに集計値を計算するための関数を選択できます。値はリストの末尾に出力されます。

37 - グループ - リストをグループ化するためのデータソースのフィールド一覧です。

ピボットテーブルウィザード

ピボットテーブルウィザードは、ピボットテーブルのレポートを作成できます。[ウィザードギャラリー](#) ダイアログから呼び出します。





1, 17 - [ウィザードの保存] ボタン - ウィザードの設定を保存先フォルダやファイル名を選択するために「名前を付けて保存」ダイアログウィンドウを呼び出します。

2, 18 - [テンプレートのプレビュー] ボタン - 選択したパラメータでテンプレートを作成し、レポートデザイナーに表示します。

3, 19 - [ドキュメントのプレビュー] ボタン - 選択したパラメータでレポートを生成し、それをレポートビューアに表示します。

4 - 共通設定 - レポートの共通設定タブ。

5 - タイトルを表示 - レポートにタイトルを表示するかを設定します。

6 - レポートのタイトル - レポート名を設定します (`Document.Title` プロパティを設定します)。

7 - 計測単位 - テンプレートの計測単位を選択できる計測単位の一覧 (`Document.MetricUnit` プロパティを設定します)。

8 - スタイルシート - レポートのスタイルを選択できるスタイルの一覧 (`Document.StyleSheet` プロパティを設定します)。

9 - スクリプト言語 - レポートに記述するスクリプト言語を設定できる、サポートされているプログラミング言語の一覧 (`Document.ScriptLanguage` プロパティを設定します)。

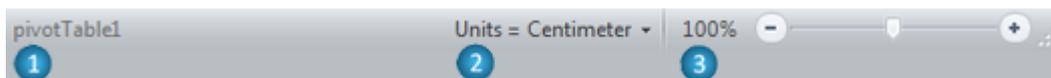
10 - 標準 - レポートの用紙サイズを選択できる用紙サイズの一覧 (`Page.PaperKind` プロパティを設定します)。

11 - カスタム - レポートのページサイズを設定します (`Page.CustomSize` プロパティを設定します)。



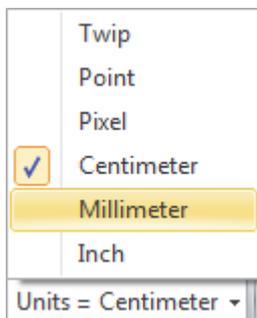
- 12** - 向き - レポートのページの向きを設定します (**Page.Orientation** プロパティを設定します)。
- 13** - 位置 - テンプレートの見出しの位置を選択する値リスト。テンプレートにページ番号を表示するための見出しの位置 (なし、ヘッダー、フッター、両方) を選択できます。
- 14** - 整列 - 見出しに表示するテキストの位置を選択できる一覧。
- 15** - [OK] ボタン - ウィザードでの作業を終了し、選択したパラメータでテンプレートを作成し、レポートデザイナーに表示します。
- 16** - [キャンセル] ボタン - ウィザードの設定をキャンセルします。
- 20** - ピボットテーブル設定 - ピボットテーブル設定タブ。
- 21** - [データソース] ボタン - ピボットテーブルのデータソースを選択するツリーを開きます。このフィールドは選択したデータソースを表示します。
- 23** - [追加] ボタン - 入れ子のフィールド一覧に新規フィールドを追加します。
- 24** - [削除] ボタン - 選択したフィールドを入れ子のフィールドの一覧から削除します。
- 25** - [レイアウトの構成] ボタン - ピボットテーブルのデータを編集する [ソースフィールド](#) エディタを開きます。
- 26** - テーブルのタイトル - テーブルのタイトルを設定します (**PivotTable.TableCaption** プロパティを設定します)。
- 28** - 単一ファクトの表示 - ファクト列のタイトルの表示/非表示を設定します (**PivotTable.ShowSingleFact** プロパティを設定します)。
- 29** - テキストの繰り返し表示 - 新しいページにテキストを繰り返し表示するかを設定します (**PivotTable.ShowRepeatText** プロパティを設定します)。
- 30** - 各ページにディメンションを表示 - 各ページにディメンションを表示するかを設定します (**PivotTable.DimensionOnEveryPage** プロパティを設定します)。
- 31** - 自動列幅 - 列の規定幅を設定します (**PivotTable.AutoColumnWidth** プロパティを設定します)。
- 32** - 行の高さ - 行の高さを設定するカウンタ (**PivotTable.RowHeight** プロパティを設定します)。
- 33** - 自動による行の高さモード - 行の自動高さモードを設定する一覧 (**PivotTable.AutoRowHeight** プロパティを設定します)。

ステータスバー

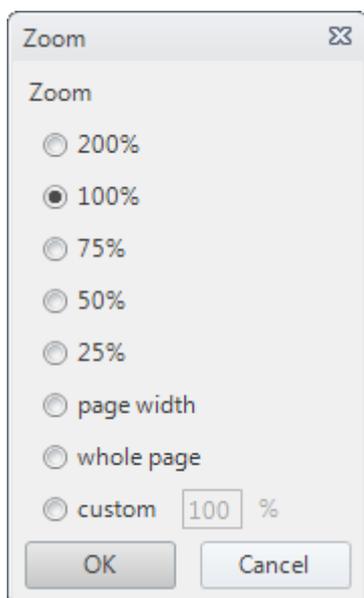


1 - 現在、カーソルの下にあるオブジェクトの名前。

2 - 計測単位を設定するためのコントロール。



3 - 手動で倍率を入力するために「ズーム」ダイアログを開くボタン。



「ズーム」のスライダは倍率を設定します。



ホットキー

ホットキー	説明
デザイン	
F2	「選択」モードをオン/オフに切り替えます
F3	「パン」モードをオン/オフに切り替えます
F4	「ズームイン」モードをオン/オフに切り替えます
F5	「ズームアウト」モードをオン/オフに切り替えます
F6	「矩形に合わせてズーム」モードをオン/オフに切り替えます
F7	「ダイナミックズーム」モードをオン/オフに切り替えます
F10	「メニュー」モードをオン/オフに切り替えます
Space + マウスドラッグ	「パン」モードをオン/オフに切り替えます
Ctrl + マウスホイール	ズーム
クリップボード	
Ctrl + Insert	選択したものをコピーし、クリップボードに貼り付けます。
Ctrl + C	
Shift + Insert	クリップボードの内容を貼り付けます。
Ctrl + V	
Shift + Delete	選択したものを切り取り、クリップボードに貼り付けます。
Ctrl + X	
Ctrl + マウスドラッグ	選択したものをコピーします
Ctrl + Alt + V	クリップボードの内容を新規ページに貼り付けます
テンプレート	
Ctrl + N	新しいテンプレートを作成します
Ctrl + O	ファイルからテンプレート/ドキュメントを読み込みます
Ctrl + S	テンプレートの変更を保存します
ページ	
Ctrl + Page Up	次のページを表示します
Ctrl + Page Down	前のページを表示します
選択	
Ctrl + A	すべて選択
Ctrl + Shift + A	<ol style="list-style-type: none"> 現在のコンテナのすべての要素（および子要素）を選択します A を押す - 親コンテナを追加します A を押す - 親の兄弟要素（およびその子要素）をすべて追加します A を押す - 親の親を追加します ...
Ctrl + Shift + マウス (ドラッグして移動)	(矩形選択によって少なくとも 50% 選択された) すべての要素を選択します
Shift + マウスクリック	選択したものを追加/削除します
Ctrl + マウスクリック	
オブジェクトの操作	
Ctrl + Enter	選択されたオブジェクトのエディタを呼び出します (TextBox、AdvancedText、RichText、Picture、Chart、Widget に適用可能)
Enter	
Ctrl + Enter	変更を適用してエディタを閉じます
何度もクリック	多数のオブジェクトが重なり合っている場合、その重なり合っている領域



	を何度もクリックすると、手前（z インデックスの小さい）オブジェクトが選択されます。（最後のオブジェクトが選択されると、また最前面のオブジェクトが選択されます）
オブジェクトのプロパティ	
Ctrl + B	Font.Bold プロパティを設定します (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl + I	Font.Italic プロパティを設定します (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl + U	Font.Underline プロパティを設定します (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl + Shift + >	フォントサイズを大きくします (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl + Shift + <	フォントサイズを小さくします (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl +]	あるポイントのフォントサイズを大きくします (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl + [あるポイントのフォントサイズを小さくします (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl + L	テキストを左揃えにします (TextBox、AdvancedText に適用可能)
Ctrl + R	テキストを右揃えにします (TextBox、AdvancedText に適用可能)
Ctrl + E	テキストを中央揃えにします (TextBox、AdvancedText に適用可能)
Ctrl + Shift + F	Font プロパティを設定する「フォント」ダイアログを呼び出します (TextBox、AdvancedText、BarCode に適用可能)
Ctrl + Shift + B	Border プロパティを設定する「枠」エディタを呼び出します (Border プロパティを持っているオブジェクトに適用可能)
Ctrl + Shift + M	Margins プロパティを設定する「余白」エディタを呼び出します (Margins プロパティを持っているオブジェクトに適用可能)
Ctrl + Shift + L	Fill プロパティを設定する「塗りつぶし」エディタを呼び出します (Fill プロパティを持っているオブジェクトに適用可能)
Ctrl + Shift + T	Format プロパティを設定する「フォーマット」エディタを呼び出します (TextBox、AdvancedText に適用可能)
Ctrl + Shift +]	時計回りに Angle プロパティを設定します (Angle プロパティを持っているオブジェクトに適用可能)
Ctrl + Shift + [反時計回りに Angle プロパティを設定します (Angle プロパティを持っているオブジェクトに適用可能)
Ctrl + Alt + F	先頭に移動
Ctrl + Alt + B	末尾に移動